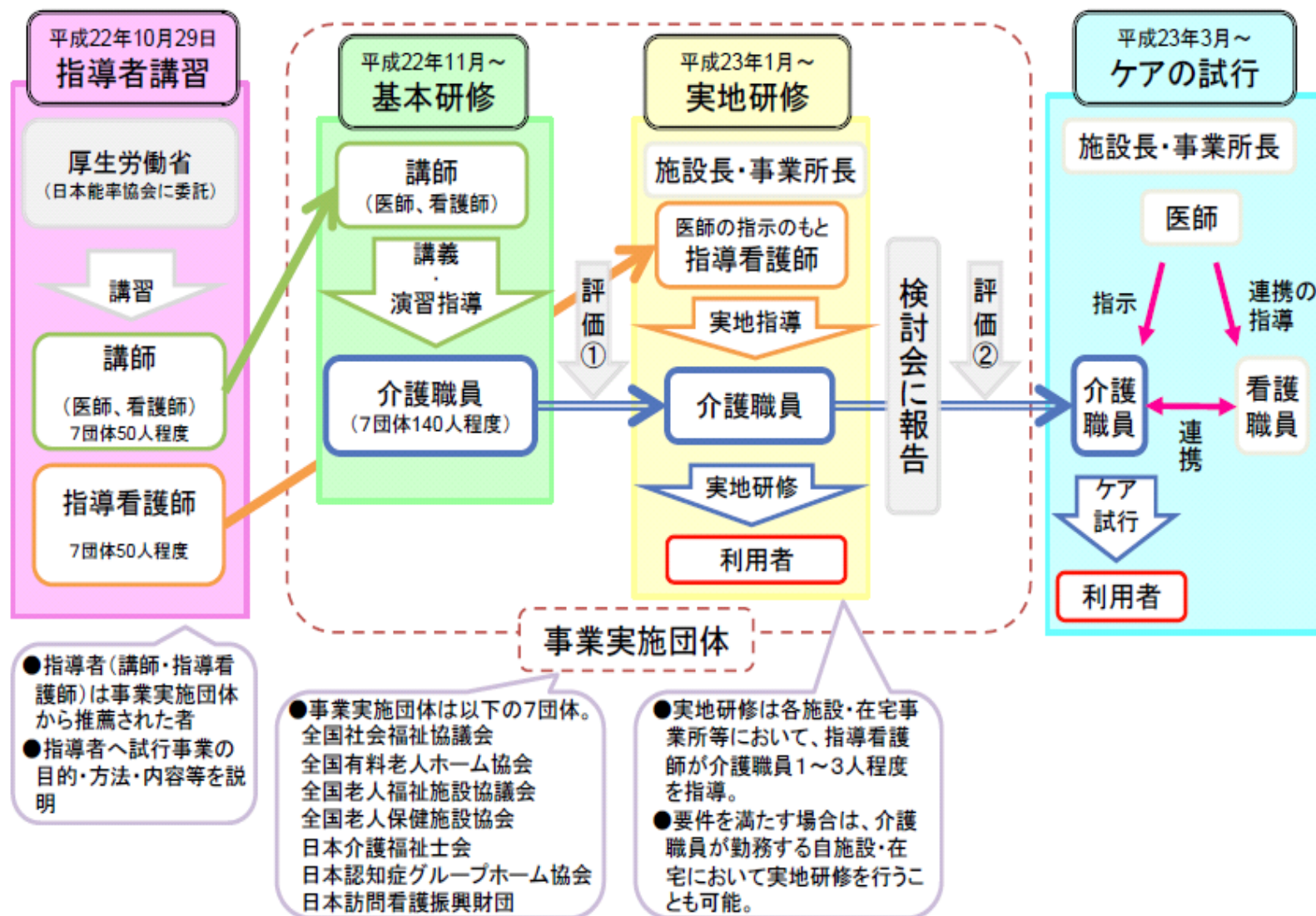


介護職員によるたんの吸引等の試行事業 （不特定多数の者対象）の概要と実施結果

介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）の概要



指導者講習について

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における指導者講習について

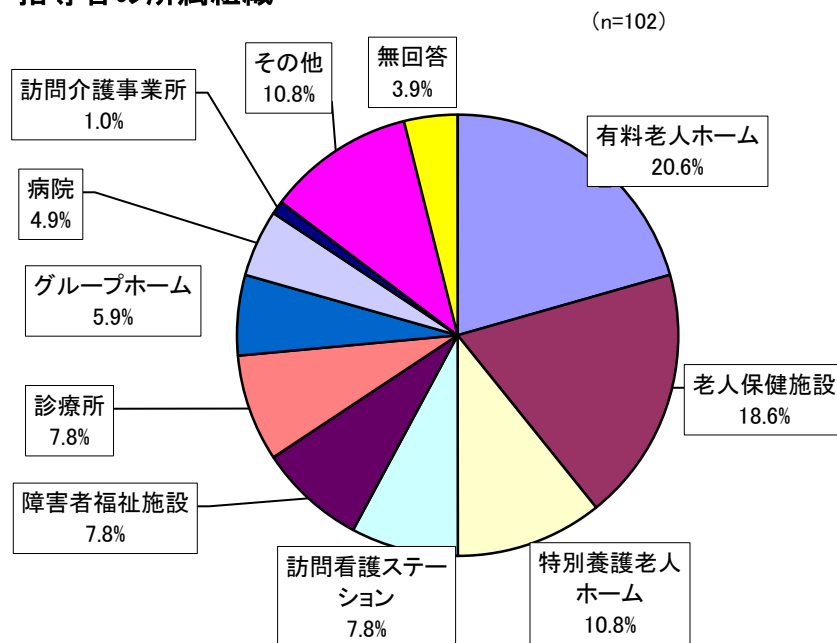
目的：介護職員の指導者に対して、「介護職員によるたんの吸引等の試行事業」の目的、内容及び方法を説明し、介護職員が安全なケアを実施できるような体制整備への理解を図る。

日時：平成22年10月29日(金)11時～17時

参加者：事業実施7団体から推薦された指導者102名(医師14名・看護師88名)

経験年数：平均23.3年(最長47年・最短4年)

指導者の所属組織



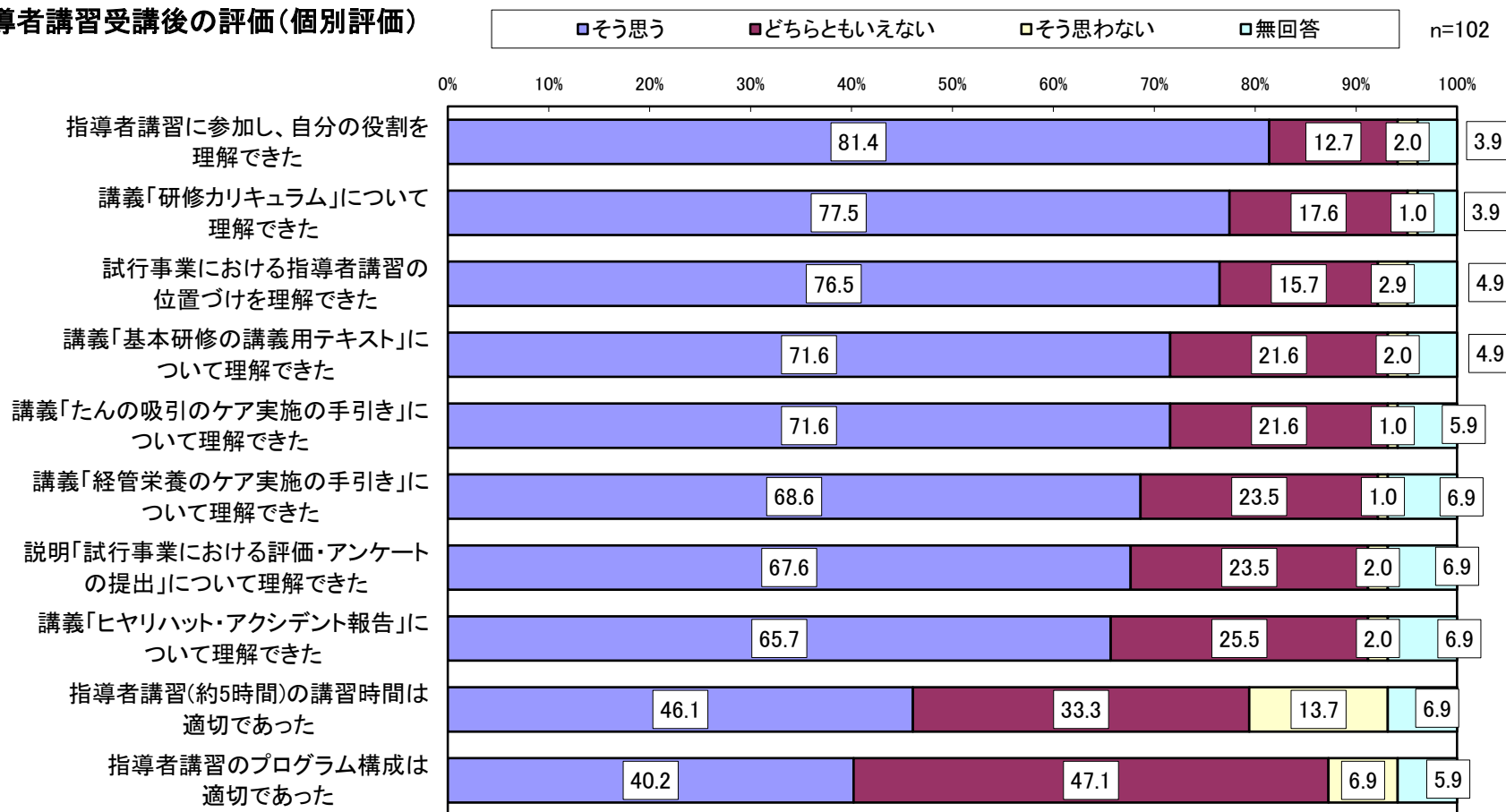
講習プログラム

講習内容	時間(分)
介護職員等によるたんの吸引等の実施のための検討会・試行事業について	60
研修カリキュラムについて	40
たんの吸引のケア実施の手引きについて	40
経管栄養のケア実施の手引きについて	40
ヒヤリハット・アクシデント報告について	20
評価票・アンケート票について	30
意見交換	30
計	260

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 指導者講習について

- 受講後の質問票調査では、各質問項目を理解できたについて「そう思う」が7割程度のなかで、講習時間及びプログラム構成の適切さは「そう思う」が4割程度と評価が低かった。

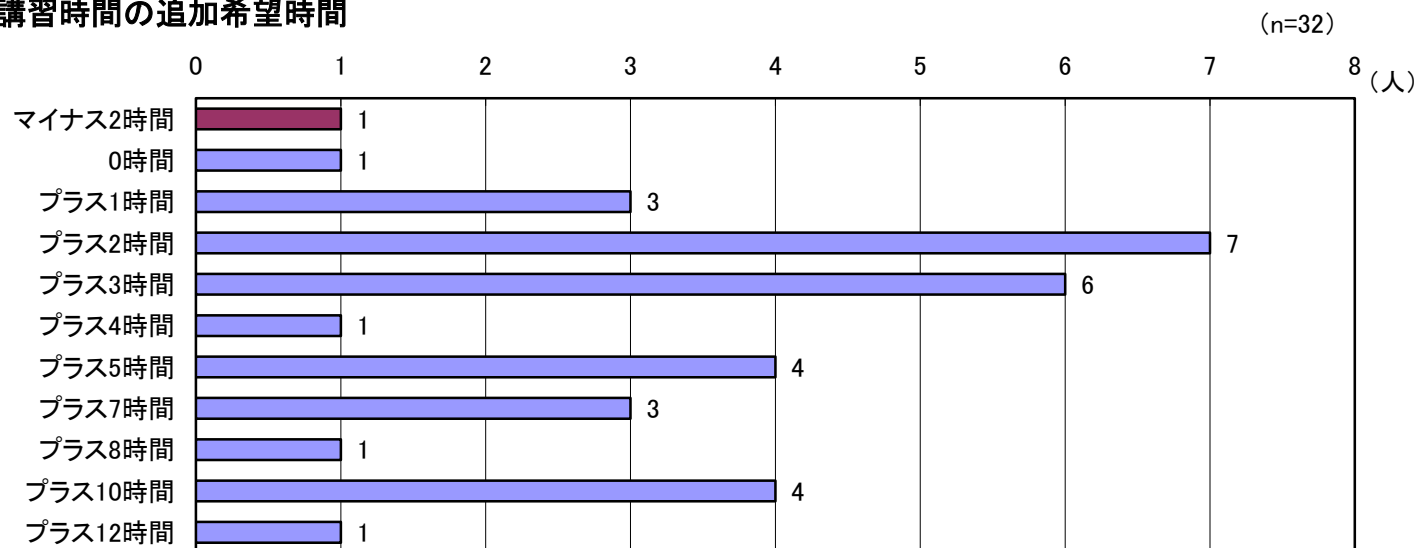
指導者講習受講後の評価(個別評価)



介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 指導者講習について

- 受講後の質問票調査では、「講習時間の適切さ」について「どちらともいえない」または「そう思わない」と回答した者(48名)のうち、30名が「現行(約5時間)の講習に加えて、時間追加が必要」と回答していた。

講習時間の追加希望時間

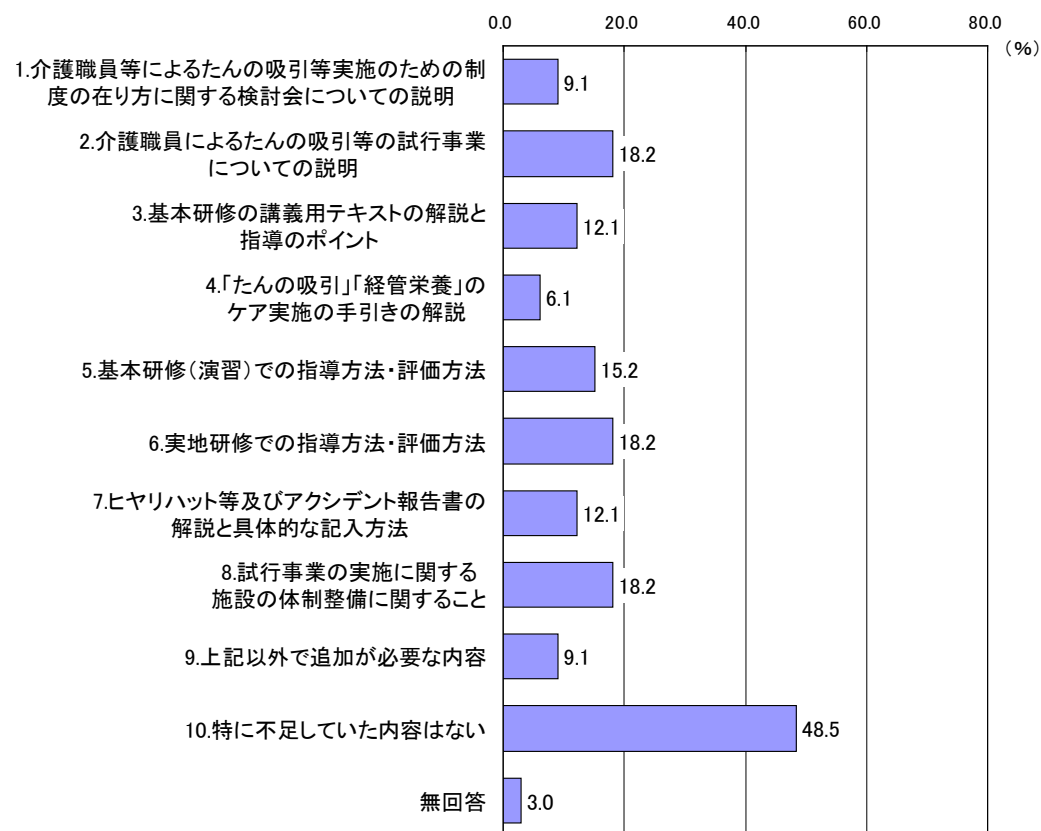


指導者講習に関する意見(自由記載)としては、「指導のポイントを、もっと具体的に、詳しく説明してほしかった」「安全性の担保について、もう少し強調して説明してもよいのではないか」「実際の物品を使用して演習指導を講習してもよかったのではないか」等の講習内容の充実を求める記載が複数あった。

ケアの試行後 指導者講習の評価結果

○ 指導者講習について、「特に不足していた内容はない」と回答した者が約5割であったが、試行事業に関する説明や研修での指導方法等について不足しているとの回答があった。

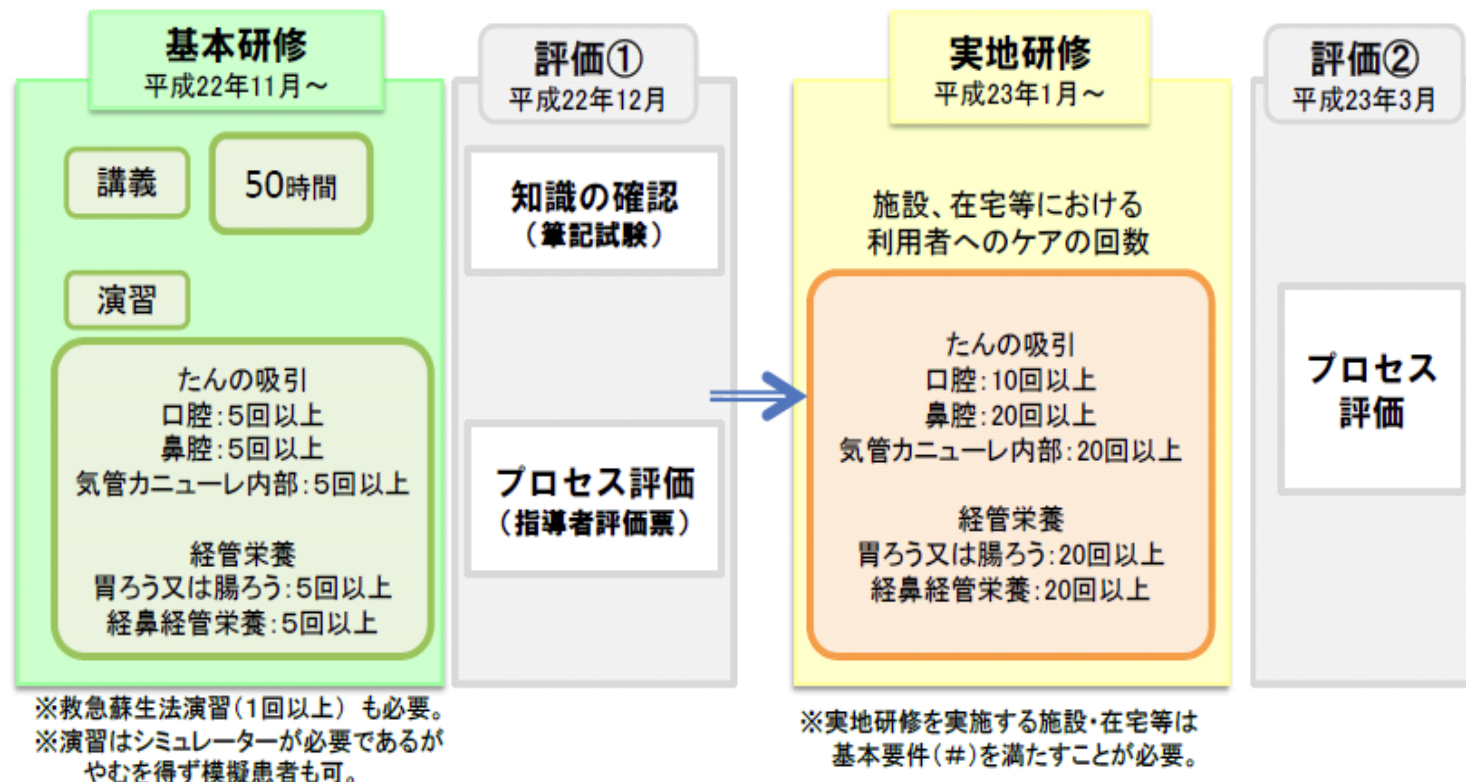
指導者講習の不足内容(複数回答)(連携看護職員) (n=33)



※連携看護職員のうち、「指導者講習(10/29開催)」の受講者33名が回答対象。

介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）の研修カリキュラムの概要

□研修カリキュラムの概要



#実地研修を実施する際に必要とされる基本要件

- ①組織的対応を理解の上、介護職員等が実地研修を行うことについて書面による同意
- ②医師から指導看護師に対する書面による当該行為の指示
- ③指導看護師の具体的な指導
- ④患者(利用者)ごとの個別計画の作成
- ⑤マニュアルの整備
- ⑥関係者による連携体制の確保
- ⑦指示書や実施記録の作成・保管
- ⑧緊急時対応の手順、訓練の実施
- ⑨たんの吸引及び経管栄養の対象となる患者が適当数入所又は利用している
- ⑩介護職員を受け入れる場合には、介護職員数名につき指導看護師が1名以上配置
- ⑪介護職員を指導する指導看護師は臨床等での実務経験を3年以上有し、指導者講習を受講している

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)の基本研修の概要

□基本研修 講義の内容・時間数

【基本研修・講義(50時間)】

大項目	中項目	講義時間
1.人間と社会	1)個人の尊厳と自立	0.5
	2)医療の倫理	0.5
2.保健医療制度とチーム医療	1)保健医療に関する制度	1
	2)医行為に関係する法律	0.5
	3)チーム医療と介護職との連携	0.5
3.安全な療養生活	1)たんの吸引や経管栄養の安全な実施	2
	2)救急蘇生法	2
4.清潔保持と感染予防	1)感染予防	0.5
	2)職員の感染予防	0.5
	3)療養環境の清潔、消毒法	0.5
	4)滅菌と消毒	0.5
5.健康状態の把握	1)身体・精神の健康	1
	2)健康状態を知る項目(バイタルサインなど)	1
	3)体温上昇について	0.5
	4)急変状態について	0.5

大項目	中項目	講義時間
6.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1)呼吸のしくみとはたらき	1
	2)いつもと違う呼吸状態	1
	3)たんの吸引とは	1
	4)人工呼吸器と吸引	1
	5)成人と小児の吸引の違い	1
	6)吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応	1
	7)事前説明(声かけ)と同意、事後の確認	1
	8)呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して)	1
	9)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認	1
	10)急変・事故発生時の対応と事前対策	2
7.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説	1)たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	1
	2)吸引の技術と留意点	5
	3)たんの吸引に伴うケア	1
	4)報告及び記録	1

大項目	中項目	講義時間
8.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1)消化器系のしくみとはたらき	1
	2)消化・吸収とよくある消化器の症状	1
	3)経管栄養法とは	1
	4)注入する内容に関する知識	1
	5)経管栄養実施上の留意点	1
	6)成人と小児の経管栄養の違い	1
	7)経管栄養に関係する感染と予防	1
	8)経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応	1
	9)事前説明(声かけ)と同意、事後の確認	1
	10)経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	1
	11)急変・事故発生時の対応と事前対策	1
9.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説	1)経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	1
	2)経管栄養の技術と留意点	5
	3)経管栄養に必要なケア	1
	4)報告及び記録	1
合計時間		50

【基本研修・演習(対象ケアと実施回数)】

実施ケア等の種類	所定回数
たんの吸引	口腔内 5回以上
	鼻腔内 5回以上
	気管カニューレ内部 5回以上
経管栄養	胃ろう又は腸ろう 5回以上
	経鼻 5回以上
救急蘇生法	1回以上

介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）における研修評価の概要

【基本研修】

1. 基本研修（講義）

- 基本研修終了後
 - ・介護職員及び指導者に対して、「講義の理解度」、「テキストのわかりやすさ」等についてアンケートを実施
 - ・介護職員の知識の確認のための筆記試験を実施（客観式問題（四肢択一） 出題数 50問）
- ケアの試行終了後
 - 介護職員及び指導者に対して、講義時間・内容についてアンケートを実施

2. 基本研修（演習）

- 基本研修終了後
 - ・介護職員及び指導者に対して、演習の所定回数の適切性についてアンケートを実施
 - ・たんの吸引等について、シミュレーターでの演習を行う際、評価票を用いた介護職員及び指導者によるプロセス評価を実施
- ケアの試行終了後
 - ・介護職員及び指導者に対して、演習の所定回数の適切性についてアンケートを実施

【実地研修】

- 実地研修終了後
 - ・介護職員及び指導者に対して、ケアの所定回数の適切性についてアンケートを実施
 - ・たんの吸引等について、対象者にケアを実地する際、介護職員及び指導者による評価票を用いたプロセス評価を実施
- ケアの試行終了後
 - ・介護職員及び指導者に対して、ケアの所定回数の適切性についてアンケートを実施

	アンケート	知識の確認（筆記試験）	プロセス評価	ケアの試行後アンケート
基本研修（講義）	○	○		○
基本研修（演習）	○		○	○
実地研修	○		○	○

基本研修(講義内容)について

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 基本研修について

参加者(介護職員)の約9割が介護福祉士の資格を保有している(現職は約8割)

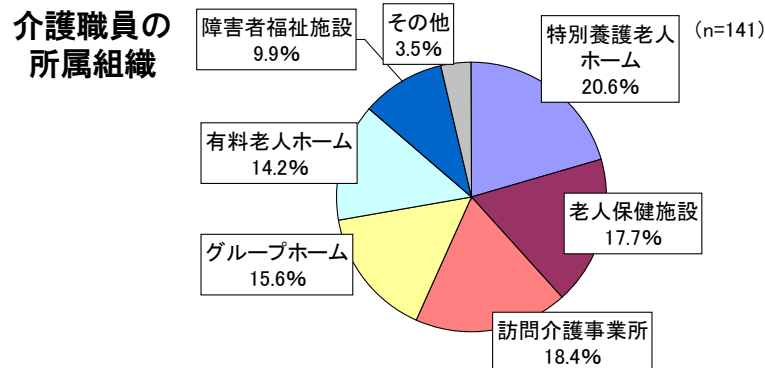
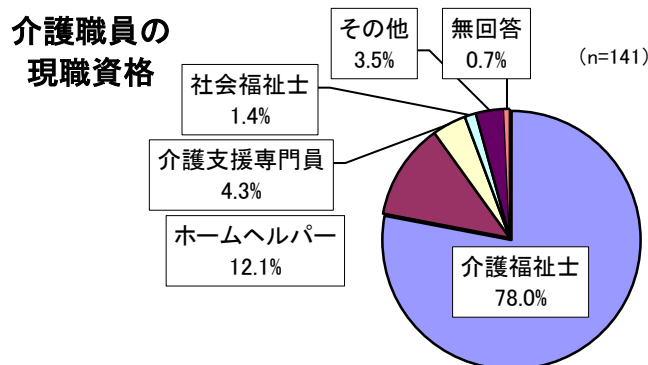
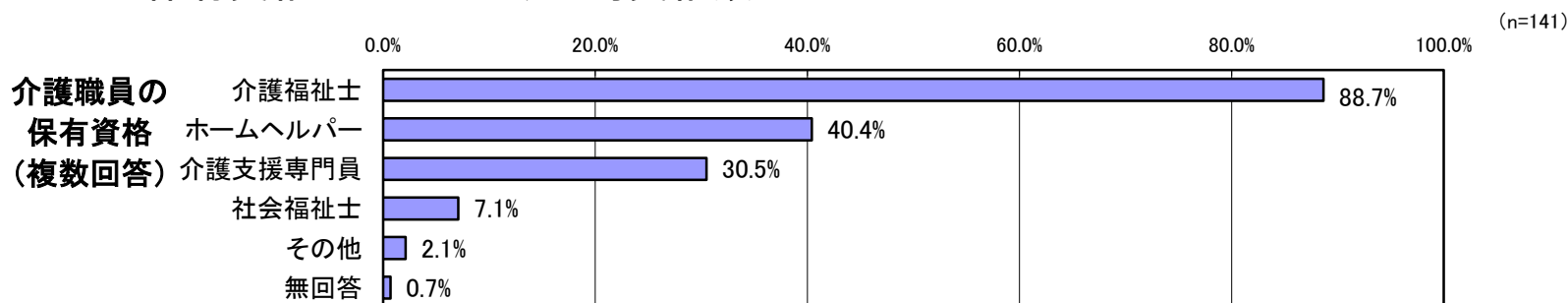
日 時 : 平成22年11月5日～12月15日(事業実施7団体ごとに全国9ヶ所で実施)

参加者 : 事業実施7団体から推薦された介護職員141名

年 齢 : 平均38.8歳(最大58歳・最小24歳)

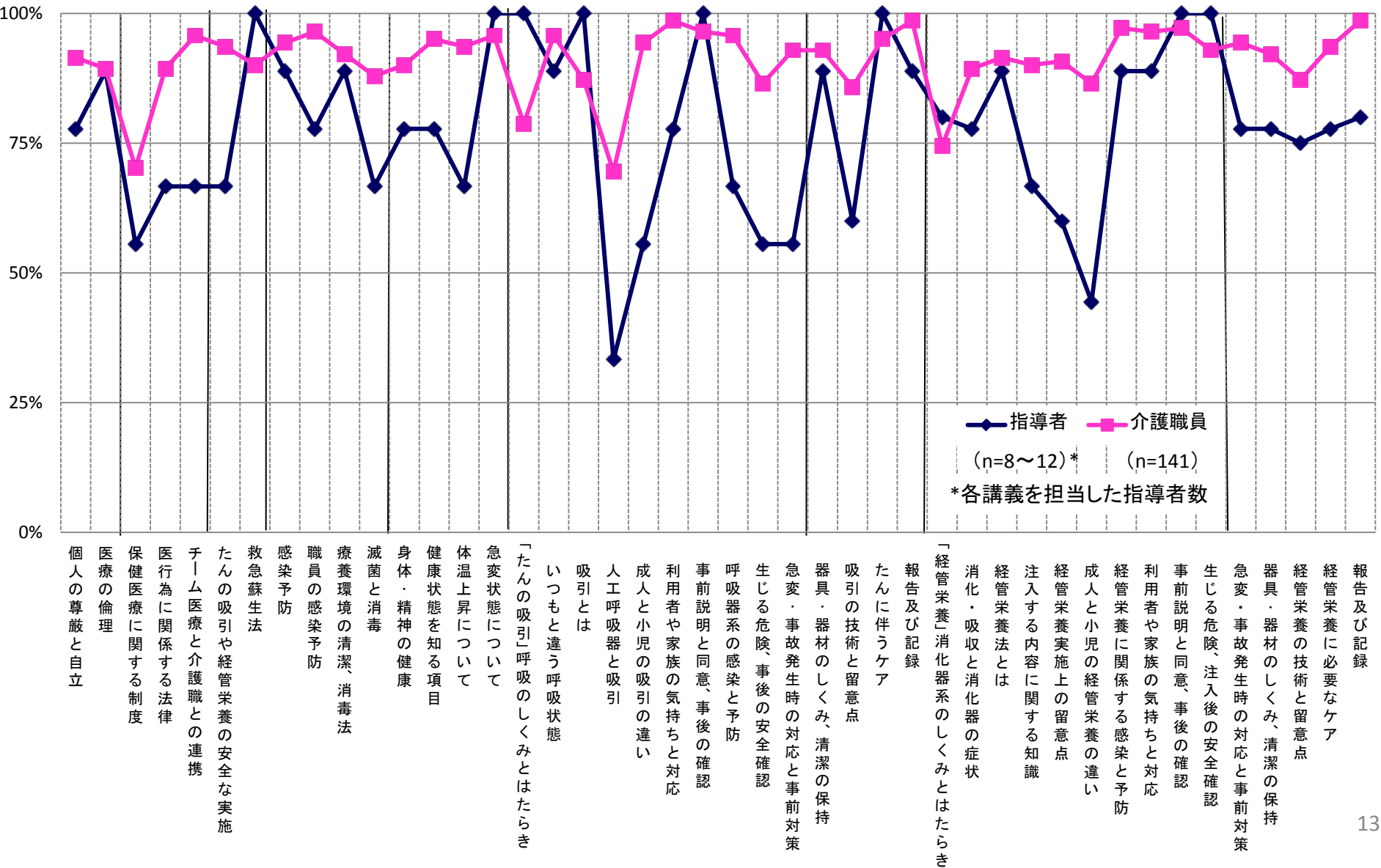
性 別 : 男性42名(29.8%)・女性99名(70.2%)

保有資格 : 1人当たり平均資格数1.7



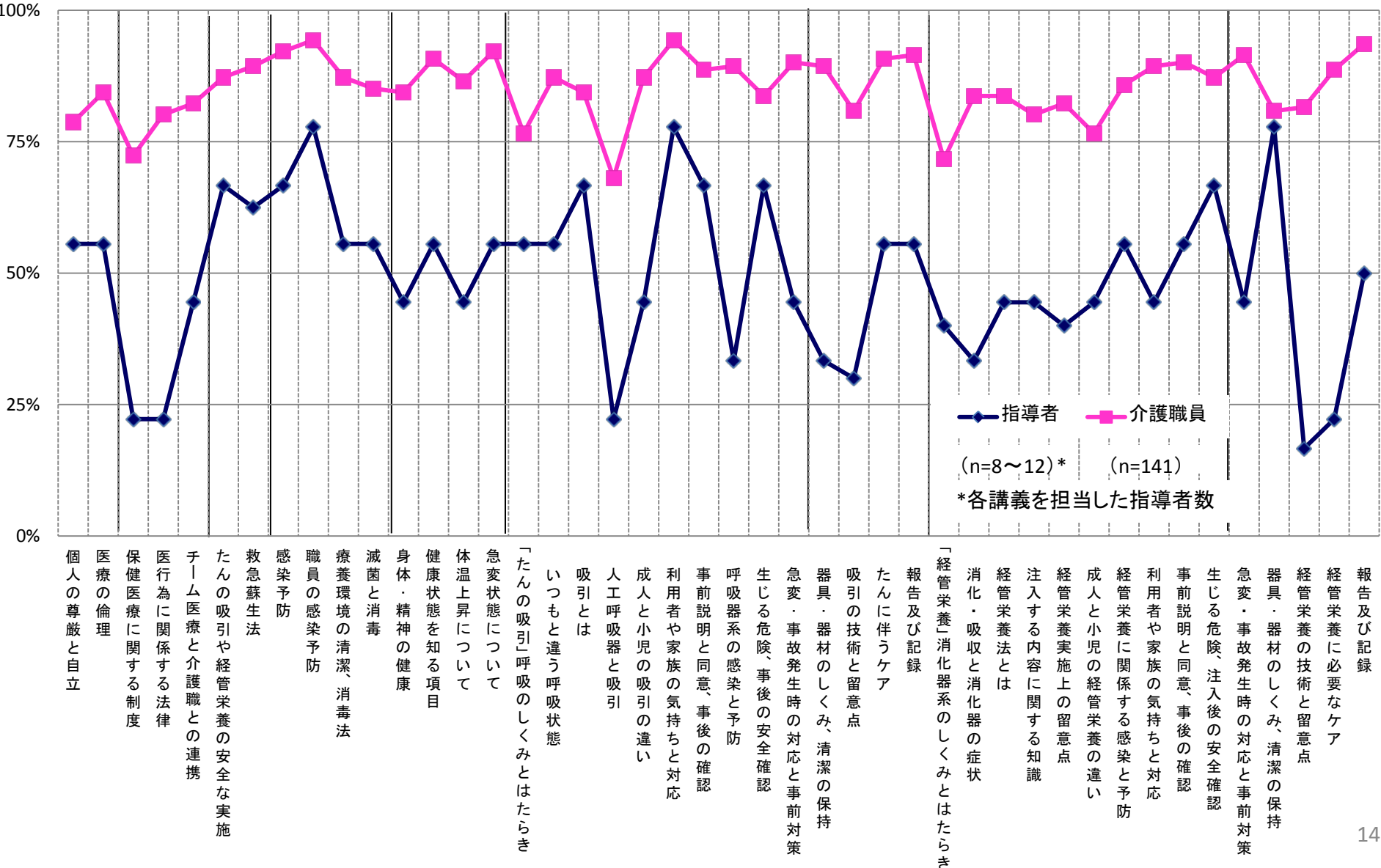
講義の理解度について:「介護職員が理解できる内容か」の回答比率

- 指導者からみた「介護職員が理解できる」に比べ、介護職員が「理解できた」と回答した割合のほうが高い
- 指導者では、「保健医療に関する制度」、「人工呼吸器と吸引」、「成人と小児の吸引の違い」、「たんの吸引の生じる危険、事後の安全確認」、「たんの吸引の急変・事故発生時の対応と事前対策」、「成人と小児の経管栄養の違い」で、「介護職員が理解できる」と回答した割合が低い
- 介護職員では、「保健医療に関する制度」、「呼吸のしくみとはたらき」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」で「理解できた」と回答した割合が低い



テキストの分かりやすさについて:「介護職員が分かりやすい記述か」の回答比率

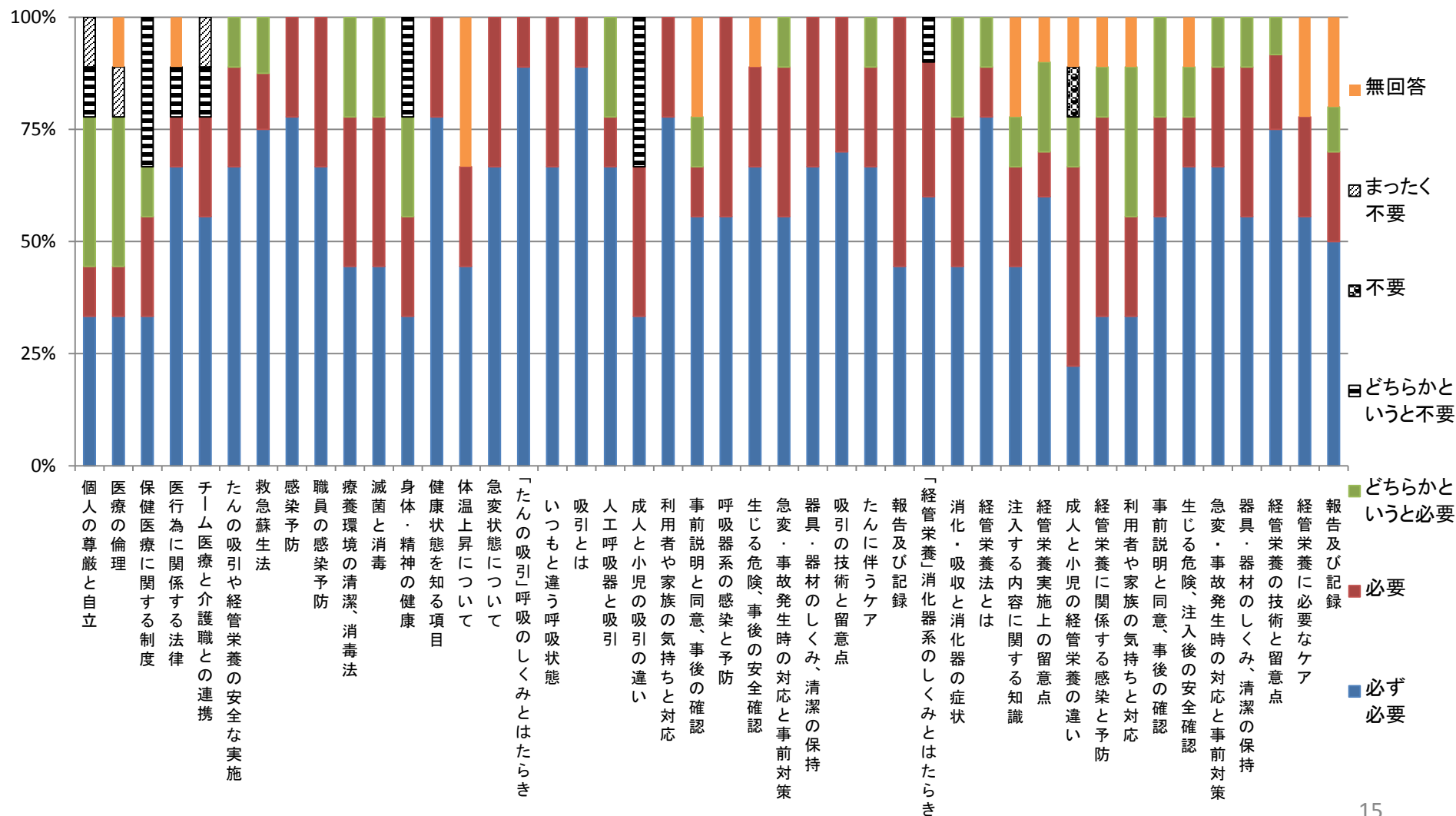
- 指導者からみた「介護職員にとってわかりやすい」に比べ、介護職員の「わかりやすい」と回答した割合のほうが高い
- 指導者では、「保健医療に関する制度」、「医行為に関係する法律」、「人工呼吸器と吸引」、「経管栄養の技術と留意点」で、「わかりやすい」と回答した割合が低い
- 介護職員では、「保健医療に関する制度」、「呼吸のしくみとはたらき」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」、「成人と小児の経管栄養の違い」で「わかりやすい」と回答した割合が低い



指導者からみた講義の必要性

- 「個人の尊厳と自立」、「医療の倫理」、「保健医療に関する制度」などの項目で、「どちらかというと不要」、「まったく不要」があった。
○「成人と小児の吸引の違い」では、他の項目と比べ「どちらかというと不要」が多かった。

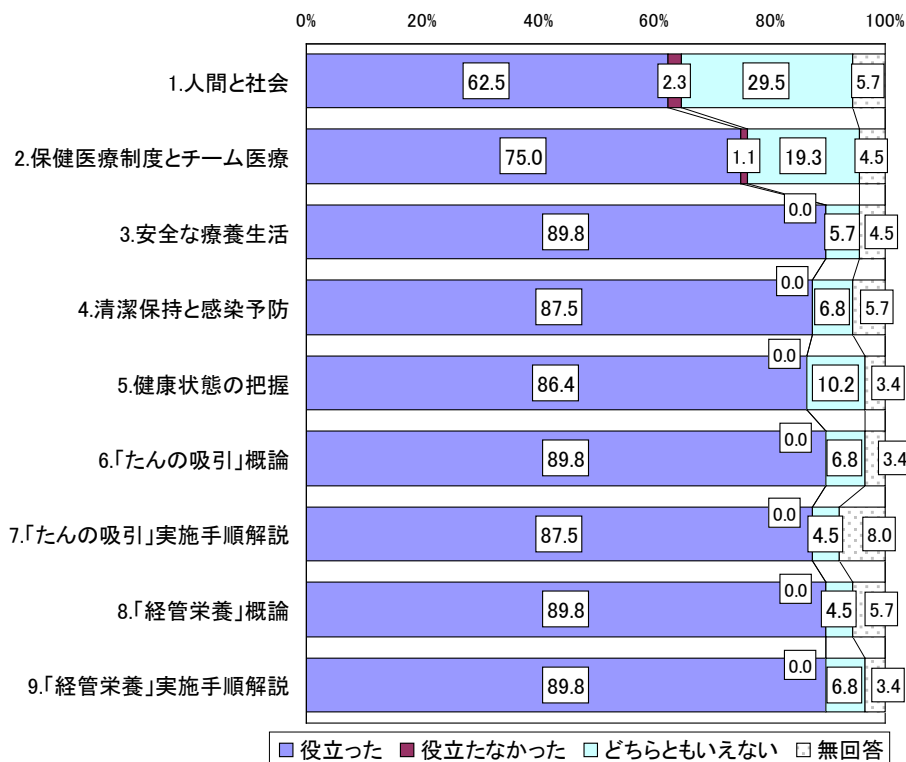
(N=8~12)* *各講義を担当した指導者数



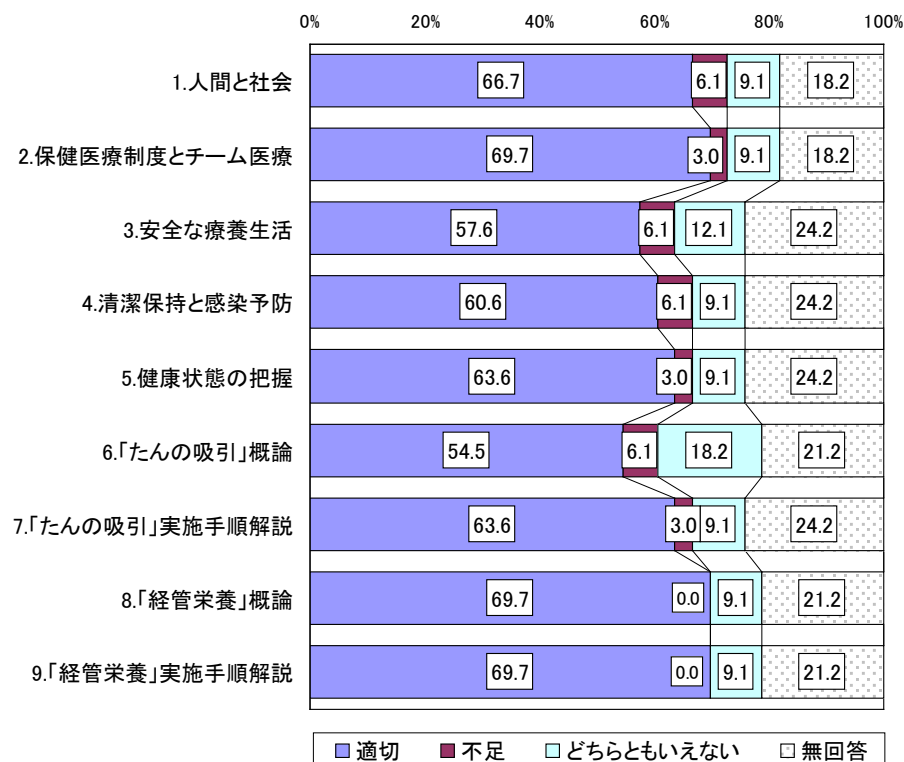
ケアの試行後 基本研修(講義内容)の評価結果

○ ケアの試行後に評価をすると、介護職員、連携看護職員ともに、講義内容について「役立った」、「適切」と評価する者の割合が高い。

介護職員(n=88)



連携看護職員(n=33)



※連携看護職員のうち、「指導者講習(10/29開催)」の受講者33名が回答対象。

基本研修(講義時間)について

介護職員 (N=141)

指導者 (N=8~12)*

*各講義を担当した指導者数

○介護職員では、
・「適切である」が6割を超えた項目が約8割であった。
・「長い」と回答した割合が高い項目は、6-7「たんの吸引 事前説明(声かけ)と同意、事後の確認」、8-6「成人と小児の経管栄養の違い」、8-9「経管栄養 事前説明(声かけ)と同意、事後の確認」などであった。
・「短い」と回答があった項目は、6-4「人工呼吸器と吸引」、8-1「消化器系のしくみとはたらき」などであった。

○指導者では、
・項目ごとの評価にばらつきがあった。
・「長い」と回答した割合が高い項目は、5-1「身体・精神の健康」、6-5「成人と小児の吸引の違い」などであった。
・「短い」と回答した割合が高い項目は、6-4「人工呼吸器と吸引」であった。

【1.人間と社会】

1-1.個人の尊厳と自立 (0.5時間)

【2.保健医療制度とチーム医療】

2-1.保健医療に関する制度 (1時間)

2-2.医行為に関係する法律 (0.5時間)

2-3.チーム医療と介護職との連携 (0.5時間)

【3.安全な療養生活】

3-1.たんの吸引や経管栄養の安全な実施 (2時間)

3-2.救急蘇生法 (2時間)

【4.清潔保持と感染予防】

4-1.感染予防 (0.5時間)

4-2.職員の感染予防 (0.5時間)

4-3.療養環境の清潔、消毒法 (0.5時間)

4-4.滅菌と消毒 (0.5時間)

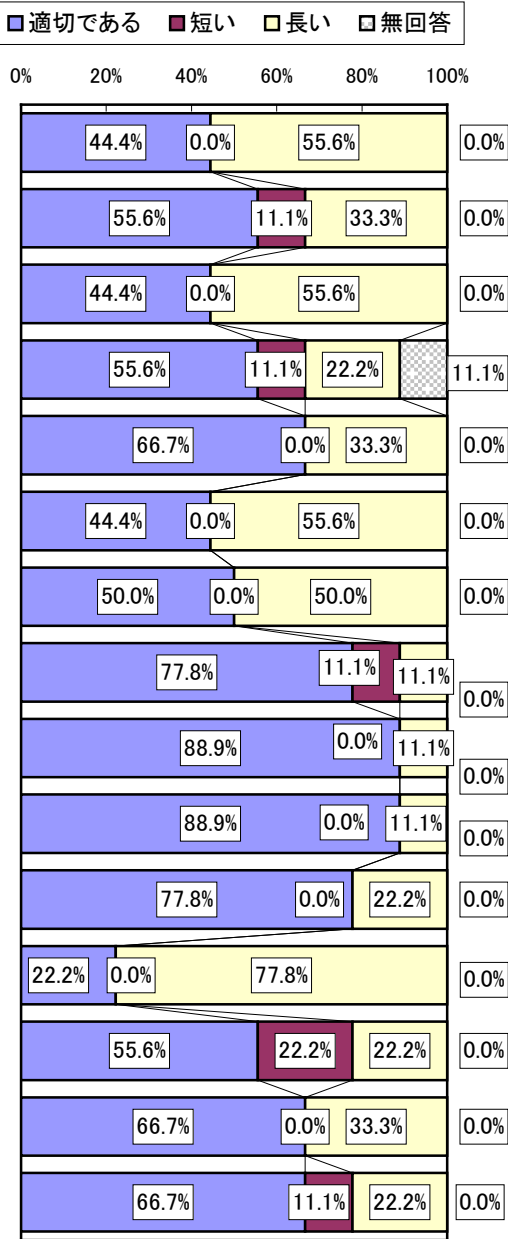
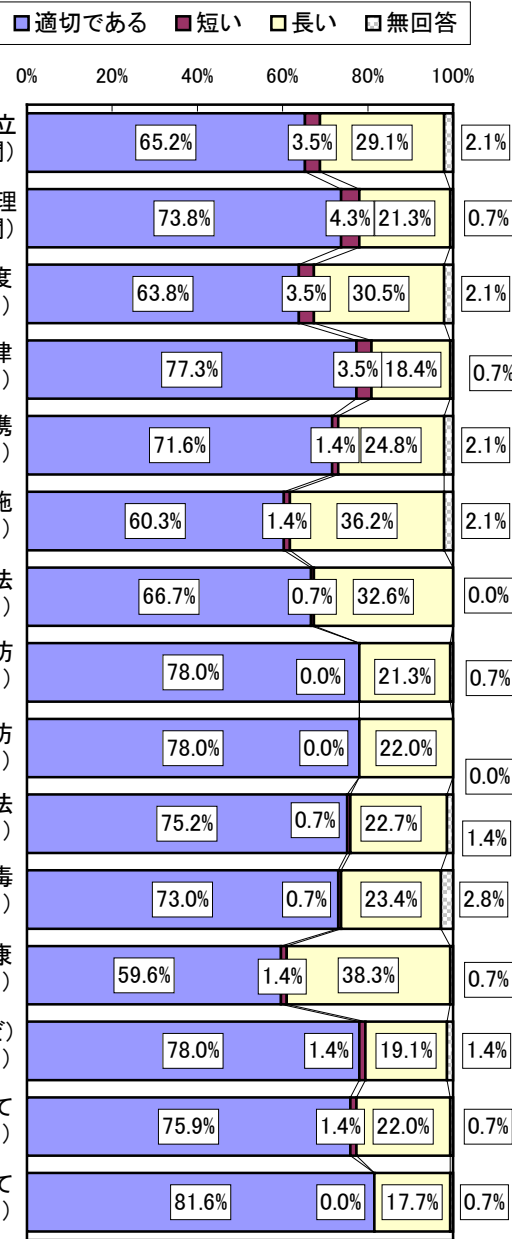
【5.健康状態の把握】

5-1.身体・精神の健康 (1時間)

5-2.健康状態を知る項目(バイタルサインなど) (1時間)

5-3.体温上昇について (0.5時間)

5-4.急変状態について (0.5時間)



講義時間の適切性について②

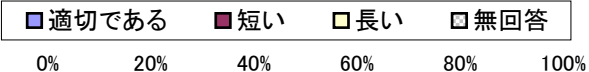
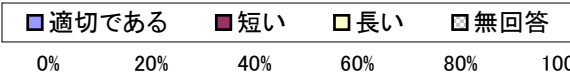
介護職員

(N=141)

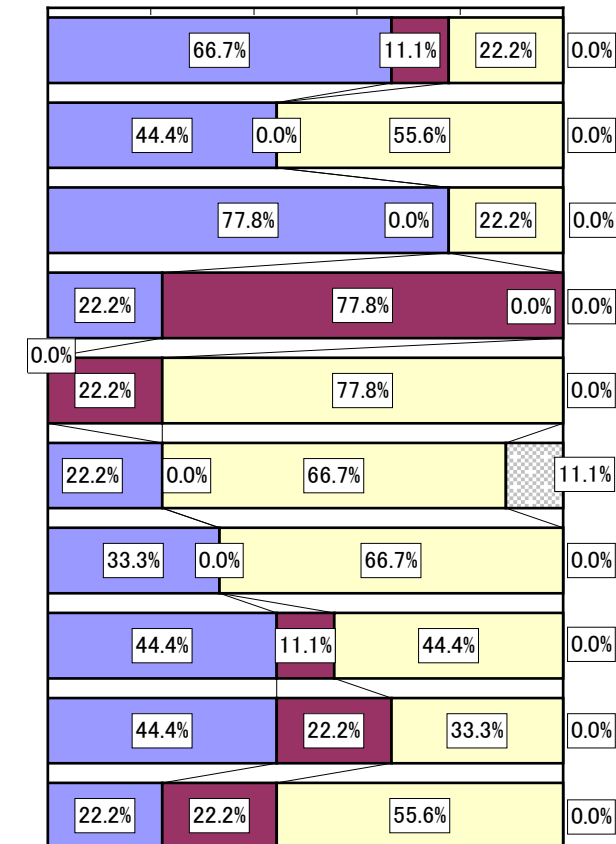
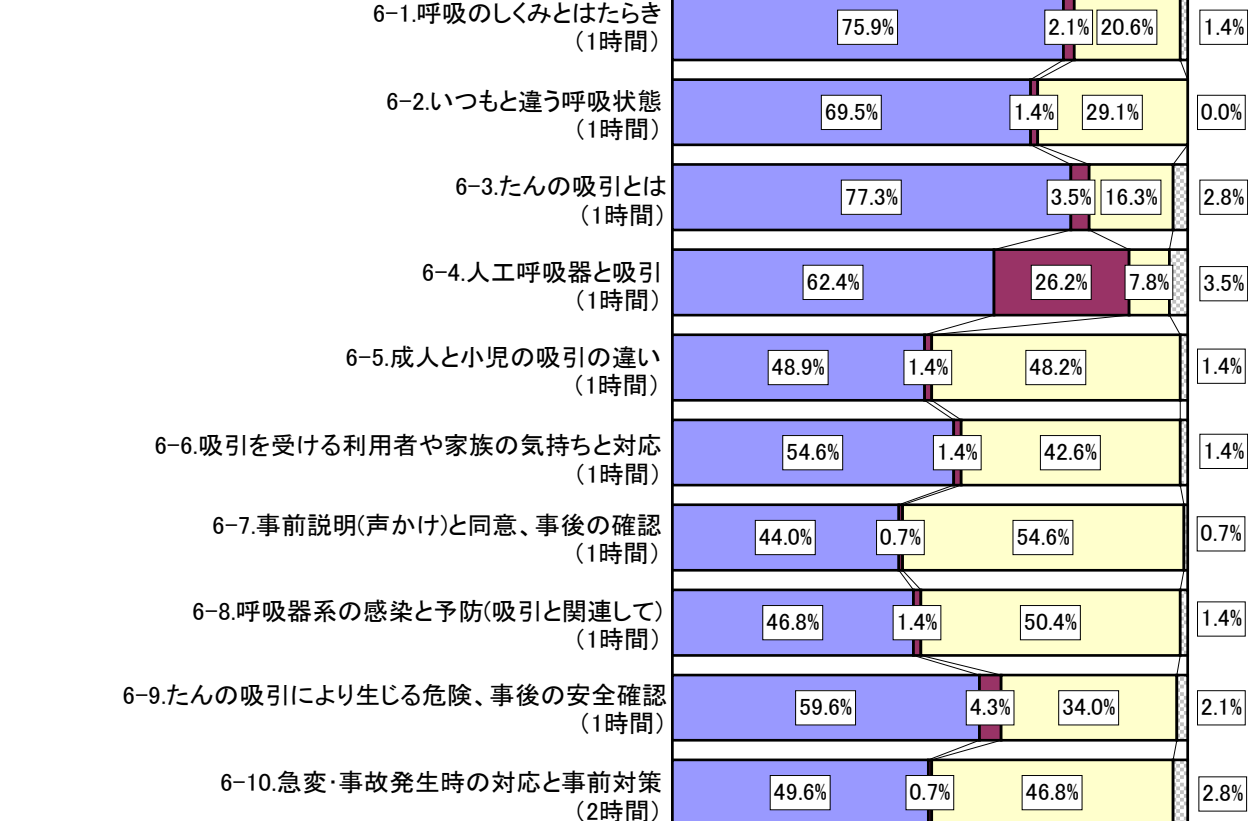
指導者

(N=8~12)*

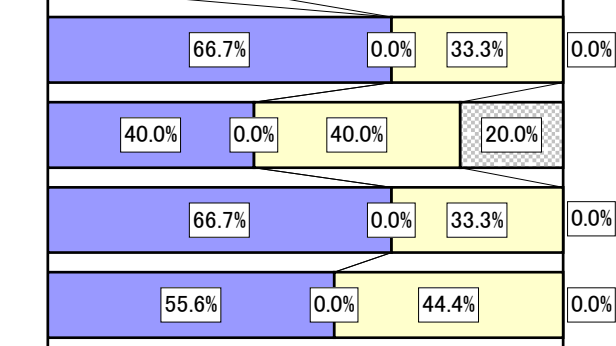
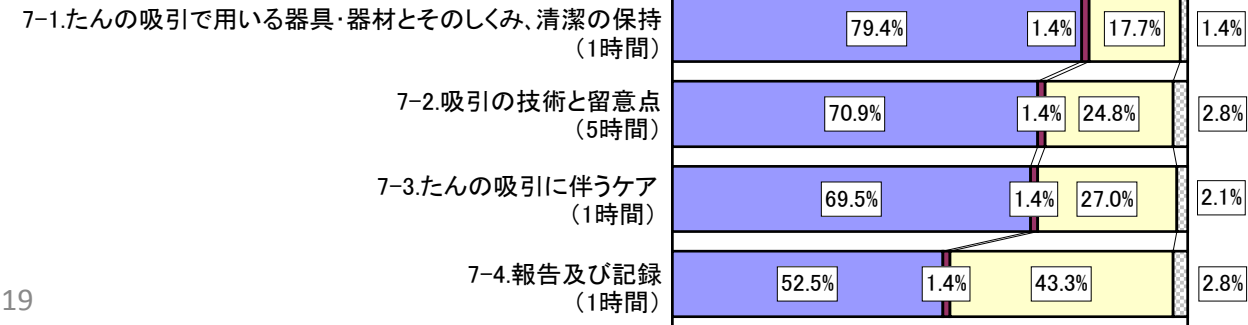
*各講義を担当した指導者数



【6.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」(概論)】



【7.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」(実施手順解説)】



講義時間の適切性について③

介護職員 (N=141)

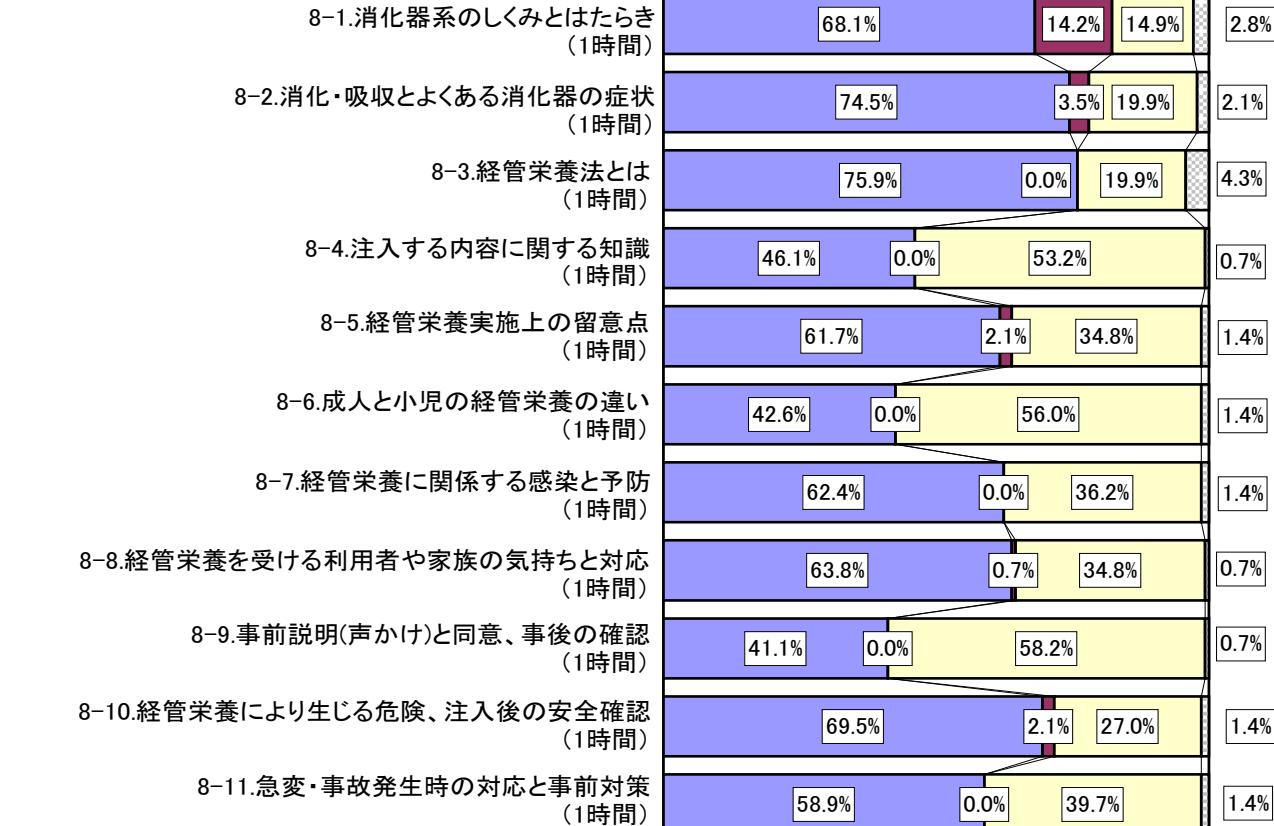
指導者 (N=8~12)*

*各講義を担当した指導者数

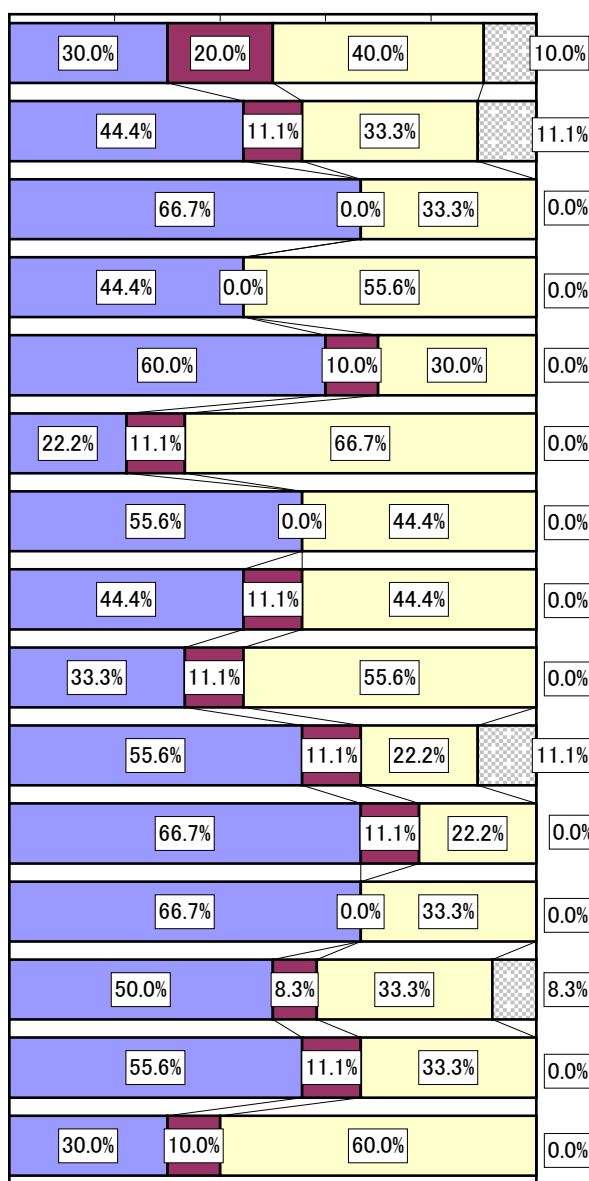
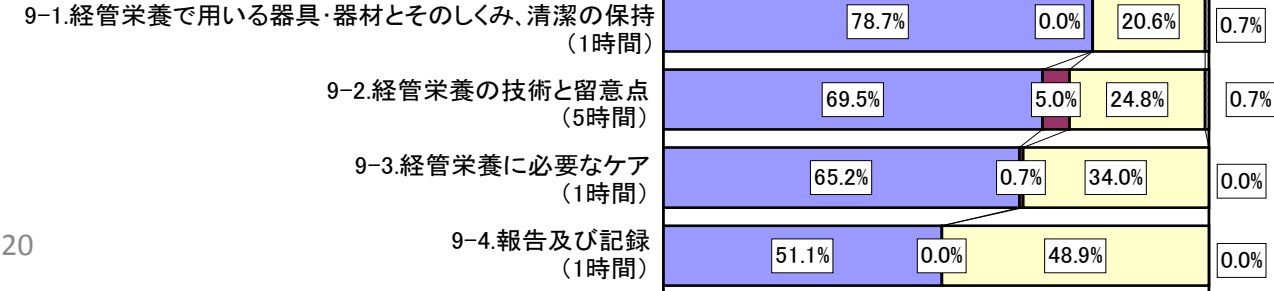
■適切である ■短い ■長い ■無回答

■適切である ■短い ■長い ■無回答

【8.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(概論)】



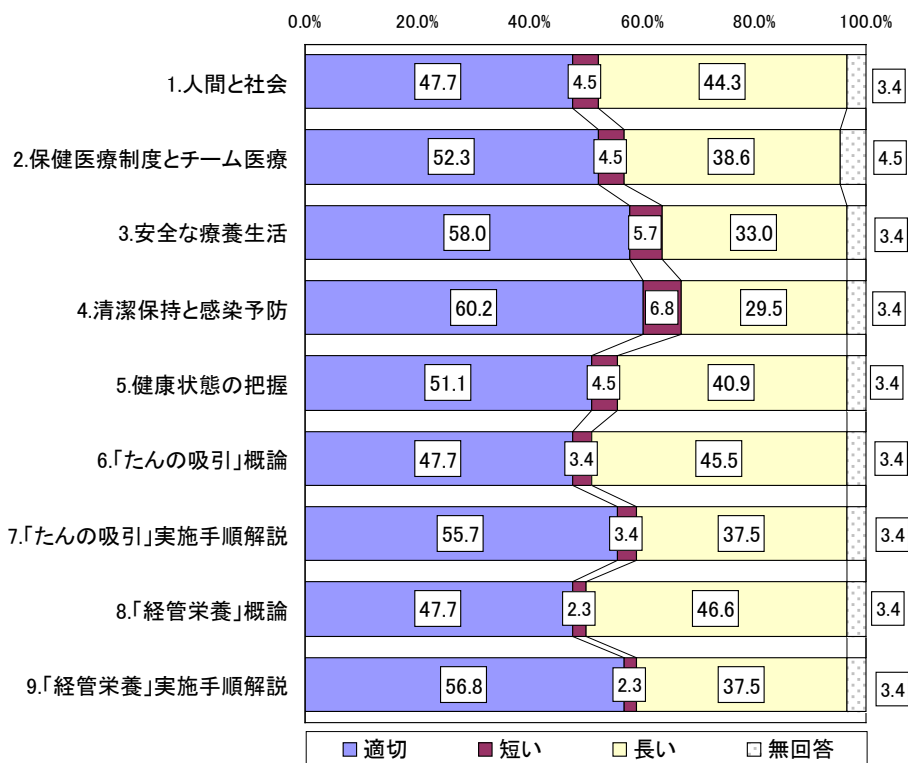
【9.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(実施手順解説)】



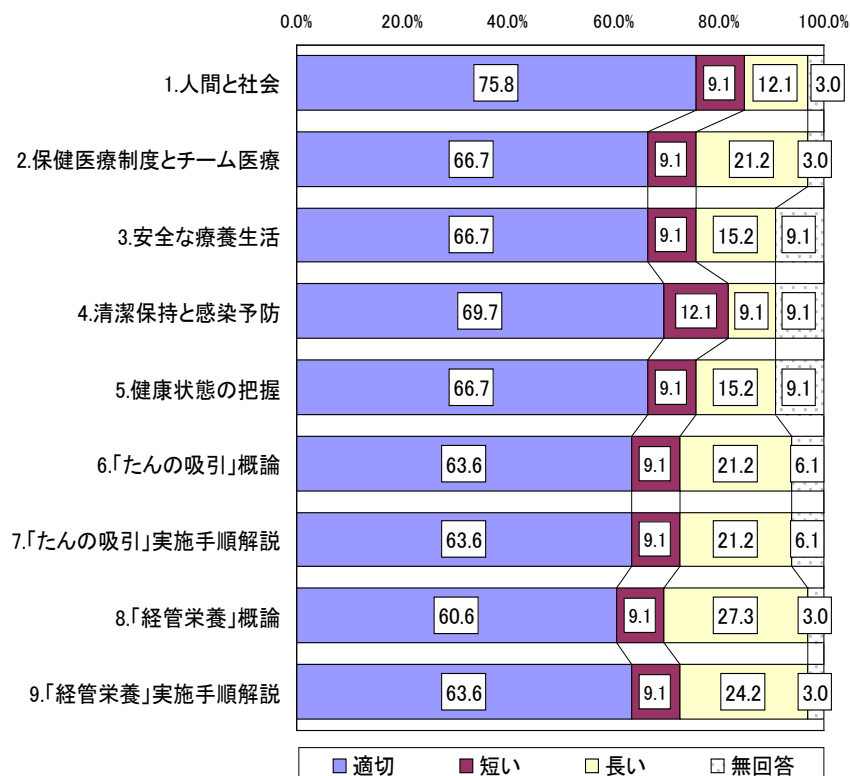
ケアの試行後 基本研修(講義時間)の評価結果

○ ケアの試行後に評価すると、講義時間について「適切」と評価する者の割合は、介護職員で約5～6割、連携看護職員で約6～7割となっている。

介護職員(n=88)



連携看護職員(n=33)



※連携看護職員のうち、「指導者講習(10/29開催)」の受講者33名が回答対象。

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 評価①について

- 知識の確認(筆記試験)結果では、全体的な正答率は高かったものの、「保健医療に関する制度」「清潔保持と感染予防」「消化器系のしくみとはたらき」といった出題範囲の正答率が低かったことから、介護職員の日常業務において意識することが少ない分野について、さらに重点的な学習が必要と考えられる

知識の確認(筆記試験)結果

- ・受験者 : 介護職員141名
- ・正答率 : 平均値96.1% (最高値:100% 最低値:78%)
- ・正答率90%以下の出題範囲について、下記に抜粋

項目 番号※	出題範囲	平均正答率
2-1	保健医療に関する制度	70.9%
4-4	清潔保持と感染予防(滅菌と消毒)	70.9%
8-1	消化器系のしくみとはたらき	82.3%
9-3	経管栄養(胃ろう部)に必要なケア	83.7%
7-2	口腔内のたんの吸引の技術と留意点(状態観察)	87.9%
8-4	経管栄養の注入する内容に関する知識	87.9%

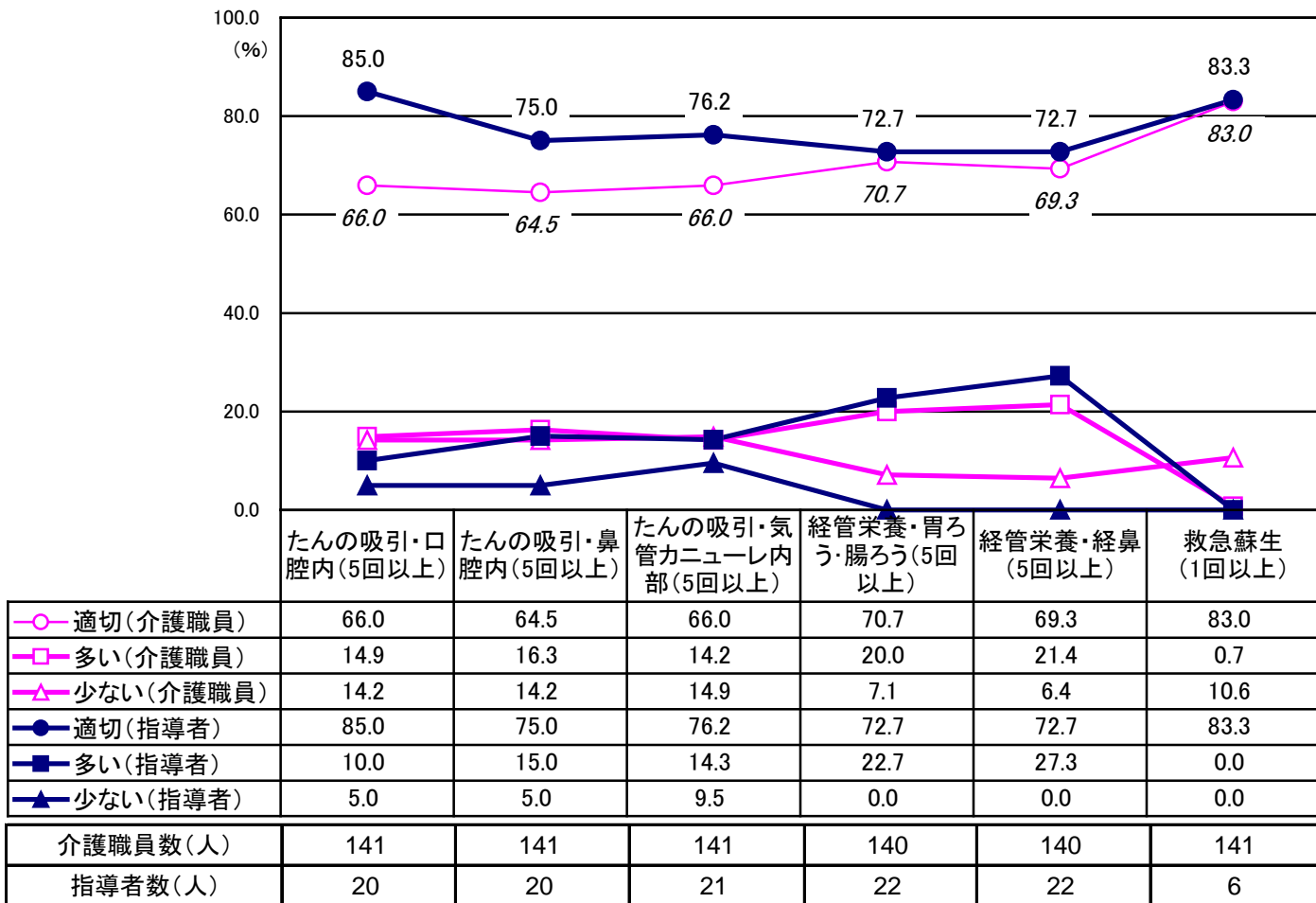
評価①結果については、評価委員会(太田秀樹委員長)において審査後、知識の確認(筆記試験)の成績下位者は個別に再学習し、指導者からの口頭試問後に実地研修へと進行した。

基本研修(演習回数)について

基本研修(演習)の所定回数の評価(演習アンケート結果)

○ 演習のケアごとの所定回数について「適切」と回答した者は、介護職員は6割以上、指導者は7割以上であった。

【基本研修・演習】所定回数の適切さ



基本研修(演習)の実施回別・STEP別の達成状況

○ 演習の実施回別・STEP別の指導者の評価結果では、5回目までに約95%以上の介護職員が評価「ア」(一人で実施し、手引き手順どおりにできている。)となっている。

【基本研修・演習】 演習実施回数別の実施介護職員数

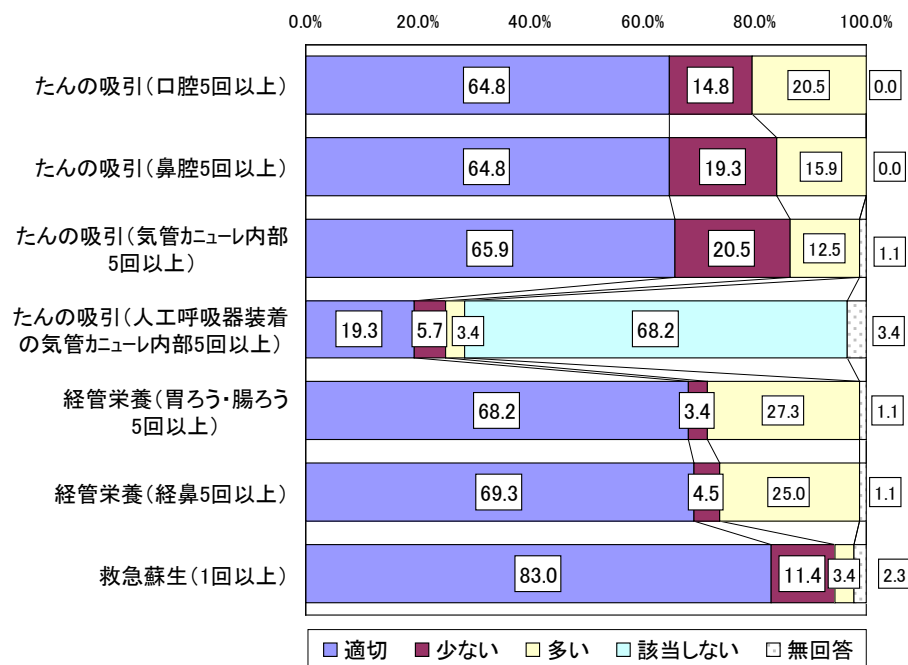
ケアの種類	演習 所定回数	演習実施 介護職員数	演習回数別の実施介護職員 人数(人)				演習回数別の実施介護職員 構成比(%)			
			演習 5回まで	演習 6回まで	演習 7回まで	演習 8回まで	演習 5回まで	演習 6回まで	演習 7回まで	演習 8回まで
たんの吸引・口腔内	5回以上	141	137	4	0	0	97.2	2.8	0.0	0.0
たんの吸引・鼻腔内	5回以上	141	138	3	0	0	97.9	2.1	0.0	0.0
たんの吸引・気管カニューレ内部	5回以上	141	139	2	0	0	98.6	1.4	0.0	0.0
経管栄養・胃ろう・腸ろう	5回以上	140	132	5	2	1	94.3	3.6	1.4	0.7
経管栄養・経鼻	5回以上	140	135	3	2	0	96.4	2.1	1.4	0.0
経管栄養・胃ろう・腸ろう(半固形)	5回以上	6	6	0	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0
たんの吸引・人工呼吸器装着の 口腔内	5回以上	26	26	0	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0
たんの吸引・人工呼吸器装の 鼻腔内	5回以上	7	7	0	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0
たんの吸引・人工呼吸器装着の 気管カニューレ内部	5回以上	42	41	1	0	0	97.6	2.4	0.0	0.0

(注)第7回検討会資料を精査し、数値に一部誤りがあったため修正したもの。

ケアの試行後 基本研修(演習)の所定回数の評価結果

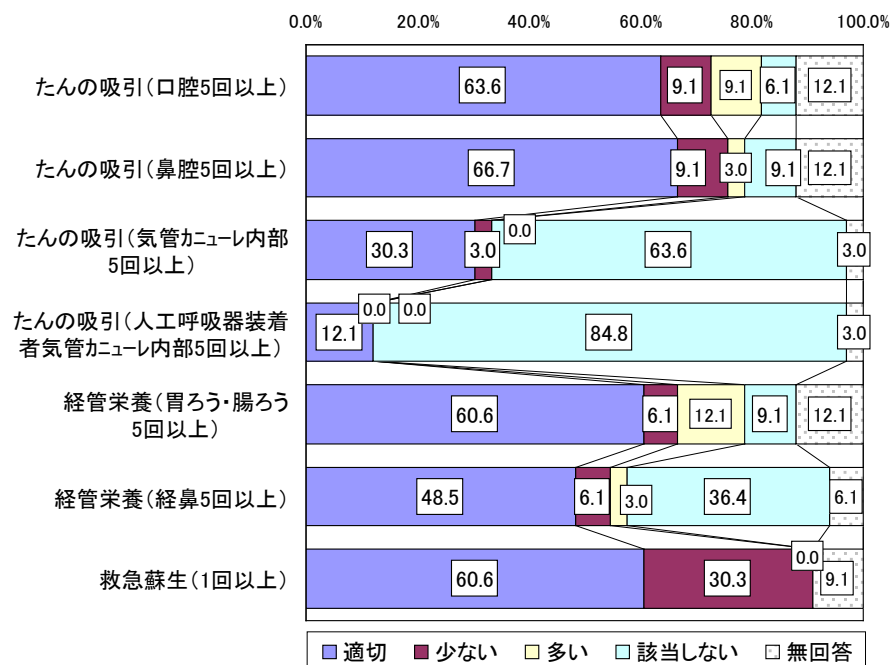
○ ケアの試行後に評価すると、介護職員、連携看護職員ともに演習の所定回数について「適切」と評価する者の割合は、「該当しない」を除くと6割を超える。

基本研修・演習の所定回数評価(介護職員) (n=88)



※基本研修で実施したケアについて回答を求めた。

基本研修・演習の所定回数評価(連携看護職員)(n=33)



※連携看護職員のうち、「指導者講習(10/29開催)」の受講者33名が回答対象。
ケアの試行で指導をしたケアについて回答を求めた。

実地研修の研修回数について

実地研修の実施概要（参加人数と実施状況）

期間：平成23年1月から3月

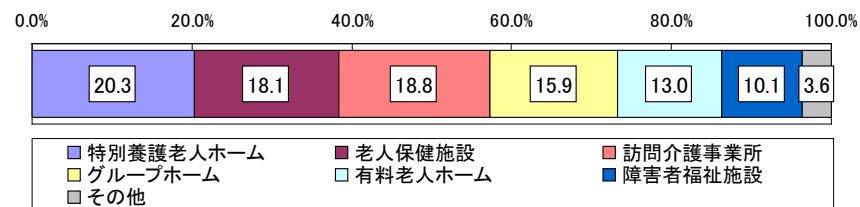
参加者：基本研修を修了した介護職員141名（うち、1回以上のケアを実施した者138名）

内容：介護職員が医師の指示のもとで、ケアの対象者へ指導看護師の指導を受けながら
 たんの吸引等を実施。

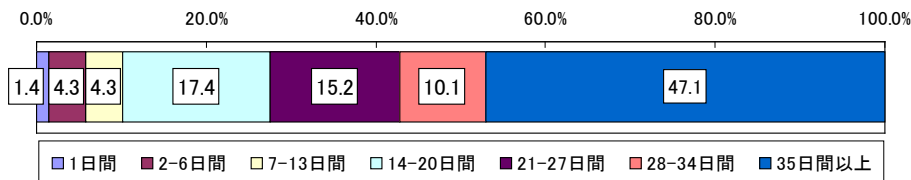
【実地研修】研修期間（ケアの実施日数）（n=138）

延実施 日数(日)	平均値 (日)	中央値 (日)	最大値 (日)	最小値 (日)
4,109	29.8	32.5	50	1

【実地研修】介護職員の所属・勤務先（n=138）



【実地研修】ケア実施日数別の介護職員構成比（n=138）



※実施日数は、ケア実施開始日から終了日までの日数

実地研修の実施概要(参加人数と実施状況)

○ 実地研修実施予定の介護職員のうち研修実施者は、

「たんの吸引・口腔内」で133名(94.3%)

「たんの吸引・鼻腔内」で128名(90.8%)

「たんの吸引・気管カニューレ内」で66名(46.8%)

「経管栄養・胃ろう・腸ろう」で135名(96.4%)

「経管栄養・経鼻」で104名(74.3%)であった。

また、「たんの吸引・気管カニューレ内部(人工呼吸器装着)」では42名のうち20名(47.6%)が研修を実施した。

○ 実地研修を実施した者のうち、所定回数を実施した者の割合は、

「たんの吸引・口腔内」で79.7%

「たんの吸引・鼻腔内」で58.6%

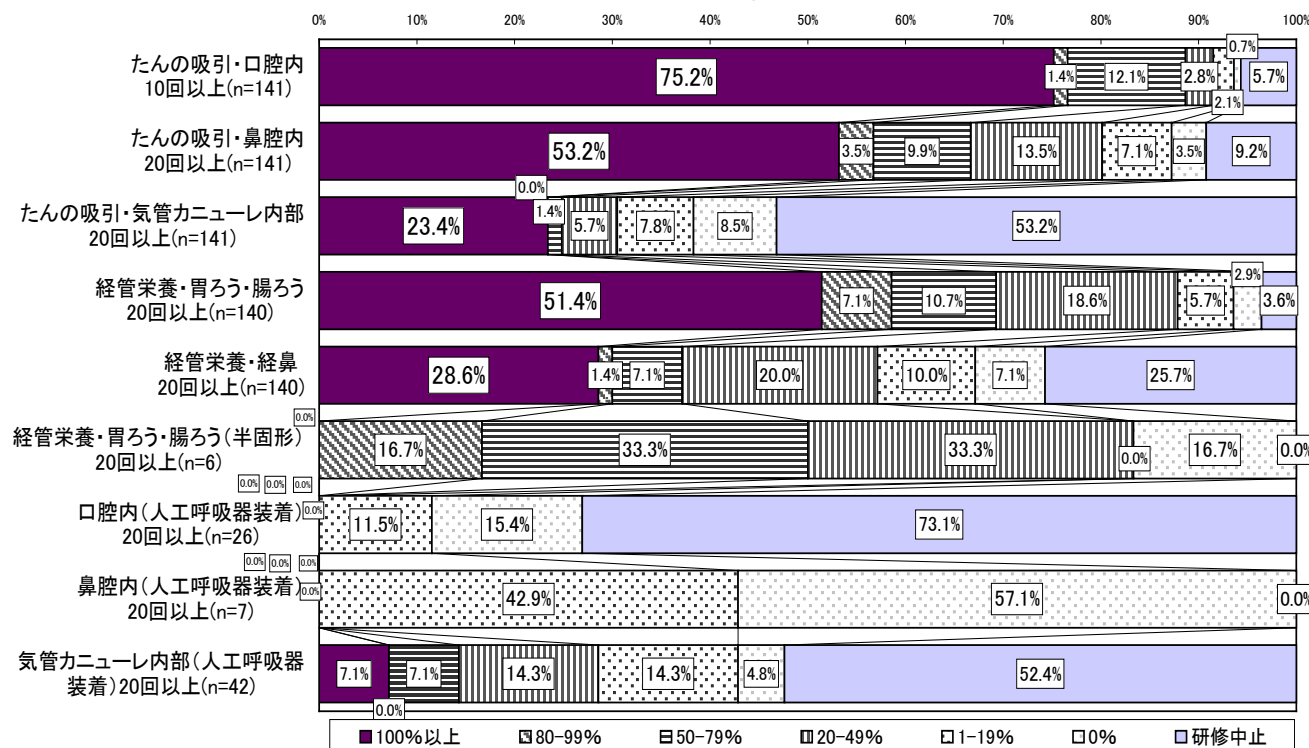
「たんの吸引・気管カニューレ内」で50.0%

「経管栄養・胃ろう・腸ろう」で53.3%

「経管栄養・経鼻」で38.5%

「たんの吸引・気管カニューレ内部(人工呼吸器装着者)」15.0%であった。

実地研修の実施状況(指導者評価票)



ケアの種類(所定回数)	①進行可判定者	②研修実施者	所定回数に対する達成人数							研修中止
			③100%以上	④80-99%	⑤50-79%	⑥20-49%	⑦1-19%	⑧0%	④~⑧未達成者合計	
たんの吸引・口腔内(10回以上)	141名	133名	106名(79.7%)	2名	17名	4名	3名	1名	27名(20.3%)	8名
たんの吸引・鼻腔内(20回以上)	141名	128名	75名(58.6%)	5名	14名	19名	10名	5名	53名(41.4%)	13名
たんの吸引・気管カニューレ内部(20回以上)	141名	66名	33名(50.0%)	0名	2名	8名	11名	12名	33名(50.0%)	75名
経管栄養・胃ろう・腸ろう(20回以上)	140名	135名	72名(53.3%)	10名	15名	26名	8名	4名	63名(46.7%)	5名
経管栄養・経鼻(20回以上)	140名	104名	40名(38.5%)	2名	10名	28名	14名	10名	64名(61.5%)	36名
経管栄養・胃ろう・腸ろう(半固形)(20回以上)	6名	6名	0名(0.0%)	1名	2名	2名	0名	1名	6名(100.0%)	0名
口腔内(人工呼吸器装着)(20回以上)	26名	7名	0名(0.0%)	0名	0名	0名	3名	4名	7名(100.0%)	19名
鼻腔内(人工呼吸器装着)(20回以上)	7名	7名	0名(0.0%)	0名	0名	0名	3名	4名	7名(100.0%)	0名
気管カニューレ内部(人工呼吸器装着)(20回以上)	42名	20名	3名(15.0%)	0名	3名	6名	6名	2名	17名(85.0%)	22名

実地研修の実施概要(ケアの試行への進行条件と進行者数)

「ケアの試行」への進行条件(3条件全てを満たすこと)

- ①当該ケアにおいて3回以上連続して成功したことがあること
- ②当該ケアにおいて最終的な累積成功率が70%以上であること
- ③当該ケアにおいて最終3回のケア実施において不成功が1回もないこと

ケアの種類	①実地研修予定	②研修中止	③判定対象 (①-②)	④「進行可」判定	⑤「進行不可」判定 (③-④)	進行不可理由				⑥進行率 (④÷③×100)
						3回連続成功無し	成功率70%未満	最終3回NG	実施0回	
たんの吸引・口腔内	141名	8名	133名	103名	30名	16名	29名	12名	1名	77.4%
たんの吸引・鼻腔内	141名	13名	128名	96名	32名	23名	27名	12名	5名	75.0%
たんの吸引・気管カニューレ内部	141名	75名	66名	33名	33名	30名	33名	11名	12名	50.0%
経管栄養・胃ろう・腸ろう	140名	5名	135名	101名	34名	22名	28名	15名	4名	74.8%
経管栄養・経鼻	140名	36名	104名	69名	35名	26名	26名	11名	10名	66.3%
経管栄養・胃ろう・腸ろう(半固形)	6名	0名	6名	(※5名)	(※1名)	1名	1名	0名	1名	—
たんの吸引・口腔内(人工呼吸器装着)	26名	19名	7名	(※0名)	(※7名)	6名	4名	0名	4名	—
たんの吸引・鼻腔内(人工呼吸器装着)	7名	0名	7名	(※0名)	(※7名)	6名	4名	0名	4名	—
たんの吸引・気管カニューレ内部(人工呼吸器装着)	42名	22名	20名	9名	11名	10名	9名	3名	2名	45.0%

- ・「介護職員によるたんの吸引等の試行事業における研修の評価委員会」では、実地研修実施者のうち、提出期日(平成23年3月6日)までに、「指導者評価票」並びに「介護職員自己評価票」の提出者を対象に、上記の3条件によって、研修実施並びにケア技術の習熟状況を評価することで、ケアの試行の可否を、ケアの種類ごと介護職員ごとに個別判定を実施した。なお、指導者評価票の遅延提出・内容の修正希望に対しては、平成23年4月6日まで対応した。

(注)表中、「経管栄養・胃ろう・腸ろう(半固形)」「たんの吸引・口腔内(人工呼吸器装着)」「たんの吸引・鼻腔内(人工呼吸器装着)」の3ケアについては実地研修での実施者が僅少でケアの安全性評価が不十分と判断し、ケアの試行では実施しないこととした。(なお、3条件で判定した場合、「進行可」判定は、順番に「5名、0名、0名(表中の※印の箇所)」であった。)

実地研修の実施回別・STEP別の達成状況 「たんの吸引・口腔内」

実地研修：「たんの吸引（口腔内）」の指導者評価

達成度	ア. 1人で実施し、手引きの手順通りに実施できている
	イ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見過ごせないレベル）
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない

【達成状況】下表の「数値」(%)は、ケア実施全介護職員に対する達成度「ア」の割合

		回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目
実施準備	1	医師の指示等の確認を行う	97.7%	98.5%	99.2%	99.2%	99.2%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%
	2	手洗いをを行う	94.0%	94.6%	100.0%	100.0%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	91.7%	96.2%	96.9%	100.0%	99.2%	99.1%	100.0%	98.1%	100.0%	100.0%
	4	必要物品を利用者のもとへ運ぶ	96.8%	99.2%	99.2%	100.0%	100.0%	99.1%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%
ケア実施	5	利用者に吸引の説明をする	94.0%	96.2%	99.2%	98.4%	99.2%	100.0%	100.0%	98.1%	100.0%	100.0%
	6	吸引の環境・利用者の姿勢を整える	86.5%	96.9%	97.7%	97.6%	100.0%	100.0%	99.1%	98.1%	99.1%	100.0%
	7	口腔内・鼻腔内を観察する	82.7%	91.5%	95.3%	96.1%	98.4%	98.3%	98.2%	99.1%	99.1%	100.0%
	8	手袋の着用またはセッシを持つ	93.5%	97.5%	99.2%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%
	9	吸引チューブを清潔に取り出す	92.5%	95.4%	98.4%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%	100.0%
	10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	91.0%	96.9%	98.4%	99.2%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を洗浄綿等で拭く	91.0%	95.5%	97.2%	99.1%	98.1%	99.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	12	吸引器のスイッチを入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	90.2%	93.8%	96.9%	96.9%	96.8%	97.4%	99.1%	100.0%	99.1%	100.0%
	13	吸引チューブの先端の水をよく切る	88.7%	96.9%	97.6%	98.4%	99.2%	98.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14	利用者に吸引の開始について声をかける	94.0%	96.2%	98.4%	97.6%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%
	15	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	67.7%	86.9%	88.3%	90.6%	93.5%	95.7%	95.5%	99.1%	100.0%	99.1%
	16	適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	78.2%	90.0%	91.4%	94.5%	95.9%	95.7%	97.3%	97.2%	100.0%	100.0%
	17	吸引チューブを静かに抜く	89.5%	95.4%	96.9%	97.6%	99.2%	99.1%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%
	18	吸引チューブの外側を洗浄綿等で拭く	85.5%	94.6%	96.1%	96.1%	97.6%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19	洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	91.7%	93.8%	97.7%	96.9%	96.7%	99.1%	100.0%	100.0%	99.1%	100.0%
	20	吸引器の電源を切る	94.7%	97.7%	100.0%	98.4%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	21	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す（または廃棄する）	94.7%	96.2%	96.1%	96.9%	96.7%	100.0%	100.0%	100.0%	98.1%	100.0%
	22	手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセッシを戻す	96.0%	98.4%	99.2%	99.2%	98.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	23	吸引終了時の利用者への声かけ・姿勢を整える	91.7%	94.6%	97.7%	98.4%	97.6%	99.1%	98.2%	100.0%	99.1%	99.1%
	24	次回使用時のための物品の確認をする（吸引瓶の状況・不足物品の補充）	87.1%	92.2%	97.6%	96.8%	97.5%	99.1%	99.1%	98.1%	98.1%	100.0%
	25	手洗いをする	87.2%	92.3%	98.4%	97.6%	97.6%	96.6%	99.1%	99.1%	99.1%	99.1%
結果確認報告	26	利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	85.0%	91.5%	94.5%	95.3%	96.7%	98.3%	99.1%	100.0%	99.0%	100.0%
	27	観察・確認事項 顔色・呼吸の状態等について観察する	88.0%	90.8%	93.0%	95.3%	97.6%	98.3%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%
	28	利用者の全身状態について観察する	86.5%	90.8%	93.0%	95.3%	97.6%	98.3%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%
	29	（鼻腔の場合）鼻血や口腔内への血液の流れ込みの有無等について観察する	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30	吸引した物の量・性状等について観察する	83.5%	89.9%	92.2%	94.5%	95.1%	97.4%	99.1%	99.1%	99.0%	100.0%
	31	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを確認する（経鼻経管栄養実施者のみ）	92.8%	91.5%	97.5%	97.6%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	32	ケア責任者（看護職員）に報告する	93.2%	95.4%	97.7%	97.6%	98.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	33	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	91.5%	95.2%	96.6%	98.2%	94.6%	98.1%	100.0%	95.7%	97.9%	100.0%
片づけ	34	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	91.6%	94.1%	94.8%	97.4%	98.3%	98.1%	98.1%	99.0%	99.0%	97.9%
	35	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	94.6%	95.3%	96.0%	97.6%	96.7%	98.2%	100.0%	100.0%	99.0%	99.0%
評価総括	36	実施時刻、吸引した内容物の種類や性状及び量などを記録する	87.7%	92.9%	94.4%	96.8%	97.5%	99.1%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%

※各項目について指導者評価の記載があったものを対象に割合を算出。表中「—」印は評価対象外の項目。

n=45~133

＝介護職全体に占める「ア」の割合が100%

＝介護職全体に占める「ア」の割合が80%以上90%未満

＝介護職全体に占める「ア」の割合が80%未満

実地研修の実施回別・STEP別の達成状況 「たんの吸引・鼻腔内」

実地研修：「たんの吸引（鼻腔内）」の指導者評価

達成度	ア、1人で実施し、手引きの手順通りに実施できている
	イ、1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ、1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見過ごせないレベル）
	エ、1人での実施を任せられるレベルにはない

【達成状況】下表の「数値」(%)は、ケア実施全介護職員に対する達成度「ア」の割合

		回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目	13回目	14回目	15回目	16回目	17回目	18回目	19回目	20回目
実施準備	1 医師の指示等の確認を行う		100.0%	100.0%	100.0%	99.1%	99.1%	98.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	2 手洗いをを行う		95.9%	98.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する		94.3%	96.6%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%
	4 必要物品を利用者のもとへ運ぶ		97.4%	97.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ケア実施	5 利用者に吸引の説明をする		98.3%	98.3%	99.1%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	99.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	6 吸引の環境・利用者の姿勢を整える		90.9%	96.6%	99.1%	100.0%	100.0%	99.0%	99.0%	100.0%	99.0%	98.9%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	7 口腔内・鼻腔内を観察する		89.3%	94.9%	96.5%	99.1%	100.0%	100.0%	99.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	8 手袋の着用またはセシを持つ		98.2%	98.2%	99.0%	99.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	9 吸引チューブを清潔に取り出す		96.7%	98.3%	96.5%	99.1%	98.2%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する		95.9%	96.6%	98.2%	99.1%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を洗浄綿等で拭く		96.2%	97.1%	98.0%	99.0%	98.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	12 吸引器のスイッチを入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する		90.1%	93.2%	97.4%	97.3%	98.2%	98.0%	99.0%	99.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	13 吸引チューブの先端の水をよく切る		93.4%	97.4%	99.1%	99.1%	99.1%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14 利用者に吸引の開始について声をかける		92.6%	97.4%	99.1%	98.2%	98.2%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する		57.0%	72.6%	81.6%	90.3%	89.9%	94.1%	94.9%	95.9%	99.0%	98.9%	100.0%	98.9%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%
	16 適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する		75.2%	79.5%	86.0%	92.9%	93.6%	95.1%	95.9%	93.8%	99.0%	98.9%	98.9%	98.9%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%
	17 吸引チューブを静かに抜く		92.6%	94.9%	94.7%	98.2%	98.2%	98.0%	98.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%
	18 吸引チューブの外側を洗浄綿等で拭く		94.2%	96.6%	96.5%	98.2%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19 洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす		95.0%	95.7%	96.5%	98.2%	98.2%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	20 吸引器の電源を切る		97.5%	98.3%	98.2%	100.0%	98.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す（または廃棄する）		95.9%	95.7%	95.6%	99.1%	96.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	22 手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセシを戻す		96.6%	97.3%	97.2%	99.1%	97.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	23 吸引終了時の利用者への声かけ・姿勢を整える		90.9%	94.9%	96.5%	99.1%	98.2%	100.0%	99.0%	100.0%	99.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	24 次回使用時のための物品の確認をする（吸引瓶の状況・不足物品の補充）		90.1%	94.9%	95.6%	98.2%	96.3%	99.0%	99.0%	97.9%	99.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	25 手洗いをする		95.0%	95.7%	98.2%	98.2%	99.1%	98.0%	98.0%	99.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
結果確認報告	26 利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する		89.3%	93.2%	94.7%	97.3%	97.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	27 顔色・呼吸の状態等について観察する		90.1%	93.2%	94.7%	97.3%	97.2%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	28 利用者の全身状態について観察する		88.4%	92.3%	94.7%	97.3%	97.2%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	29（鼻腔の場合）鼻血や口腔内への血液の流れ込みの有無等について観察する		82.9%	90.3%	95.5%	98.2%	97.2%	100.0%	100.0%	97.9%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	30 吸引した物の量・性状等について観察する		87.6%	91.5%	94.7%	97.3%	96.3%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	31 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを確認する（経鼻経管栄養実施者のみ）		86.5%	95.7%	97.2%	98.7%	95.8%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	32 ケア責任者（看護職員）に報告する		94.2%	96.6%	98.2%	99.1%	98.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
片づけ	33 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）		90.2%	96.2%	98.0%	95.9%	95.8%	98.0%	97.9%	95.8%	97.8%	97.7%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	34 吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる		94.7%	96.3%	97.2%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
評価記録	35 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する		95.0%	96.5%	97.3%	99.1%	99.1%	100.0%	99.0%	100.0%	99.0%	97.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	36 実施時刻、吸引した内容物の種類や性状及び量などを記録する		93.3%	95.7%	96.4%	97.3%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

n=34～122

■ =介護職全体に占める「ア」の割合が100%

※各項目について指導者評価の記載があったものを対象に割合を算出。

■ =介護職全体に占める「ア」の割合が80%以上90%未満

■ =介護職全体に占める「ア」の割合が80%未満

実地研修の実施回別・STEP別の達成状況 「たんの吸引・気管カニューレ内部」

実地研修：「たんの吸引（気管カニューレ内部）」の指導者評価

達成度	ア. 1人で実施し、手引きの手順通りに実施できている
	イ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見過ごせないレベル）
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない

【達成状況】下表の「数値」(%)は、ケア実施全介護職員に対する達成度「ア」の割合

		回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目	13回目	14回目	15回目	16回目	17回目	18回目	19回目	20回目
実施準備	1 医師の指示等の確認を行う		96.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	2 手洗いをを行う		98.1%	98.1%	100.0%	100.0%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する		90.7%	96.1%	95.6%	97.6%	100.0%	97.6%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	4 必要物品を利用者のもとへ運ぶ		95.8%	97.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ケア実施	5 利用者に吸引の説明を行う		88.9%	88.5%	97.8%	100.0%	100.0%	97.6%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	6 吸引の環境を整える		88.7%	98.0%	95.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	7 気管カニューレ周囲や固定の状態（出血や損傷の有無）を観察する		70.4%	88.5%	91.3%	97.7%	97.6%	97.6%	97.5%	97.5%	97.2%	97.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	8 手袋の着用またはセッシを持つ		81.3%	97.8%	97.5%	100.0%	100.0%	97.1%	100.0%	97.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	9 吸引チューブを清潔に取り出す		77.8%	90.4%	95.6%	100.0%	100.0%	97.6%	100.0%	97.5%	94.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する		88.9%	96.2%	97.8%	100.0%	100.0%	97.5%	100.0%	96.6%	100.0%	97.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11 （浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く		88.1%	87.5%	91.7%	96.9%	100.0%	96.7%	96.6%	96.6%	100.0%	100.0%	100.0%	95.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	12 吸引器のスイッチを入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する		87.0%	94.2%	95.7%	97.7%	97.6%	92.7%	95.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	13 吸引チューブ先端の水をよく切る		91.7%	93.5%	92.5%	97.3%	100.0%	97.4%	97.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14 利用者に吸引の開始について声かけをする		90.7%	88.5%	93.5%	97.7%	100.0%	95.1%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する		66.7%	86.5%	93.5%	95.3%	95.2%	95.1%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16 適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する		75.9%	84.6%	95.7%	95.3%	97.6%	97.6%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	17 吸引チューブを静かに抜く		90.7%	96.2%	97.8%	100.0%	100.0%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く		90.7%	94.2%	95.7%	93.0%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19 滅菌精製水を吸引し吸引チューブ内側を清掃する		92.3%	96.0%	95.5%	95.0%	97.5%	97.6%	97.5%	100.0%	97.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	20 吸引器の電源を切る		98.1%	100.0%	95.7%	92.9%	97.6%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す（または廃棄する）		85.2%	96.2%	89.1%	92.9%	97.6%	97.6%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	22 手袋をはずす（手袋を着用している場合）またはセッシを戻す		97.9%	100.0%	97.5%	97.2%	97.2%	97.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	23 吸引終了時の利用者への声かけ・姿勢を整える		83.3%	92.3%	95.7%	97.6%	97.6%	100.0%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	24 次回使用時のための物品の確認をする（吸引瓶の状況・不足物品の補充）		88.9%	94.2%	95.7%	97.6%	97.6%	97.6%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	25 手洗いをする		88.9%	96.2%	97.8%	97.6%	95.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
結果確認報告	26 利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する		85.2%	96.2%	95.7%	95.2%	97.6%	100.0%	97.4%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	27 顔色・呼吸の状態等について観察する		85.2%	96.2%	95.7%	95.2%	97.6%	100.0%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	28 利用者の全身状態について観察する		85.2%	90.4%	93.5%	95.2%	97.6%	100.0%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	29 吸引した物の量・性状等について観察する		81.5%	90.4%	93.5%	88.1%	92.9%	97.5%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	30 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを確認する（経鼻経管栄養実施者のみ）		83.9%	90.6%	96.6%	92.6%	92.0%	96.2%	96.3%	100.0%	96.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	31 ケア責任者（看護職員）に報告する		88.7%	96.2%	95.7%	97.7%	97.6%	97.5%	94.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	32 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）		69.2%	73.1%	73.9%	75.0%	94.4%	83.3%	87.5%	93.8%	92.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
片づけ	33 吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる		86.3%	93.9%	95.3%	97.4%	100.0%	97.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	34 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する		90.7%	94.2%	95.7%	97.6%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
評価記録	35 実施時刻、吸引した内容物の種類や性状及び量などを記録する		87.0%	88.5%	91.3%	92.9%	97.6%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

n=9～54

＝介護職全体に占める「ア」の割合が100%

※各項目について指導者評価の記載があったものを対象に割合を算出。

＝介護職全体に占める「ア」の割合が80%以上90%未満

＝介護職全体に占める「ア」の割合が80%未満

実地研修の実施回別・STEP別の達成状況 「経管栄養・胃ろう・腸ろう」

実地研修：「経管栄養（胃ろう・腸ろう）」の指導者評価

達成度	ア、1人で実施し、手引きの手順通りに実施できている
	イ、1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ、1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見過ごせないレベル）
	エ、1人で実施を任せられるレベルにはない

【達成状況】下表の「数値」(%)は、ケア実施全介護職員に対する達成度「ア」の割合

		回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目	13回目	14回目	15回目	16回目	17回目	18回目	19回目	20回目
実施準備	1	医師の指示等の確認を行う	100.0%	99.2%	99.2%	99.2%	99.2%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%
	2	手洗いをを行う	96.2%	99.2%	100.0%	99.2%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	3	必要な物品を準備する	93.9%	93.7%	95.2%	99.2%	99.2%	98.2%	99.1%	100.0%	99.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・温度・時間を確認する	88.5%	91.3%	95.2%	98.4%	98.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	5	経管栄養の注入準備を行う	84.7%	92.1%	93.6%	94.3%	95.0%	98.2%	96.4%	99.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	6	準備した栄養剤（流動食）を利用者のもとに運ぶ	97.7%	96.9%	98.4%	99.2%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ケア実施	7	利用者に本人確認を行い、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養の説明を行う	94.7%	97.6%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	8	注入する栄養剤（流動食）が利用者本人のものかどうかを確認する	90.3%	93.3%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	9	胃ろう・腸ろう栄養チューブの挿入部の状態を確認し体位及び環境を整える	77.1%	88.2%	92.0%	95.9%	97.5%	97.4%	97.3%	99.0%	97.0%	97.9%	97.8%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	90.8%	95.3%	95.2%	96.7%	98.3%	99.1%	99.1%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	98.8%	96.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	93.9%	94.5%	96.0%	99.2%	99.2%	99.1%	100.0%	99.0%	100.0%	99.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	12	利用者の体位を観察する	90.8%	91.3%	96.0%	98.4%	96.7%	99.1%	99.1%	99.0%	99.0%	97.9%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	13	利用者の嚥下の状態を観察する	87.5%	92.7%	96.7%	98.3%	100.0%	99.1%	99.1%	100.0%	99.0%	99.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%
	14	挿入部からの栄養剤（流動食）のものを確認する。	84.0%	93.7%	96.0%	99.2%	99.2%	100.0%	99.1%	100.0%	99.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	15	利用者に気分不快、腹部ぼう満感、おう気・おう吐などがないか確認する	87.8%	92.1%	94.4%	96.7%	95.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16	注入終了後は白濁を注入し、状態を観察する	88.5%	94.4%	96.0%	97.5%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	99.0%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	17	連結を外し、逆流を防ぐために栄養点滴チューブを止めるとともに頭部を挙上する	85.4%	91.3%	95.2%	98.4%	98.3%	100.0%	98.2%	100.0%	99.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
結果確認報告	18	利用者の状態を食後しばらく観察する	90.8%	92.9%	95.2%	98.4%	98.3%	98.2%	98.2%	99.0%	99.0%	97.9%	98.9%	98.9%	98.9%	98.8%	97.6%	97.5%	98.7%	98.7%	98.7%	98.6%
	19	腹部ぼう満感がないか観察する	90.1%	91.3%	93.6%	95.9%	98.3%	99.1%	99.1%	99.0%	99.0%	97.9%	98.9%	98.9%	98.9%	98.8%	98.8%	97.5%	98.7%	98.7%	98.7%	98.6%
	20	おう気・おう吐がないか観察する	90.8%	92.1%	93.6%	96.7%	98.3%	99.1%	99.1%	99.0%	99.0%	97.9%	98.9%	98.9%	98.9%	98.8%	98.8%	97.5%	98.7%	98.7%	98.7%	98.6%
	21	腹痛・呼吸困難がないか観察する	90.8%	90.6%	92.8%	96.7%	98.3%	99.1%	99.1%	99.0%	99.0%	97.9%	98.9%	98.9%	98.9%	98.8%	98.8%	97.5%	98.7%	98.7%	98.7%	98.6%
	22	嚥たきり者に対しては、異常がなければ体位変換を再開する	89.6%	94.2%	95.8%	95.7%	98.3%	99.1%	99.1%	98.0%	99.0%	96.7%	98.9%	98.9%	98.9%	98.8%	98.8%	97.5%	98.7%	98.6%	97.2%	98.6%
	23	ケア責任者（看護職員）に報告する	93.8%	96.0%	95.2%	96.7%	98.3%	99.1%	99.1%	99.0%	99.0%	97.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
片づけ	24	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	96.9%	93.3%	93.1%	96.4%	94.7%	96.4%	98.1%	97.9%	95.7%	95.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
評価記録	25	使用物品を後片付けする	94.7%	93.7%	98.4%	98.4%	97.5%	99.1%	99.1%	99.0%	99.0%	97.9%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	26	実施時刻、栄養剤（流動食）の種類、量等について記録する	87.5%	93.6%	96.7%	96.7%	97.5%	98.2%	98.1%	98.1%	98.0%	97.9%	100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	98.8%	98.8%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%

n=36~131

=介護職全体に占める「ア」の割合が100%

※各項目について指導者評価の記載があったものを対象に割合を算出。

=介護職全体に占める「ア」の割合が80%以上90%未満

=介護職全体に占める「ア」の割合が80%未満

実地研修の実施回別・STEP別の達成状況 「経管栄養・経鼻」

実地研修：「経管栄養（経鼻）」の指導者評価

達成度	ア. 1人で実施し、手引きの手順通りに実施できている
	イ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見過ごせないレベル）
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない

【達成状況】下表の「数値」(%)は、ケア実施全介護職員に対する達成度「ア」の割合

		回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目	13回目	14回目	15回目	16回目	17回目	18回目	19回目	20回目
実施準備	1	医師の指示等の確認を行う	97.9%	100.0%	100.0%	98.8%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	2	手洗いをを行う	98.9%	100.0%	98.8%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	3	必要な物品を準備する	97.9%	98.9%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・温度・時間を確認する	94.7%	95.5%	96.4%	96.2%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	5	経管栄養の注入準備を行う	93.6%	95.5%	98.8%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	98.4%	96.7%	100.0%	100.0%	100.0%	97.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	6	準備した栄養剤（流動食）を利用者のもとに運ぶ	97.9%	98.9%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ケア実施	7	利用者に本人確認を行い、処置の説明を行う	97.9%	97.8%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	8	注入する栄養剤（流動食）が利用者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	88.3%	95.5%	96.4%	94.9%	100.0%	98.6%	97.1%	100.0%	98.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	9	経鼻経管栄養チューブが正しく挿入されているかを確認し、適切な体位に整える	77.7%	92.1%	92.8%	97.5%	97.4%	97.3%	98.6%	100.0%	98.4%	98.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	95.7%	96.6%	98.8%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	95.7%	97.8%	97.6%	98.7%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	12	利用者の体位を観察する	92.6%	97.8%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	13	利用者の嚥下の状態を観察する	87.2%	93.3%	98.8%	97.5%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14	利用者に気分不快、腹部ぼろ満感、おう気・おう吐などがないか確認する	88.3%	96.6%	95.2%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	15	注入終了後は白濁を注入し、状態を観察する	93.6%	95.5%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16	連結を外し、逆流を防ぐために栄養点滴チューブを止めるとともに頭部を挙上する	91.5%	94.4%	97.6%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
結果確認報告	17	利用者の状態を食後しばらく観察する	91.5%	94.4%	96.4%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	18	腹部ぼろ満感がないか観察する	84.0%	87.6%	92.8%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19	おう気・おう吐がないか観察する	88.3%	89.9%	94.0%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	20	腹痛・呼吸困難がないか観察する	87.2%	89.9%	92.8%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	21	寝たきり者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	91.2%	95.3%	97.5%	98.7%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	22	ケア責任者（看護職員）に報告する	97.9%	96.6%	98.8%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
片づけ	23	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	96.4%	95.3%	100.0%	100.0%	100.0%	96.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	24	使用物品を後片付けする	96.8%	96.6%	98.8%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
評価記録	25	実施時刻、栄養剤（流動食）の種類、量等について記録する	90.3%	95.5%	98.8%	97.4%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

n=22～94

≒介護職全体に占める「ア」の割合が100%

≒介護職全体に占める「ア」の割合が80%以上90%未満

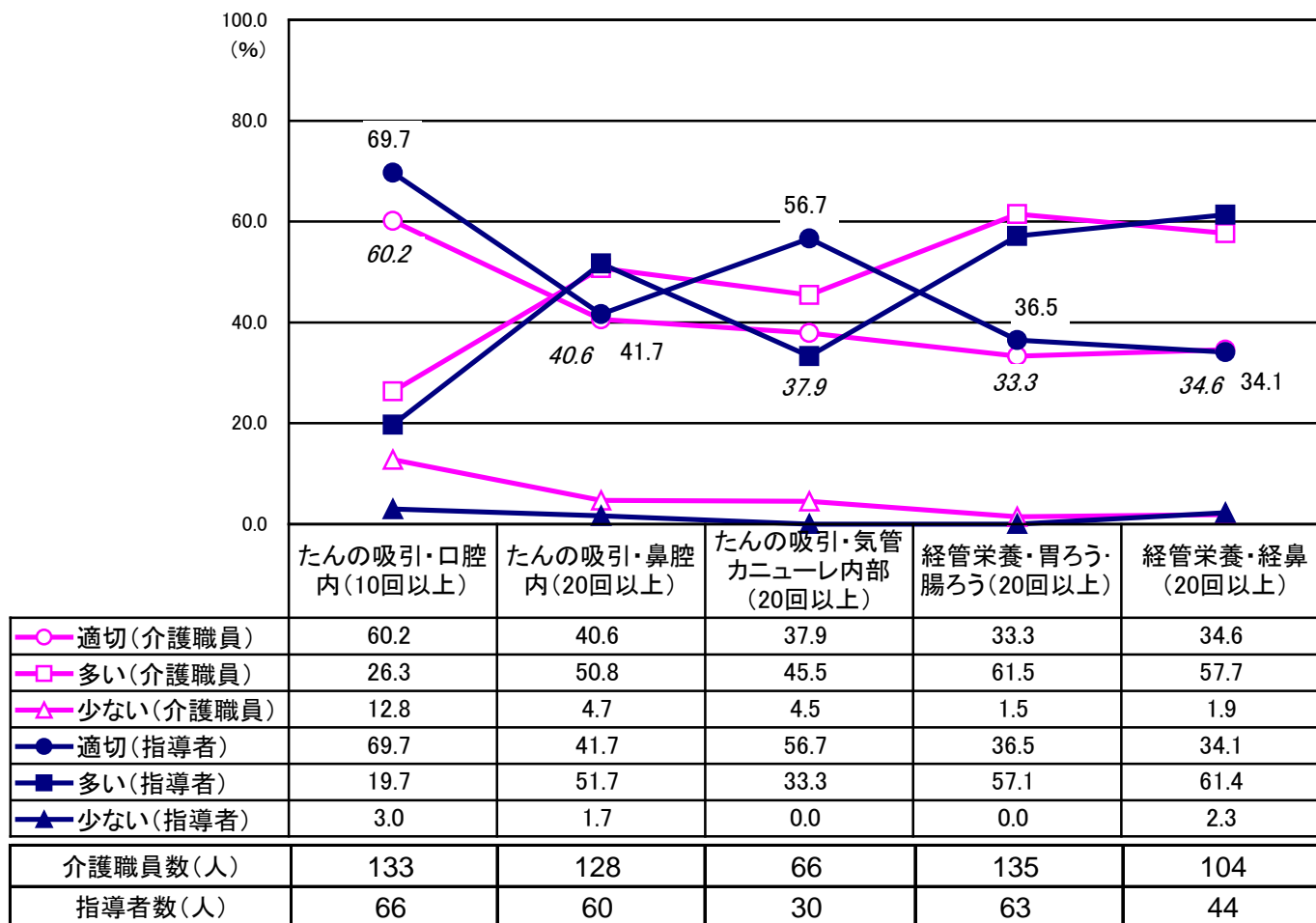
≒介護職全体に占める「ア」の割合が80%未満

※各項目について指導者評価の記載があったものを対象に割合を算出。

実地研修(所定回数)の評価(実地研修アンケート結果)

○ 指導者の回答では、たんの吸引(口腔内)で「適切」が69.7%、気管カニューレでは56.7%であった。その他のケアでは「適切」が34.1~41.7%で「多い」の回答割合が高い。

【実地研修】所定回数の適切さ



実地研修(所定回数)の評価(実地研修アンケート結果)

- 実地研修の所定回数について、「多い」と回答したものが適切だと思う回数(平均値)は、介護職員では5.1～9.4回、指導者では4.7～9.0回であり、所定回数に対して約43%～51%の水準であった。
- 「少ない」選択者が適切だと思う回数(平均値)は、介護職員では20.4～40.0回、指導者では20回(口腔内吸引)で、所定回数に対して約150～204%の水準であった。

【実地研修】「多い・少ない」選択者の適切だと思う回数(平均値)

	介護職員									指導者								
	全体 (人)	「多い」選択者				「少ない」選択者				全体 (人)	「多い」選択者				「少ない」選択者			
		n (人)	最大値 (回)	最小値 (回)	平均値 (回)	n (人)	最大値 (回)	最小値 (回)	平均値 (回)		n (人)	最大値 (回)	最小値 (回)	平均値 (回)	n (人)	最大値 (回)	最小値 (回)	平均値 (回)
たんの吸引・口腔内 (10回以上)	133	25 【35】	7.5	1	5.1	13 【17】	40	15	20.4	66	10 【13】	5	2.5	4.7	2 【2】	20	20	20.0
たんの吸引・鼻腔内 (20回以上)	128	63 【65】	15	1	9.0	2 【6】	40	30	35.0	60	29 【31】	12.5	2.5	9.0	0 【1】	—	—	—
たんの吸引・気管カニューレ内 部(20回以上)	66	28 【30】	15	2	8.7	2 【3】	30	30	30.0	30	8 【10】	15	2.5	8.9	0 【0】	—	—	—
経管栄養・胃ろう・腸ろう (20回以上)	135	81 【83】	15	1	8.8	1 【2】	40	40	40.0	63	32 【36】	15	2.5	8.9	0 【0】	—	—	—
経管栄養・経鼻 (20回以上)	104	58 【60】	15	3	9.4	1 【2】	40	40	40.0	44	23 【27】	15	2.5	8.5	0 【1】	—	—	—

※n(回答者数)の上段は、数値無回答者を除外した人数。下段の【 】内は全回答者人数。

※最大値7.5回の回答は、7～8回であったものの間をとっている。指導者の12.5回、2.5回も同じ。

実地研修(所定回数)の評価(実地研修アンケート結果)

○ ケアの試行への進行可否別に実地研修の所定回数への評価をみると、ケアの試行に進行できなかった者(進行不可)でも、「多い」という回答がみられた。

実地研修でのケア(たんの吸引・口腔内)

ケアの試行進行の可否	人数	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	133	80	35	17	1	0
ケアの試行進行可	103	58	31	13	1	0
ケアの試行進行不可	30	22	4	4	0	0

ケアの試行進行の可否	割合	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	100.0%	60.2%	26.3%	12.8%	0.8%	0.0%
ケアの試行進行可	100.0%	56.3%	30.1%	12.6%	1.0%	0.0%
ケアの試行進行不可	100.0%	73.3%	13.3%	13.3%	0.0%	0.0%

実地研修でのケア(たんの吸引・鼻腔内)

ケアの試行進行の可否	人数	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	128	52	65	6	2	3
ケアの試行進行可	96	37	54	4	1	0
ケアの試行進行不可	32	15	11	2	1	3

ケアの試行進行の可否	割合	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	100.0%	40.6%	50.8%	4.7%	1.6%	2.3%
ケアの試行進行可	100.0%	38.5%	56.3%	4.2%	1.0%	0.0%
ケアの試行進行不可	100.0%	46.9%	34.4%	6.3%	3.1%	9.4%

実地研修でのケア(たんの吸引・気管カニューレ内部)

ケアの試行進行の可否	人数	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	66	25	30	3	1	7
ケアの試行進行可	33	17	15	1	0	0
ケアの試行進行不可	33	8	15	2	1	7

ケアの試行進行の可否	割合	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	100.0%	37.9%	45.5%	4.5%	1.5%	10.6%
ケアの試行進行可	100.0%	51.5%	45.5%	3.0%	0.0%	0.0%
ケアの試行進行不可	100.0%	24.2%	45.5%	6.1%	3.0%	21.2%

実地研修でのケア(経管栄養・胃ろう・腸ろう)

ケアの試行進行の可否	人数	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	135	45	83	2	1	4
ケアの試行進行可	101	35	64	1	0	1
ケアの試行進行不可	34	10	19	1	1	3

ケアの試行進行の可否	割合	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	100.0%	33.3%	61.5%	1.5%	0.7%	3.0%
ケアの試行進行可	100.0%	34.7%	63.4%	1.0%	0.0%	1.0%
ケアの試行進行不可	100.0%	29.4%	55.9%	2.9%	2.9%	8.8%

実地研修でのケア(経管栄養・経鼻)

ケアの試行進行の可否	人数	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	104	36	60	2	0	6
ケアの試行進行可	69	23	45	1	0	0
ケアの試行進行不可	35	13	15	1	0	6

ケアの試行進行の可否	割合	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	100.0%	34.6%	57.7%	1.9%	0.0%	5.8%
ケアの試行進行可	100.0%	33.3%	65.2%	1.4%	0.0%	0.0%
ケアの試行進行不可	100.0%	37.1%	42.9%	2.9%	0.0%	17.1%

実地研修(所定回数)の評価(実地研修アンケート結果)

- 所定回数について、「多い」と回答した者は主に、「訪問介護事業所」と「障害者福祉施設」で多い傾向がみられた。

実地研修(たんの吸引・口腔内)

介護職員の所属組織	n	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	133	60.2%	26.3%	12.8%	0.8%	0.0%
特別養護老人ホーム	28	82.1%	10.7%	7.1%	0.0%	0.0%
老人保健施設	26	61.5%	26.9%	11.5%	0.0%	0.0%
訪問介護事業所	24	37.5%	45.8%	12.5%	4.2%	0.0%
グループホーム	18	55.6%	16.7%	27.8%	0.0%	0.0%
有料老人ホーム	18	66.7%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%
障害者福祉施設	14	42.9%	50.0%	7.1%	0.0%	0.0%
その他	5	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%

実地研修(経管栄養・胃ろう・腸ろう)

介護職員の所属組織	n	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	135	33.3%	61.5%	1.5%	0.7%	3.0%
特別養護老人ホーム	28	53.6%	46.4%	0.0%	0.0%	0.0%
老人保健施設	26	30.8%	61.5%	0.0%	0.0%	7.7%
訪問介護事業所	25	4.0%	84.0%	0.0%	4.0%	8.0%
グループホーム	21	38.1%	57.1%	4.8%	0.0%	0.0%
有料老人ホーム	16	56.3%	43.8%	0.0%	0.0%	0.0%
障害者福祉施設	14	7.1%	85.7%	7.1%	0.0%	0.0%
その他	5	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%

実地研修(たんの吸引・鼻腔内)

介護職員の所属組織	n	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	128	40.6%	50.8%	4.7%	1.6%	2.3%
特別養護老人ホーム	28	53.6%	42.9%	3.6%	0.0%	0.0%
老人保健施設	23	43.5%	56.5%	0.0%	0.0%	0.0%
訪問介護事業所	24	25.0%	62.5%	4.2%	8.3%	0.0%
グループホーム	17	47.1%	41.2%	11.8%	0.0%	0.0%
有料老人ホーム	18	38.9%	44.4%	0.0%	0.0%	16.7%
障害者福祉施設	14	21.4%	71.4%	7.1%	0.0%	0.0%
その他	4	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%

実地研修(経管栄養・経鼻)

介護職員の所属組織	n	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	104	34.6%	57.7%	1.9%	0.0%	5.8%
特別養護老人ホーム	28	53.6%	46.4%	0.0%	0.0%	0.0%
老人保健施設	15	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
訪問介護事業所	18	11.1%	72.2%	0.0%	0.0%	16.7%
グループホーム	15	26.7%	66.7%	6.7%	0.0%	0.0%
有料老人ホーム	13	53.8%	23.1%	0.0%	0.0%	23.1%
障害者福祉施設	10	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	0.0%
その他	5	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%

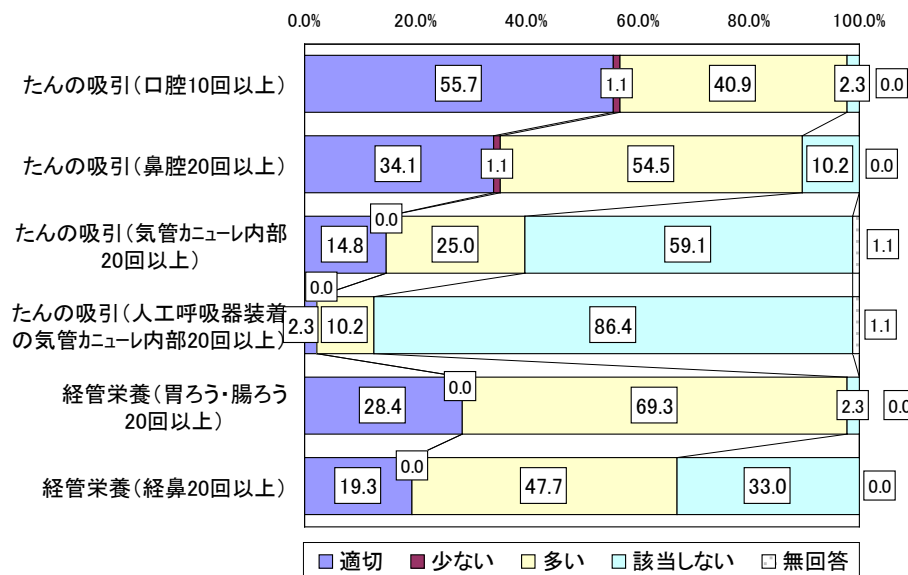
実地研修(たんの吸引・気管カニューレ内部)

介護職員の所属組織	n	適切	多い	少ない	不要	無回答
全体(ケア実施1回以上)	66	37.9%	45.5%	4.5%	1.5%	10.6%
特別養護老人ホーム	11	36.4%	54.5%	0.0%	0.0%	9.1%
老人保健施設	8	12.5%	75.0%	0.0%	0.0%	12.5%
訪問介護事業所	21	42.9%	33.3%	9.5%	4.8%	9.5%
グループホーム	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
有料老人ホーム	8	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%
障害者福祉施設	14	21.4%	71.4%	7.1%	0.0%	0.0%
その他	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

ケアの試行後 実地研修(所定回数)の評価結果

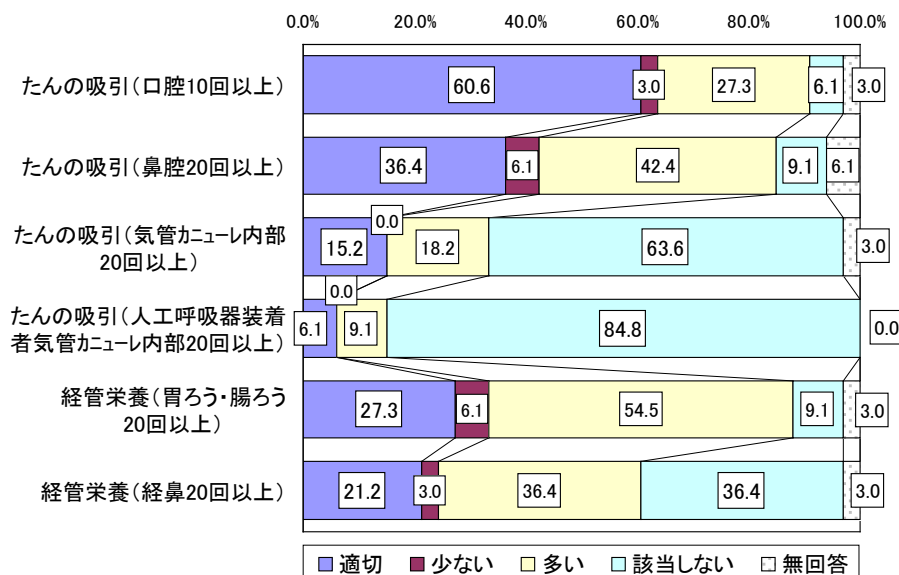
○ ケアの試行後に評価すると、たんの吸引(口腔)については、介護職員、連携看護職員ともに、約6割が「適切」と評価しているが、それ以外の種類のケアについては、「多い」と評価する者の割合が高い。

実地研修の所定回数評価(介護職員) (n=88)



※実地研修で1回以上実施したケアについて回答を求めた。

実地研修の所定回数評価(連携看護職員) (n=33)



※連携看護職員のうち、「指導者講習(10/29開催)」の受講者33名が回答対象。
ケアの試行で指導をしたケアについて回答を求めた。

実地研修判定結果と基本研修の理解状況、講義時間の評価

○ 基本研修(講義)について「理解できた」の回答が全体の中で少ない者は、実施研修の判定結果でケアの試行に進んだ割合が低い傾向があった。

また、基本研修の講義時間の評価と実地研修の判定結果について、一定の傾向はみられなかった。

基本研修の理解状況別 実地研修判定結果(ケアの試行への進行可の判定割合)

	たんの吸引・口腔内		たんの吸引・鼻腔内		たんの吸引・気管カニューレ内部		経管栄養・胃ろう・腸ろう		経管栄養・経鼻	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体	133	77.4%	128	75.0%	66	50.0%	135	74.8%	104	66.3%
理解度95点以上	105	77.1%	100	77.0%	49	55.1%	107	78.5%	84	66.7%
理解度90～95点未満	17	94.1%	17	82.4%	9	44.4%	17	76.5%	12	83.3%
理解度90点未満	11	54.5%	11	45.5%	8	25.0%	11	36.4%	8	37.5%

※理解度の点数は、「理解できた」の回答が多かったため、便宜的に以下の方法で分析した。

基本研修の各講義(44講義)の理解度に関する介護職員の回答について、

「1.理解できた」=100

「2.だいたい理解できたが、一部理解できないところがあった」=66.7

「3.一部は理解できたが、大半は理解できなかった」=33.3

「4.理解できなかった」=0 として配点し、44講義の加重平均値から3群を設定した。

基本研修の講義時間評価別 実地研修判定結果(ケアの試行への進行可の判定割合)

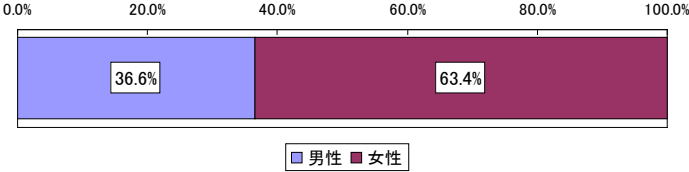
	たんの吸引・口腔内		たんの吸引・鼻腔内		たんの吸引・気管カニューレ内部		経管栄養・胃ろう・腸ろう		経管栄養・経鼻	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体	133	77.4%	128	75.0%	66	50.0%	135	74.8%	104	66.3%
長い(20講義以上)	41	80.5%	40	70.0%	24	62.5%	40	72.5%	27	63.0%
長い(10～20講義未満)	37	75.7%	34	70.6%	22	50.0%	39	71.8%	29	48.3%
長い(10講義未満)	55	76.4%	54	81.5%	20	35.0%	56	78.6%	48	79.2%

※基本研修の各講義(44講義)の講義時間について、「長い」と回答のあった講義数によって、3群を設定した。

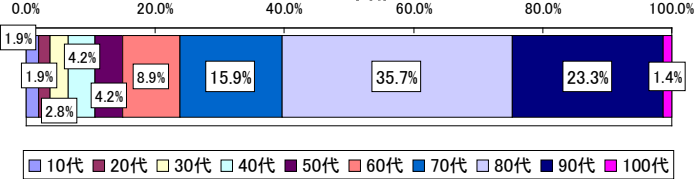
実地研修及びケアの試行の 実施状況について

実地研修の実施状況（ケア対象者の属性）

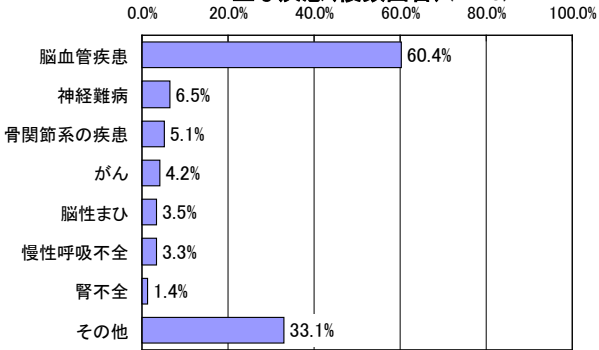
性別 (n=429)



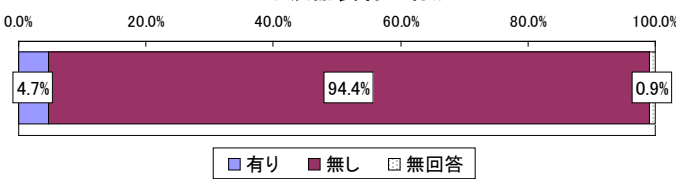
年齢 (n=429)



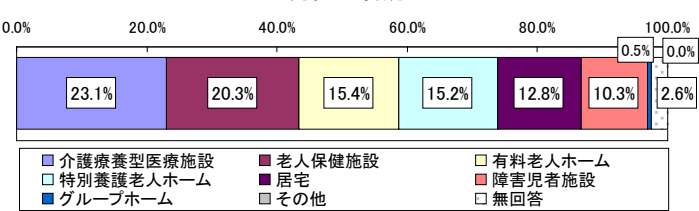
主な疾患(複数回答) (n=429)



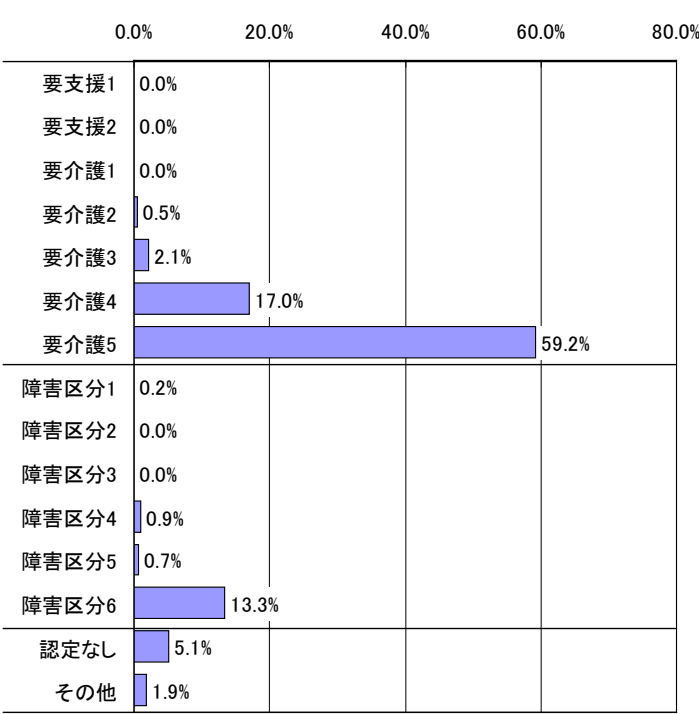
人工呼吸器装着の有無 (n=429)



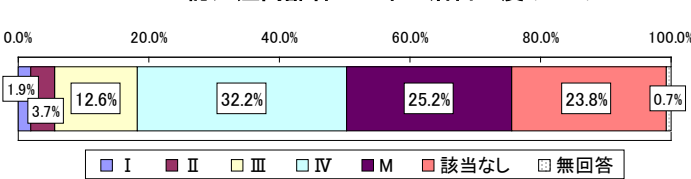
現在の居所 (n=429)



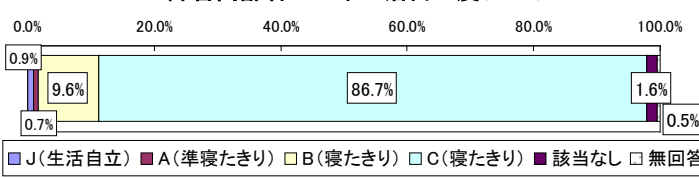
要介護度・障害程度区分(複数回答) (n=429)



認知症高齢者の日常生活自立度 (n=429)



障害高齢者の日常生活自立度 (n=429)



ヒヤリハット・アクシデント報告の報告状況（実地研修）

- ヒヤリハット・アクシデント報告の提出者は66名（ケア実施1回以上の介護職員138名のうちの47.8%）であり、記入件数は316件（平均値4.8件、中央値2.0件、最大値29件、最小値1件）であった。
- ケアの種類の記入件数は、「経管栄養・胃ろう・腸ろう」84件、「たんの吸引・口腔内」59件、「たんの吸引・鼻腔内」56件、「たんの吸引・気管カニューレ内部」54件の順であった。

※ヒヤリハット・アクシデント報告の記入条件

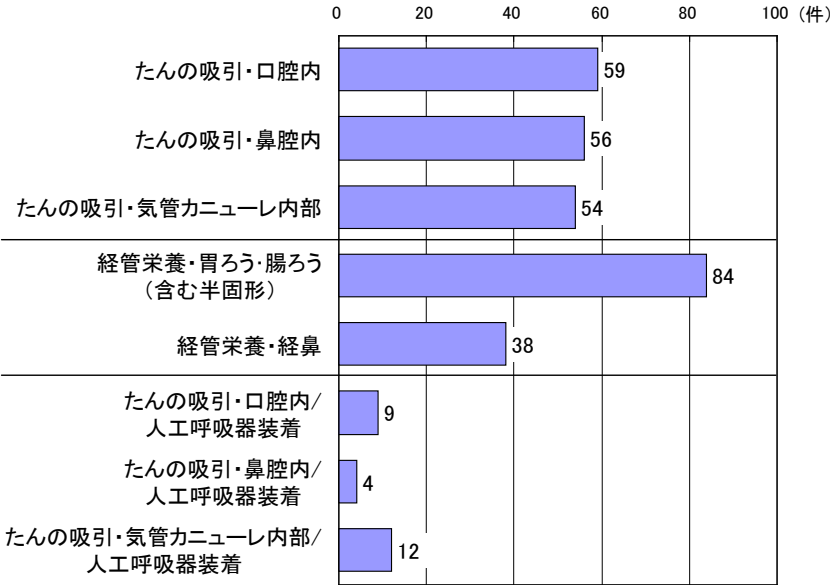
指導者評価において、全てのプロセス評価の評価項目で「ア」の個数が、たんの吸引では22個以上、経管栄養では16個以上になった以降については、その後、指導者評価又は自己評価の評価項目で「イ」又は「ウ」となった場合に、ケア実施介護職員は所定の報告様式（ヒヤリハット・アクシデント報告書）を記入する。

出来事の影響度分類(レベル説明)	
レベル0.	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、利用者には実施されなかった
レベル1.	利用者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない)
レベル2.	処置や治療は行わなかった(利用者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた)
レベル3a.	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
レベル3b.	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
レベル4a.	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害は伴わない
レベル4b.	永続的な障害や後遺症が残る、有意な機能障害の問題を伴う
レベル5.	レベル4bを超える影響を与えた

記入件数別の介護職員数

記入件数	人数(人)
29	1
18	1
16	1
13	1
12	1
11	3
10	3
9	1
8	1
7	3
6	5
5	4
4	3
3	4
2	19
1	15
合計	66

実施ケアの種類の記入件数(n=316)

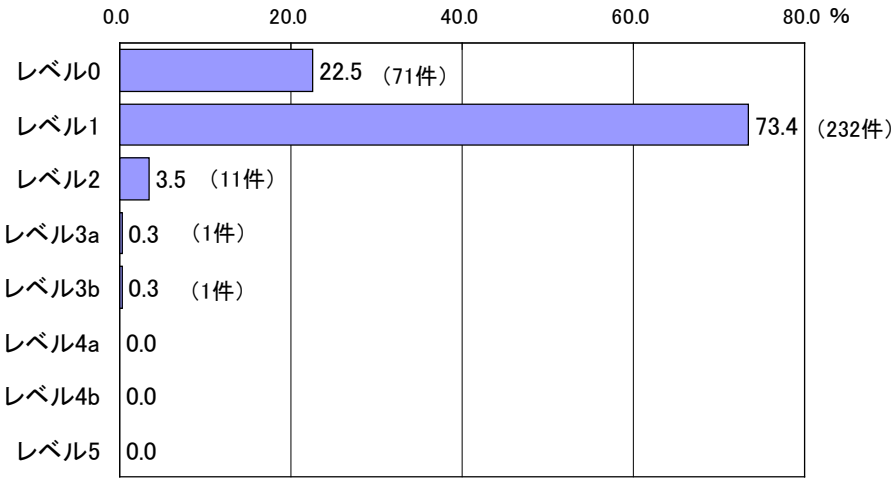


ヒヤリハット・アクシデント報告 影響度別分類（実地研修）

○影響度分類別では、「レベル1」(73.4%)、「レベル0」(22.5%)が多く、合わせて9割以上を占めた。

○「レベル2」は11件、「レベル3a」及び「レベル3b」がそれぞれ1件であった。

【実地研修】影響度分類別の割合（記入件数）(n=316)



【実地研修】ヒヤリハット・アクシデント報告 記入件数・記入率

ケアの種類	ケア実施回数	HH記入件数	記入率
全体	8,423	316	3.8%
たんの吸引・口腔内	2,025	59	2.9%
たんの吸引・鼻腔内	2,031	56	2.8%
たんの吸引・気管カニューレ内部	841	54	6.4%
経管栄養・胃ろう・腸ろう （含む半固形）	2,126	84	4.0%
経管栄養・経鼻	1,233	38	3.1%
たんの吸引・口腔内/ 人工呼吸器装着	5	9	180.0%
たんの吸引・鼻腔内/ 人工呼吸器装着	5	4	80.0%
たんの吸引・気管カニューレ内部/ 人工呼吸器装着	157	12	7.6%

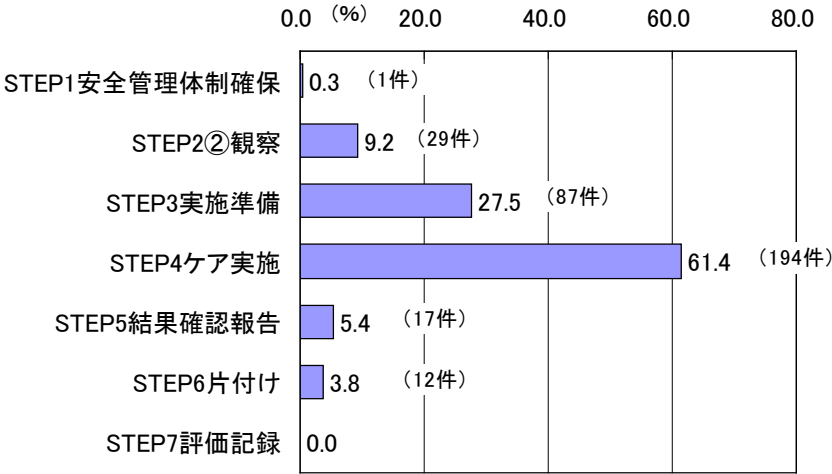
【実地研修】ケアの種類別の影響度分類（n=316）

上段:度数 下段:%		出来事の影響度分類								
		合計	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4a	レベル4b	レベル5
実施したケアの種類	全体	316 100.0	71 22.5	232 73.4	11 3.5	1 0.3	1 0.3	-	-	-
	たんの吸引・口腔内	59 100.0	16 27.1	41 69.5	2 3.4	-	-	-	-	-
	たんの吸引・鼻腔内	56 100.0	6 10.7	45 80.4	5 8.9	-	-	-	-	-
	たんの吸引・気管カニューレ内部	54 100.0	13 24.1	40 74.1	-	1 1.9	-	-	-	-
	経管栄養・胃ろう・腸ろう	84 100.0	17 20.2	64 76.2	3 3.6	-	-	-	-	-
	経管栄養・経鼻	38 100.0	13 34.2	24 63.2	-	-	1 2.6	-	-	-
	たんの吸引・人工呼吸器装着の口腔内	9 100.0	1 11.1	8 88.9	-	-	-	-	-	-
	たんの吸引・人工呼吸器装着の鼻腔内	4 100.0	1 25.0	3 75.0	-	-	-	-	-	-
	たんの吸引・人工呼吸器装着の気管カニューレ内部	12 100.0	4 33.3	7 58.3	1 8.3	-	-	-	-	-

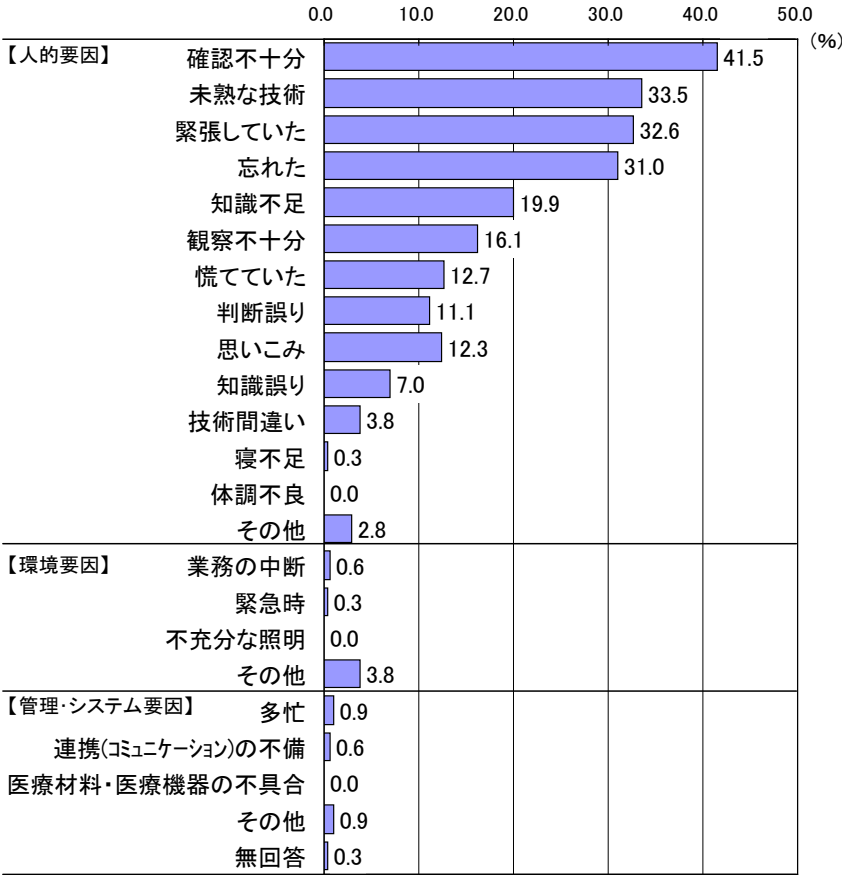
ヒヤリハット・アクシデント報告（実地研修）

- ケアのSTEP別では、「STEP4ケア実施」(61.4%)が最も多く、次いで「STEP3実施準備」(27.5%)であった。
- 出来事の発生要因別では、「人的要因」を挙げた介護職員が殆どであり、そのうち「確認不十分」(41.5%)が最も多かった。次いで、「未熟な技術」(33.5%)、「緊張していた」(32.6%)、「忘れた」(31.0%)となっていた。

発生STEP別記入件数(複数回答)(n=316)



出来事の発生要因(複数回答)(n=316)



事例の概要（レベル2以上①）

影響度	ケアの種類	ヒヤリハットの発生の状況	ヒヤリハット発生の要因・背景	対応状況	助言・指導内容
3b	経管栄養（経鼻）	経鼻経管栄養終了後、車椅子からベッドへ臥床し休んでいる間に 経鼻チューブを自己抜去 された。	自己抜去	看護職員がかかりつけ医に連絡、明日挿管予定。自施設の医師から点滴オーダー。	終了後、ベッド臥床時のカテーテル位置等は確認も、ご本人の活動状況までは指導看護師共々想像以上の出来事であった。
3a	気管カニューレ	気管カニューレ内部の吸引を行う際、 チューブが挿入できなかった 。利用者には変化なし。	気管カニューレが、たんによって閉塞していたために起きた。	指導看護師が気管カニューレ閉塞をその場で処置。その後、記入者自身がチューブの挿入、吸引を行った。	適切な報告であった。
2	気管カニューレ（人工呼吸器）	気管カニューレ内の吸引をし、酸素を元に戻す際、 酸素のカテーテルの接続部を強く押しこみ 、利用者さんが苦しそうになりました。	気管カニューレの接続部の取り扱いを、きちんと習得していなかった。	指導看護師さんが酸素・カテーテルと気管カニューレの接続部の取り扱いと、強く押さえることのリスクについて説明して頂きました。	酸素カテーテルと気管カニューレの接続部の取り扱いの練習と、強く押さえることによるリスクについて説明した。
2	鼻腔内吸引	鼻から痰の吸引をした時、 チューブの先端が鼻腔内の粘膜にくっつき 、少量出血させてしまった。	鼻腔からの吸引に緊張していた。チューブ10cm程のところまで圧をかけたが、まだ痰に届いておらず、粘膜を傷つけてしまった。	指導看護師より少量なので大丈夫でしょうとのこと。	慣れてないこともあり、恐る恐るチューブの挿入をしたため、手の振えも加わり鼻腔内粘膜を突ついた可能性がある。鼻腔内のしくみを再確認し、チューブの挿入角度を変えてみたり、また、スムーズに挿入できない場合は、傷つける恐れもあるのでNsに報告する。吸引する時、粘膜に当たっていると音がちがう（高い音）ことも話しました。苦痛表情も見逃さないこと。
2	鼻腔内吸引	痰からみが見られたため、鼻腔より吸引実施。実施中、咳こみ見られる。そのまま吸引継続してしまう。実施後、吸引チューブより鮮血あり。また 鼻腔内よりも鮮血 見られる。	たんがらみが見られた際、“吸引をして楽にしてあげれば”という思いが強くなってしまったがために、咳こむ時に続けてしまい、鼻腔内を傷つけてしまったと思う。	吸引中止し、鼻腔内ティッシュにて止血を行う。また、指導看護師に報告。様子観察して頂く。	吸引時の方法について話す。無理せず吸引する。
2	鼻腔内吸引	鼻腔内吸引実施、傷をつけめようとしたが、 鼻腔内より出血 みられる。	痰の有無に気づくのが遅くなってしまったため、傷つけてしまった。	吸引を中止し、様子観察を行う。指導看護師に報告する。	無理せず様子をみながら吸引していく。
2	鼻腔内吸引	鼻腔より吸引実施中、粘膜を傷つけてしまい、 出血 してしまう。	吸引チューブを挿入する際、傷つけめよう気をつけてつもりだが、未熟な技術のため傷つけてしまった。	吸引を中止し、観察。止血したことを確認。指導看護師に報告する。	拒否はなく、上手に鼻腔内に入ったが、出血してしまった。いつ何が起こるかわからないので気をつけていくこと。

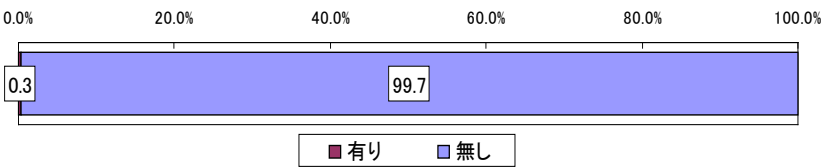
事例の概要（レベル2以上②）

影響度	ケアの種類	ヒヤリハットの発生の状況	ヒヤリハット発生の要因・背景	対応状況	助言・指導内容
2	鼻腔内吸引	介護職員が鼻腔より吸引中、 出血 した。	挿入時、鼻腔・咽頭部を傷つけた。	指導看護師により、鼻腔・口腔内より吸引し、出血した分（0.5cc程度）の吸引実施、吸引で血が引けなくなるを確認してもらう。その後、出血止まる。	鼻腔への吸引チューブの挿入角度の確認。チューブ挿入時顔が動いている場合は、無理に挿入しない。チューブ挿入に抵抗を感じた場合も、力まかせに奥へ押し込まない。
2	口腔内吸引	介護職員が口腔内の痰の吸引を行っていたところ、 吸引時間が長くなって しまい、むせ込みがみられた。	介護職員が吸引を10秒以上続けてしまった。	すぐに吸引を止めたところ、むせは治まった。	吸引物が思うよう引けなくても、10秒以上の吸引は苦痛であり、酸素濃度の低下、呼吸不全につながることの説明をした。
2	経管栄養（胃ろう等）	昼の 経管栄養開始前 にアイスマッサージを行うこととなっており、アイスマッサージを始めると、ハミングットに血が付着した。 口腔内を観察すると上顎の左右2箇所 に傷があるのを発見する。	口腔ケア、アイスマッサージを正しく行われていなかったことで、口腔内の粘膜を傷つけたと考えられる。	指導看護師に報告、口腔内の傷を診て頂く。止血されているため、経過観察となり、経管栄養開始となる。	講義内容を理解し観察眼があつての発見でしたので、本人は気づきの力がついて来たと嬉しく思います。
2	経管栄養（胃ろう等）	他の利用者との注入時間が重なっていたため、10分遅れで開始し、15分程たった時に 滴下速度が速い ことに気づいた。その際、利用者からの気分不良の訴えはなく、お腹の張りも感じられなかった。	他の利用者との注入開始時間も重なっており、焦って計算間違いをしてしまった。	滴下速度を一度普段の速度よりも遅めに調節して、様子観察を行った。	注入の滴下を計算間違いがあつたが、計算方法は理解できている。また、インシデントを起こったときの対処方法も説明した。また、業務を行いながらのため、インシデント・アクシデントにつながりやすいことも説明した。
2	経管栄養（胃ろう等）	白湯を注入する際、圧がかかっている、注入できなかったのに、その原因を確認せずに再度注入しようとしたために、 チューブが胃ろう部より外れて 、利用者の衣類が濡れてしまいました。	実際の利用者さんにケアするのが初めてで、経験不足のため異常に気づかず、原因を確認することなくケアを続けてしまったこと。	栄養剤注入直後で30分位は体を動かせない状態だったので、ご家族が着替えをして下さることになりました。	胃ろう注入部～シリンジ装置の一連の物品を直視下で十分観察しながらの施行。タオルを周りに準備する等、予めの備えへの配慮も必要だったかと思っています。

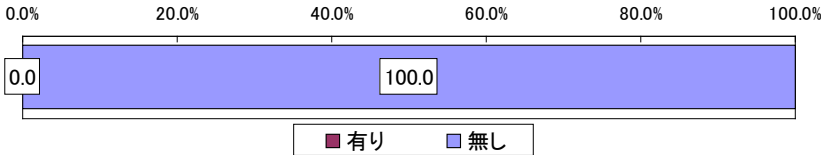
ヒヤリハット・アクシデント報告（実地研修）

- ヒヤリハット・アクシデント報告のうち「医師への報告」は1件(0.3%)、「看護職員に報告」が236件(74.7%)であった。
- 実地研修の期間中の報告で「救急救命処置の実施」はなかった。

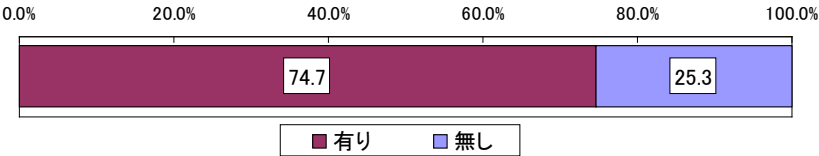
医師への報告 (n=316)



救急救命処置の実施 (n=316)

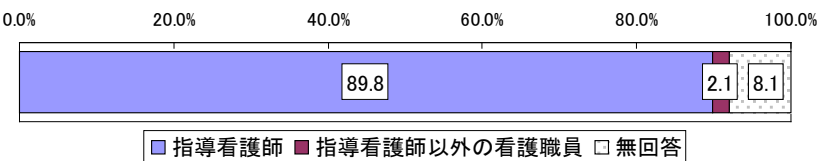


看護職員への報告 (n=316)

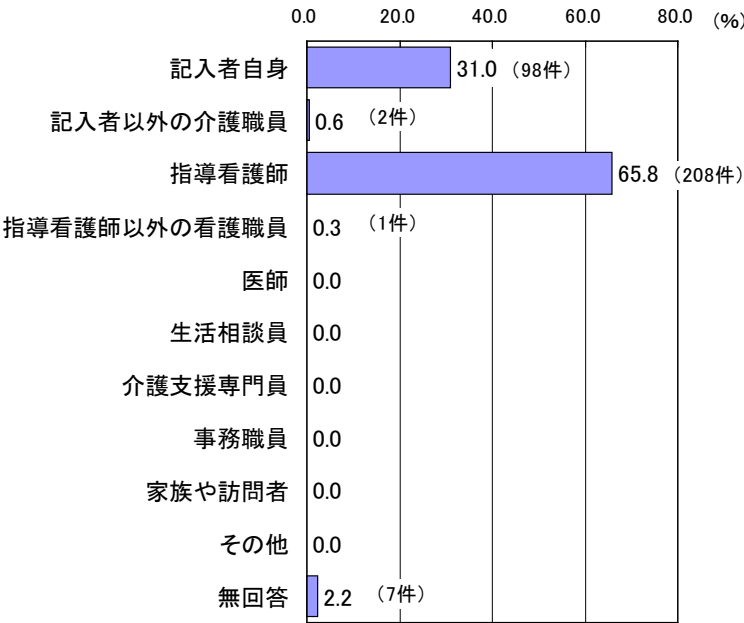


※看護職員への「報告無し」25.3% (80件)のうち68件は「第一発見者」が指導看護師であり、その他についても報告用紙に指導看護師の指導・助言コメントの記載がある。

看護職員の報告先 (n=236)



第一発見者 (n=316)



ケアの試行の実施概要

実施期間：平成23年3月28日(月)～5月17日(火)、(一部、5月25日(水)まで延長)

実施場所：試行事業への協力が得られた施設・居宅

「特別養護老人ホーム」「老人保健施設」「グループホーム」「有料老人ホーム」「障害児・者福祉施設」「居宅」等。

参加者数：介護職員119名(本委員会でケアの試行への進行が認められた者)

ケア対象者：329名

実施内容：

①実施するケア

- ・各介護職員について、実地研修の評価結果においてケアの試行で実施可能と判定されたケアについて、医師の指示の下にケア対象者に実施。

②連携看護職員による「ケアの試行」の立ち会いと指導・助言

- ・ケアの種類ごとに「ケア対象者の最初の3名×3回」については、連携看護職員が立ち会い、安全にケアの実施が行われるよう、介護職員に対する指導・助言を依頼。
- ・ケアの種類ごとに「ケア対象者の最初の3名×3回」については、介護職員に対し事業記録紙「Ⅲ.ケアの試行記録票」の記入を依頼し、立ち会った連携看護職員には、その際の指導・助言内容やヒヤリハット・アクシデント対応の状況等を同用紙に追加記入するよう依頼。
- ・また、連携看護職員の立ち会いがない場合でも、介護職員自身がヒヤリハット(含むアクシデント)に気付いた場合は、「Ⅲ.ケアの試行記録票」への記入を依頼。

③事業記録紙によるケア実施状況の記録

- ・ケアの試行の実施状況を把握するため、介護職員に対し、ケアの試行記録票(ケア実施の自己評価、ヒヤリハット・アクシデント報告と対応内容などの3種類の用紙の記入・提出を依頼。

④終了時アンケート

- ・ケアの試行への参加・協力者である介護職員、連携看護職員、医師、施設長・事業所長の4職種を対象に、終了時アンケートを実施。

ケアの試行の実施状況

○ケアの試行の実施状況

- ・ケアの試行の進行可判定者119人のうち、ケアの試行の実施者は88人(当初予定者119人の73.9%)であった。
- ・ケアの試行を中止した介護職員は31人で、その理由は、「対象者不在」23人、「震災(被災、応援対応)」6人、「その他」2人であった。
- ・実施期間は、1～51日間であり、平均値は20.9日(中央値21.0日)であった。

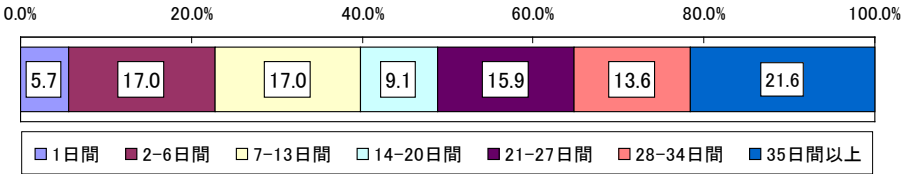
【ケアの試行】ケア試行実施状況

参加介護職員119人の内訳 (人)	
ケアの試行の実施	88
ケアの試行の中止	31
対象者不在	23
震災(被災、応援対応)	6
その他	2

【ケアの試行】ケアの実施日数

延実施日数(日)	平均値(日)	中央値(日)	最大値(日)	最小値(日)
1,838	20.9	21.0	51	1

【ケアの試行】ケア実施日数別の介護職員構成比 (n=88)



※実施日数は、ケア実施開始日から終了日までの日数

○ケア実施介護職員数とケア実施回数

- ・ケアの試行の実施介護職員数は、ケアの種類別に7人～69人で、「ケアの試行判定可」とされた介護職員数の約5割～7割台であった。
- ・全介護職員のケア実施回数の合計値は、「たんの吸引・口腔内」が957回で最も多く、「たんの吸引・人工呼吸器装着(気管カニューレ内部)」が66回で最も少なかった。
- ・介護職員の実施回数の平均値は、ケアの種類別に9.4回～13.9回で、中央値は4.0～9.0回であった。介護職員の実施回数は、全てのケアの合計で、2回～400回と幅があった。

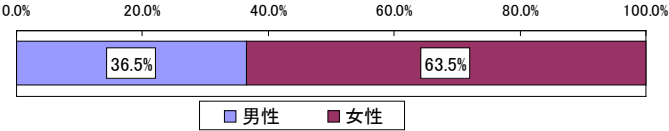
【ケアの試行】ケア実施介護職員数とケア実施回数

ケアの種類	介護職員数			ケア実施回数				
	①ケアの試行判定可(人)	②ケアの試行実施者(人)	③実施比率(②÷①×100)	全実施回数(回)	平均値(回)	中央値(回)	最大値(回)	最小値(回)
全体	119	88	73.9%	3,507	39.9	24.5	400	2
たんの吸引・口腔内	103	69	67.0%	957	13.9	9.0	135	1
たんの吸引・鼻腔内	96	63	65.6%	795	12.6	9.0	139	1
たんの吸引・気管カニューレ内部	33	26	78.8%	355	13.7	8.0	100	2
経管栄養・胃ろう・腸ろう	101	69	68.3%	893	12.9	9.0	83	1
経管栄養・経鼻	69	35	50.7%	441	12.6	7.0	88	2
たんの吸引・人工呼吸器装着(気管カニューレ内部)	9	7	77.8%	66	9.4	4.0	18	4

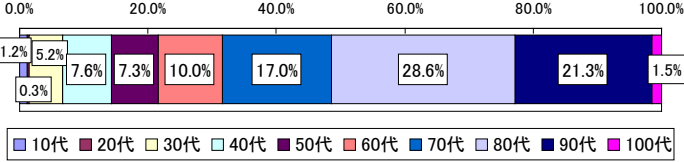
※「ケアの試行実施者」とは、期間中に1回以上のケアを実施した介護職員数。
※平均値算出に「実施0回」は含めていない。

ケアの試行の実施状況（ケア対象者の属性）

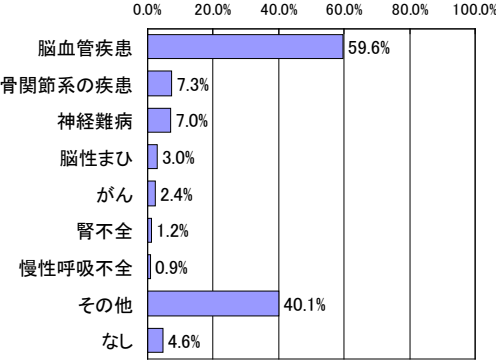
性別 (n=329)



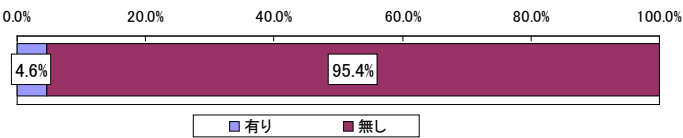
年齢構成 (n=329)



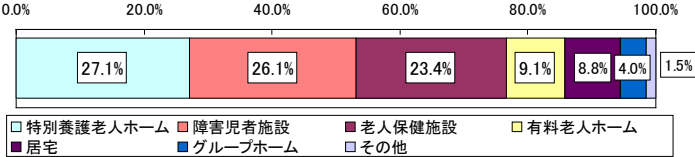
主な疾患(複数回答) (n=329)



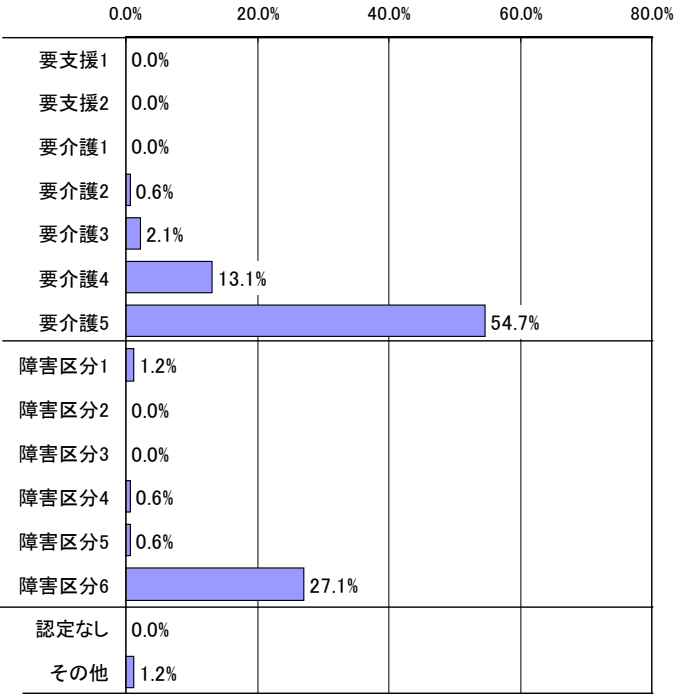
人工呼吸器装着の有無 (n=329)



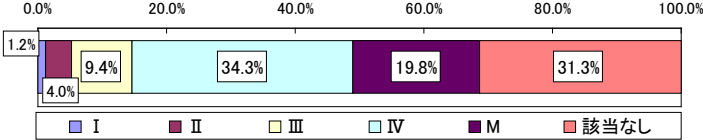
現在の居所 (n=329)



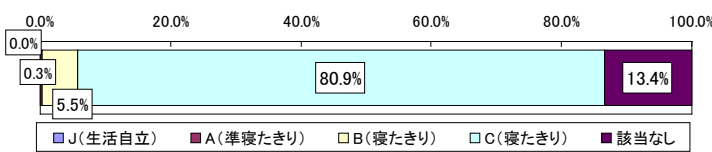
要介護度・障害程度区分(複数回答) (n=329)



認知症高齢者の日常生活自立度 (n=329)



障害高齢者の日常生活自立度 (n=329)

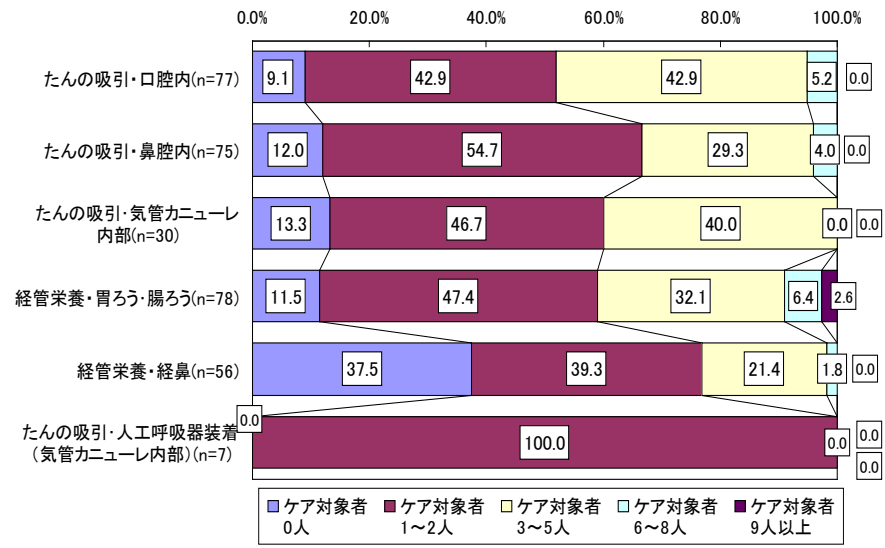


ケアの試行の実施状況

○ケア対象者別の介護職員数

- ・「ケア対象者1～2人」が最も多く、次いで「ケア対象者3～5人」であった。
- ・「ケア対象者0人」(ケア対象者を確保できなかった介護職員)は、たんの吸引・口腔内で9.1%であり、経管栄養・経鼻では37.5%であった。

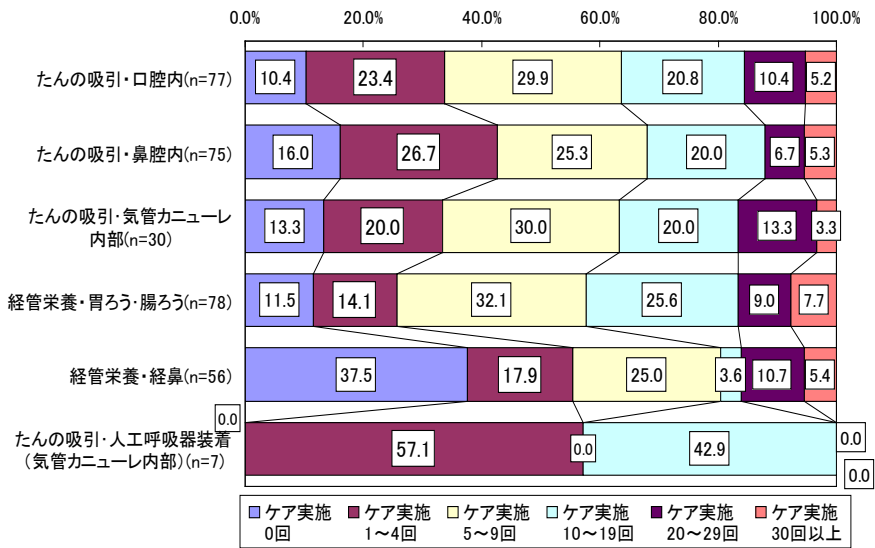
ケア対象者別の介護職員構成比



○ケア実施回数別の介護職員数

- ・経管栄養・経鼻とたんの吸引・人工呼吸器装着(気管カニューレ内部)を除くと、「ケア実施5～9回」が最も多かった。
- ・経管栄養・経鼻では、「ケア実施0回」が37.5%と最も多かった。
- ・たんの吸引・人工呼吸器装着(気管カニューレ内部)では、ケア実施介護職員が7人と少ないが、「ケア実施1～4回」が57.1%、「ケア実施10～19回」が42.9%であった。

ケア実施回数別の介護職員構成比



ヒヤリハット・アクシデント報告の報告状況（ケアの試行）

○実施したケアについての介護職員の自己評価（7段階）では、「まったく問題がなかった（すべて順調に行えた）」が92.7%（1,520件）で、約9割を占め、次いで「問題はなかったが、戸惑ったり手順を忘れそうになった」5.6%（91件）であった。

○「ヒヤリとしたり、ハットしたことがあったが、問題なく行えた」21件、「その場では問題なく終了したが、後で家族・介護職員・看護職員などから指摘されたことがあった」4件、「大きな問題にはならなかったが、ケア対象者の状態に変化が生じた」1件、「ケアの実施により問題が発生した」2件の合計28件については、ヒヤリハット・アクシデント報告として報告を分析した（次頁）。

※「ケアの試行記録票」の記入条件

①ケアの種類ごとに「最初3人×3回分の記入」及び「ヒヤリハット発生時の記入」を介護職員に依頼。

②①の基準以外に任意での提出を含め1,872件の記録票の提出があった。介護職員によって提出枚数に差がみられるため、介護職員別・ケアの種類別に、最初の9件までの記録票及びヒヤリハット・アクシデント報告に該当するものを集計した結果が下表の1,639件である。

【ケアの試行】記録票(抜粋)の記入件数		
ケアの種類	記入件数	構成比
全体	1,639	100.0
たんの吸引・口腔内	454	27.7
たんの吸引・鼻腔内	374	22.8
たんの吸引・気管カニューレ内部	145	8.8
経管栄養・胃ろう・腸ろう	449	27.4
経管栄養・経鼻	196	12.0
たんの吸引・人工呼吸器装着の気管カニューレ内部	21	1.3

【ケアの試行】
記入件数別の
介護職員数

記入件数	人数(人)
46	1
39	3
36	3
33	3
32	1
31	1
30	4
29	2
28	1
27	9
26	1
25	1
24	3
23	2
22	1
20	1
19	2
18	9
16	2
15	2
14	3
13	2
12	1
11	1
10	4
9	10
8	2
6	2
5	1
4	2
3	6
2	2
合計	88

【ケアの試行】記録票 実施ケア別の自己評価

上段:度数		Q1.実施したケアの自己評価						
下段:%	合計	1.まったく問題はなかった	2.問題はなかったが、戸惑ったり手順を忘れそうになったりした	3.ヒヤリとしたり、ハットしたことがあったが、問題なく行えた	4.その場では問題はなく終了したが、後で家族・看護職員・介護職員などから指摘されたことがあった	5.大きな問題にはならなかったが、ケア対象者の状態に変化が生じた	6.ケアの実施により問題が発生した	7.ケアの実施により重大な問題が発生した
実施したケアの種類	全体	1639 100.0	1520 92.7	91 5.6	21 1.3	4 0.2	1 0.1	2 0.1
	たんの吸引・口腔内	454 100.0	427 94.7	26 5.7	1 0.2	-	-	-
	たんの吸引・鼻腔内	374 100.0	351 93.9	16 4.3	6 1.6	1 0.3	-	-
	たんの吸引・気管カニューレ内部	145 100.0	136 93.8	7 4.8	-	2 1.4	-	-
	経管栄養・胃ろう・腸ろう	449 100.0	404 90.0	33 7.3	10 2.2	1 0.2	-	1 0.2
	経管栄養・経鼻	196 100.0	181 92.3	9 4.6	4 2.0	-	1 0.5	1 0.5
	たんの吸引・人工呼吸器装着の気管カニューレ内部	21 100.0	21 100.0	-	-	-	-	-

ヒヤリハット・アクシデント報告 影響度分類（ケアの試行）

○ケアの試行記録票で報告されたヒヤリハット28件について、

- ・影響度分類別では、「レベル1」46.4%（13件）と「レベル0」42.9%（12件）で、8割以上を占めた。
- ・「レベル2」は2件、「レベル3a」は1件であった。

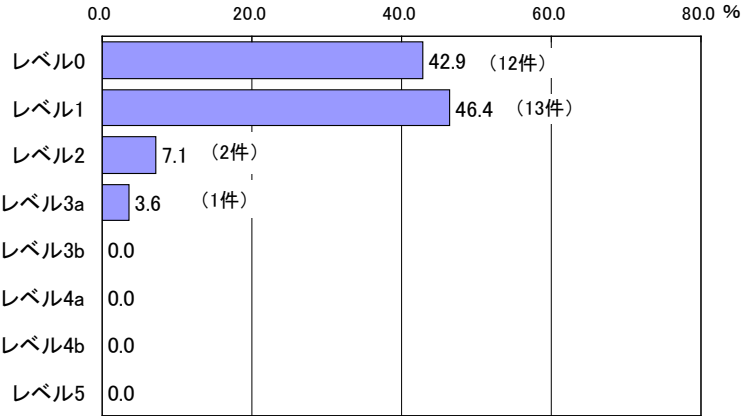
【ケアの試行】ヒヤリハット・アクシデント報告 記入件数

ケアの種類	ケア実施回数	HH記入件数	記入率
合計	3,507	28	0.8%
たんの吸引・口腔内	957	1	0.1%
たんの吸引・鼻腔内	795	7	0.9%
たんの吸引・気管カニューレ内部	355	2	0.6%
経管栄養・胃ろう・腸ろう	893	12	1.3%
経管栄養・経鼻	441	6	1.4%
たんの吸引・人工呼吸器装着の気管カニューレ内部	66	0	0.0%

【ケアの試行】ヒヤリハット・アクシデント報告記入件数別の
介護職員数

記入件数	人数(人)
4	2
2	5
1	10
合計	17

【ケアの試行】影響度分類別の割合（記入件数）（n=28）



【ケアの試行】ヒヤリハット・アクシデント報告 ケアの種類別の影響度分類

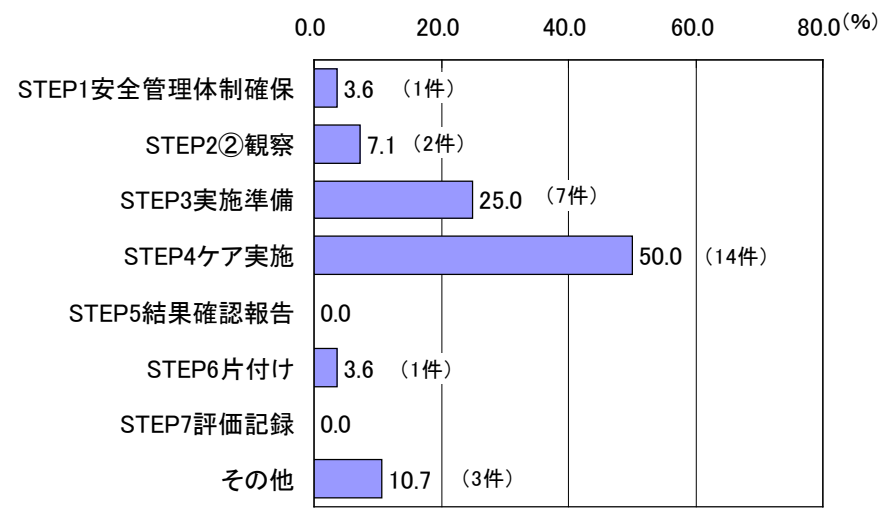
上段:度数 下段:%		出来事の影響度分類								
		合計	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4a	レベル4b	レベル5
実施したケアの種類	全体	28 100.0	12 42.9	13 46.4	2 7.1	1 3.6	-	-	-	-
	たんの吸引・口腔内	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-
	たんの吸引・鼻腔内	7 100.0	4 57.1	2 28.6	1 14.3	-	-	-	-	-
	たんの吸引・気管カニューレ内部	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-	-
	経管栄養・胃ろう・腸ろう	12 100.0	7 58.3	4 33.3	1 8.3	-	-	-	-	-
	経管栄養・経鼻	6 100.0	-	5 83.3	-	1 16.7	-	-	-	-
	たんの吸引・人工呼吸器装着の気管カニューレ内部	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-

ヒヤリハット・アクシデント報告 影響度分類（ケアの試行）

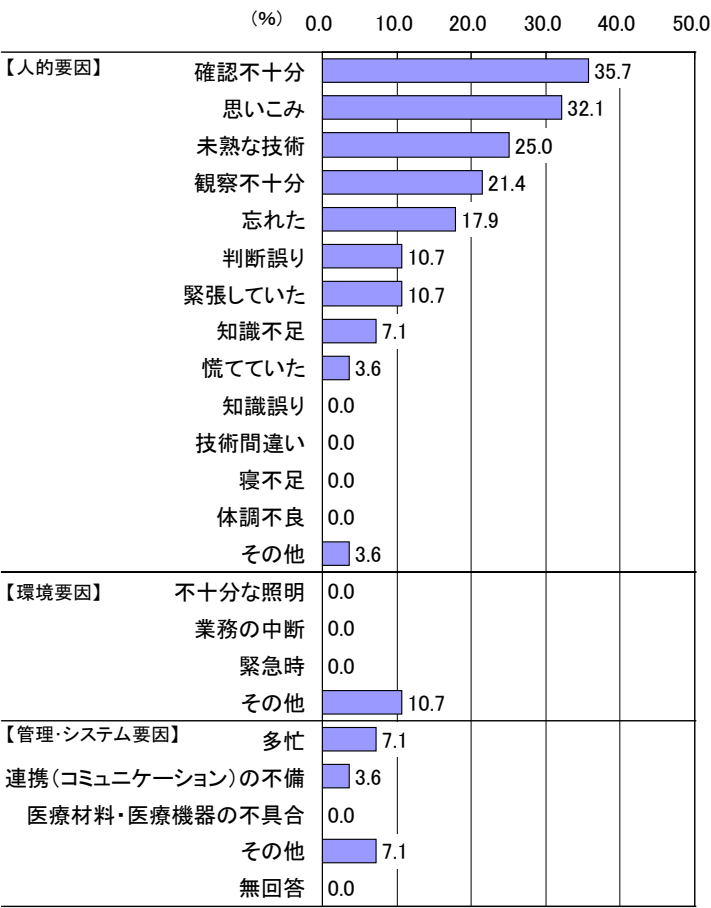
○ケアの試行記録票で報告されたヒヤリハット・アクシデント報告28件について、

- ・発生STEP別では、「STEP4ケア実施」が14件と半数を占めた。
- ・発生要因別では、「確認不十分」35.7%（10件）、「思いこみ」32.1%（9件）、「未熟な技術」25.0%（7件）、「観察不十分」21.4%（6件）の順で多かった。

【ケアの試行】発生STEP別記入件数(n=28)



【ケアの試行】出来事の発生要因(複数回答)(n=28)



事例の概要（レベル2以上）

影響度	ケアの種類	ヒヤリハットの発生の状況	ヒヤリハット発生の要因・背景	対応状況	助言・指導内容
3a	経管栄養（経鼻）	昼の経管栄養終了後30分程あとに、排便があった為ベッドに戻り オムツ交換中に嘔吐 あり。	経管栄養終了後のオムツ交換が嘔吐を誘発した。	連携看護職と他の看護師、私により、対応、連携看護師の指示で経鼻チューブを開放。嘔吐させ、止まった後、口腔内鼻腔内の吸引施行、嘔吐物の確認。	経管栄養終了時間の確認。経管栄養終了後の体位変換は、嘔吐を誘発するため注意が必要。ちっ息防止のため側臥位にし、胃の内容物の除去、さらなる嘔吐を防ぐため経管チューブを開放する。
2	鼻腔内吸引	鼻腔吸引でなかなか 吸引チューブが中に入らなかった 。	鼻に入れる角度が適切でなかった。	なかなか入らなかったので途中で中止した。	チューブ挿入時、あたった所で無理に挿入しない。
2	経管栄養（胃ろう等）	私がロック式のチューブを半周してロックし退室するも、ご本人様より「冷たい」とナースコール有。他介護スタッフが訪室すると ロックが外れ、もれて いた。	接続部が外れない事を確認したが、確認不十分だった為に外れてしまった。また、初めてのご入居者様で緊張していたことも原因である。	指導看護師が滴下を止め、安全確認後、ぬれた洋服をタオルではさみ、滴下開始した。	痩せのひどい方でPEGのシャフト長が長めで遊びが大きい為、本体ごとクルクルと動き易い。接続を回転させてロックするタイプなので、ルートのもきによってはPEGが回転し外れる可能性のルートの向きを安定させて下さい。

ケアの試行アンケート（介護職員）

○終了時アンケート(4職種別)の回収状況

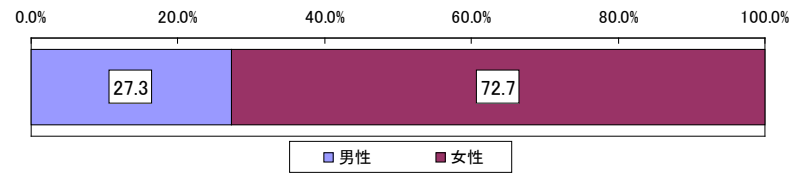
・回収率は介護職員100.0%、看護職員85.8%、医師58.9%、施設長・事業所長84.3%であった。(6月17日現在)

職種	依頼対象	回収数	回収率
介護職員	88	88	100.0%
連携看護職員	106	91	85.8%
医師	56	33	58.9%
施設長・事業所長	51	43	84.3%

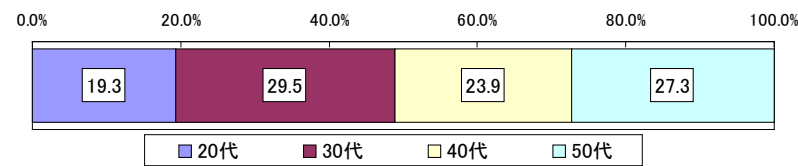
※ケアの試行の実施施設は51施設(訪問介護事業所10施設を含む)であった。

※連携看護職員及び医師の依頼対象数は、「施設長・事業所長票」の設問(ケアの試行の職種ごとの参加人数)の回答による。

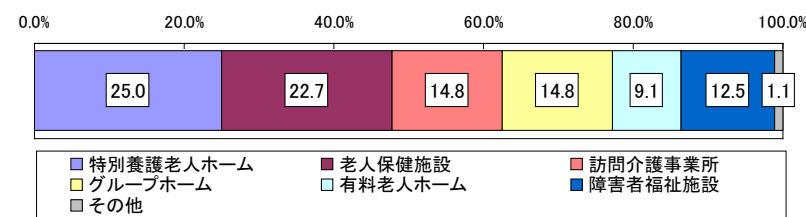
性別(介護職員) (n=88)



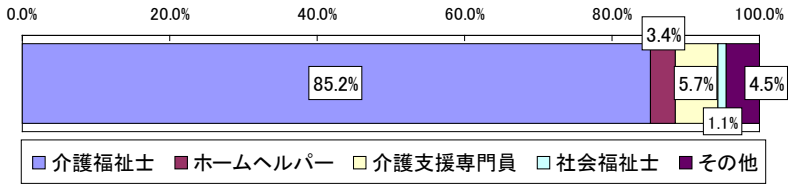
年齢(介護職員) (n=88)



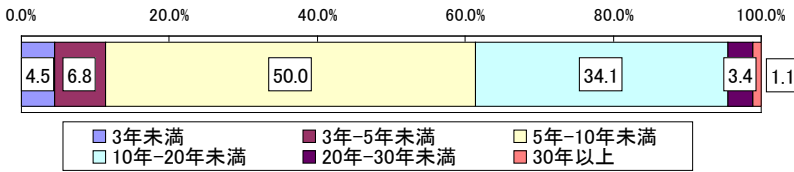
所属・勤務先(介護職員) (n=88)



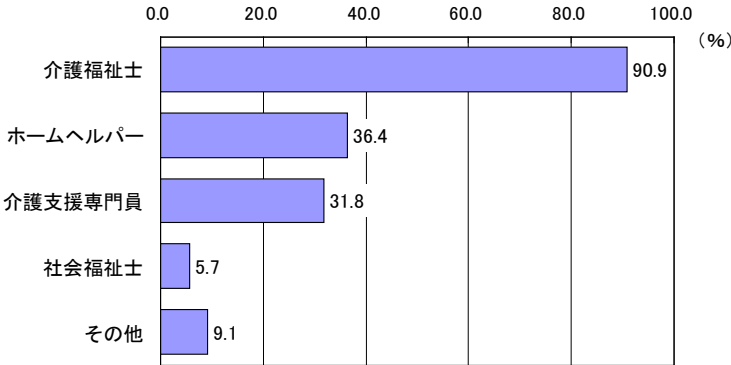
現職種(介護職員) (n=88)



現職種の経験年数(介護職員) (n=88)



保有資格(複数回答)(介護職員) (n=88)

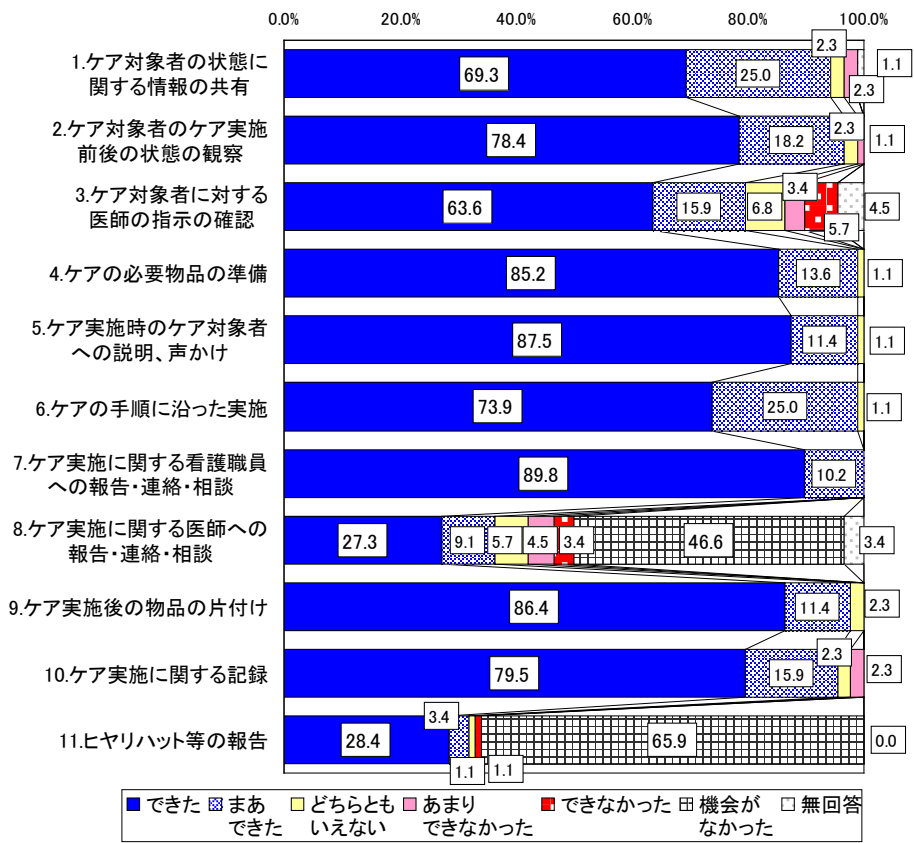


ケアの試行アンケート（介護職員）

○実施状況の評価

- ・ケアの試行において適切にケアを実施できたかどうかの質問に対して、「できた」及び「まあできた」が約8割以上であった。（「機会がなかった」の割合が高い2項目を除く）
- ・「ケア実施に関する医師への報告・連絡・相談」、「ヒヤリハット等の報告」の2項目には、選択肢として「機会がなかった」を設けたが、「機会がなかった」が46.6%、65.9%と高かった。

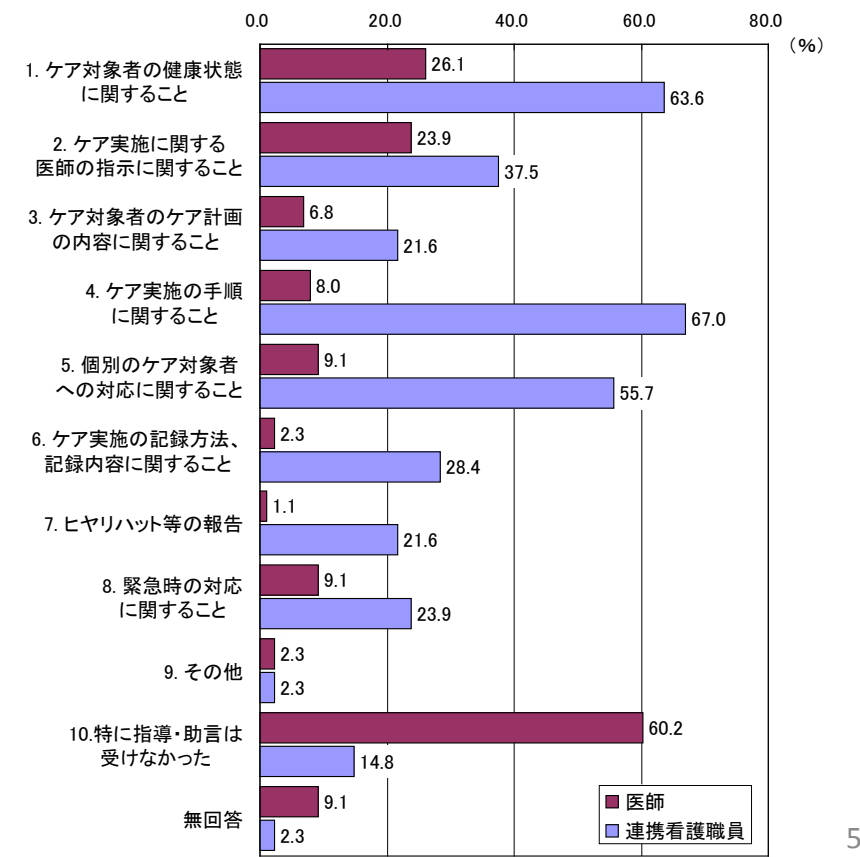
ケアの試行実施状況の評価(介護職員) (n=88)



○医師・連携看護職員からの指導・助言内容

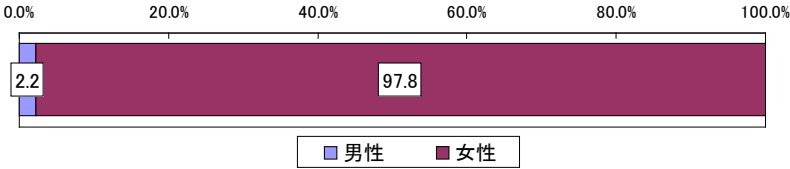
- ・医師からの指導・助言については、「ケア対象者の健康状態に関すること」、「ケア実施に関する医師の指示に関すること」が約2割ずつであった。
- ・連携看護職員からの指導・助言については、「ケア実施の手順に関すること」、「ケア対象者の健康状態に関すること」が約6割であった。

医師・連携看護職員からの指導・助言内容(介護職員) (n=88)

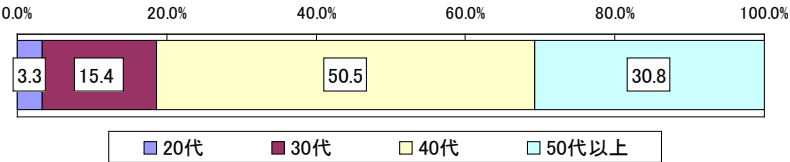


ケアの試行アンケート（連携看護職員）

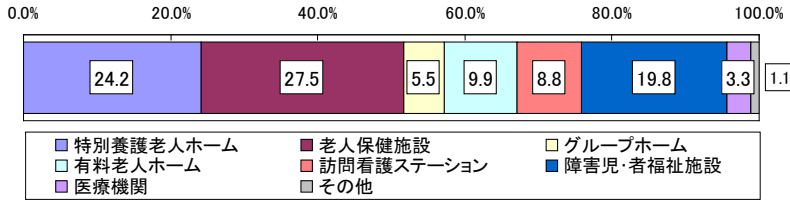
性別（連携看護職員）（n=91）



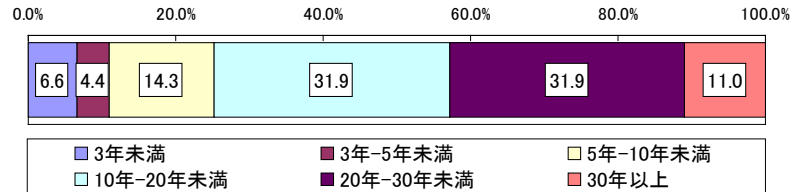
年齢（連携看護職員）（n=91）



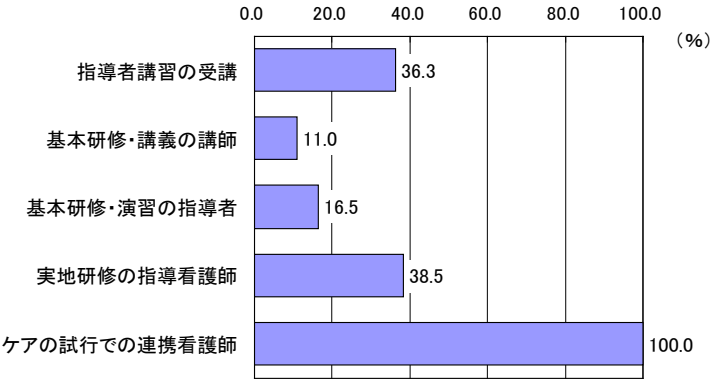
所属・勤務先（連携看護職員）（n=91）



現職種の経験年数（連携看護職員）（n=91）



試行事業の参加・協力状況（複数回答）（連携看護職員）（n=91）

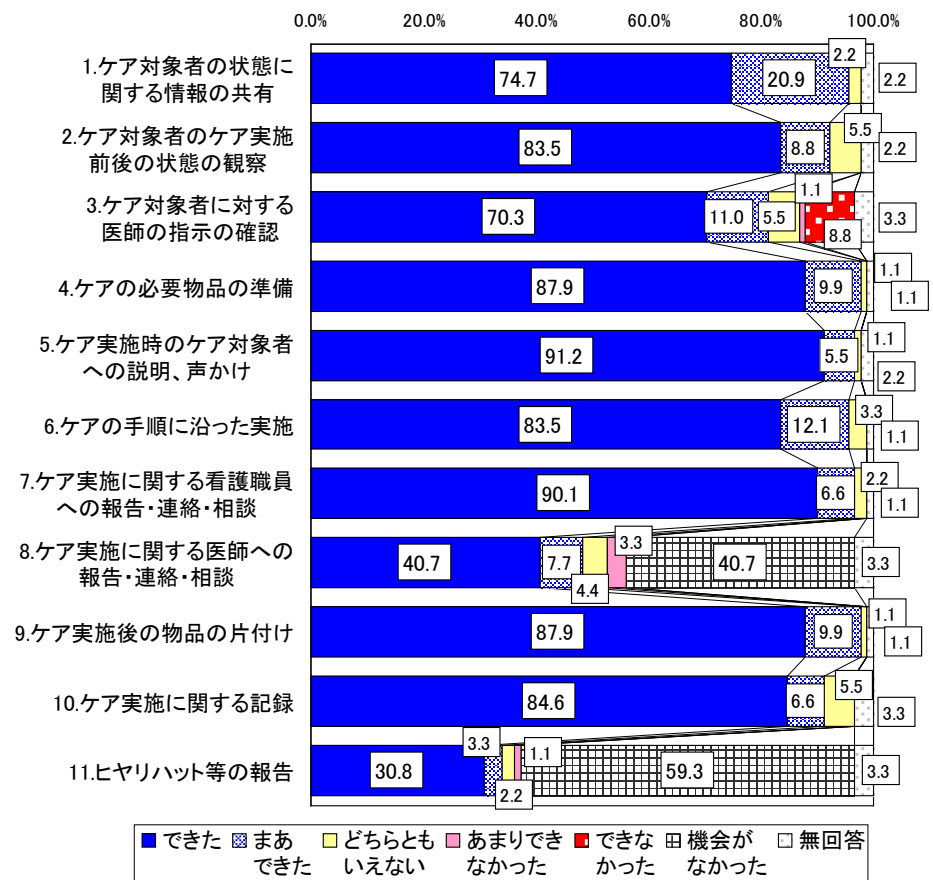


ケアの試行アンケート（連携看護職員）

○介護職員のケアの実施状況について

- ・ケアの試行において介護職員が適切にケアを実施できたかどうかの質問に対して「できた」及び「まあできた」が8割以上であった。（「機会がなかった」の割合が高い2項目を除く）
- ・「ケア実施に関する医師への報告・連絡・相談」、「ヒヤリハット等の報告」の2項目には、選択肢として「機会がなかった」を設けたが、「機会がなかった」が40.7%、59.3%と高かった。

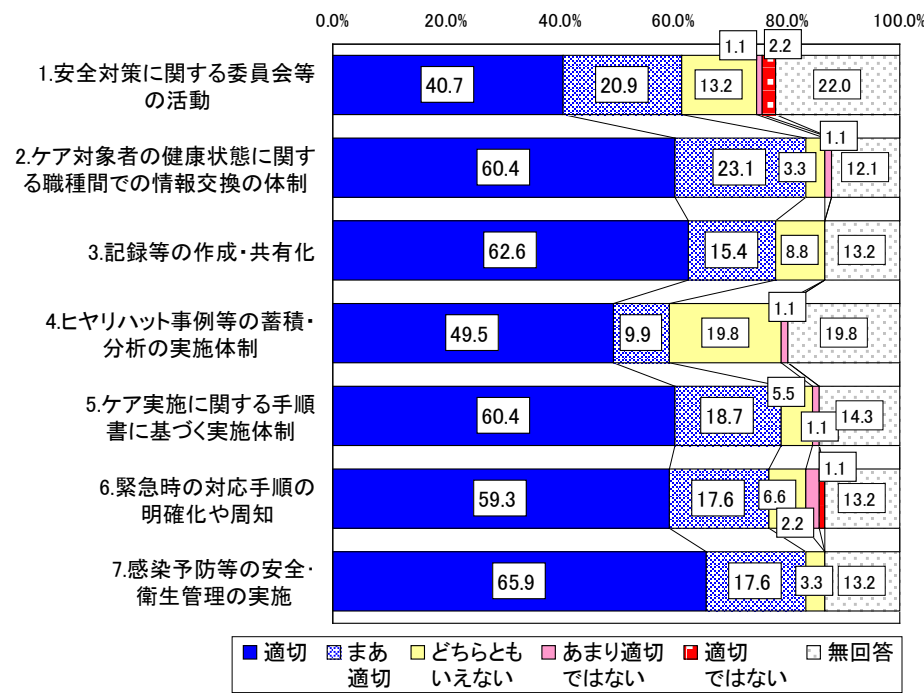
介護職員のケアの試行実施状況の評価(連携看護職員) (n=91)



○実施体制の評価について

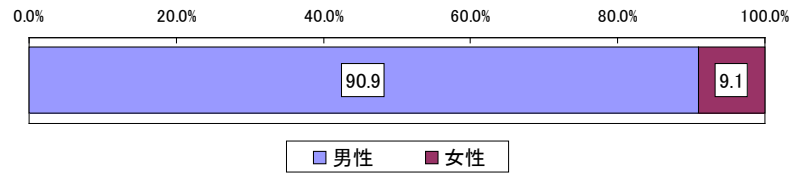
- ・「適切」及び「まあ適切」の割合が約6割以上であった。
- ・「適切」及び「まあ適切」の割合は、「ヒヤリハット事例等の蓄積・分析の実施体制」59.4%、「安全対策に関する委員会等の活動」61.6%で、他の項目に比べて低かった。

ケアの試行実施体制の評価(連携看護職員) (n=91)

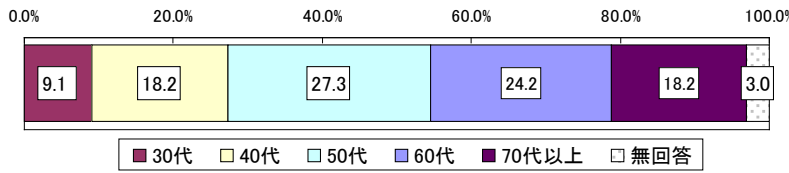


ケアの試行アンケート（医師）

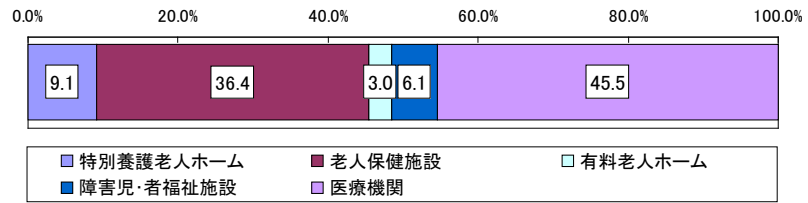
性別(医師) (n=33)



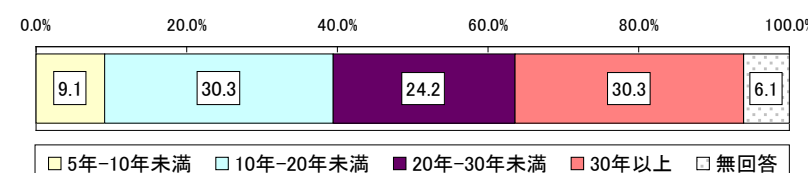
年齢(医師) (n=33)



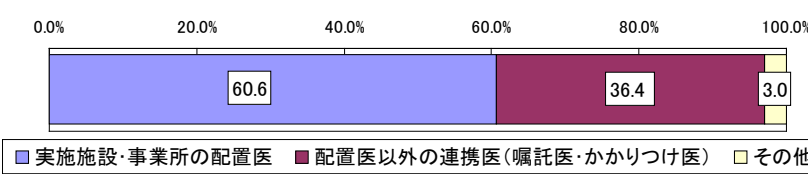
所属・勤務先(医師) (n=33)



現職種の経験年数(医師) (n=33)



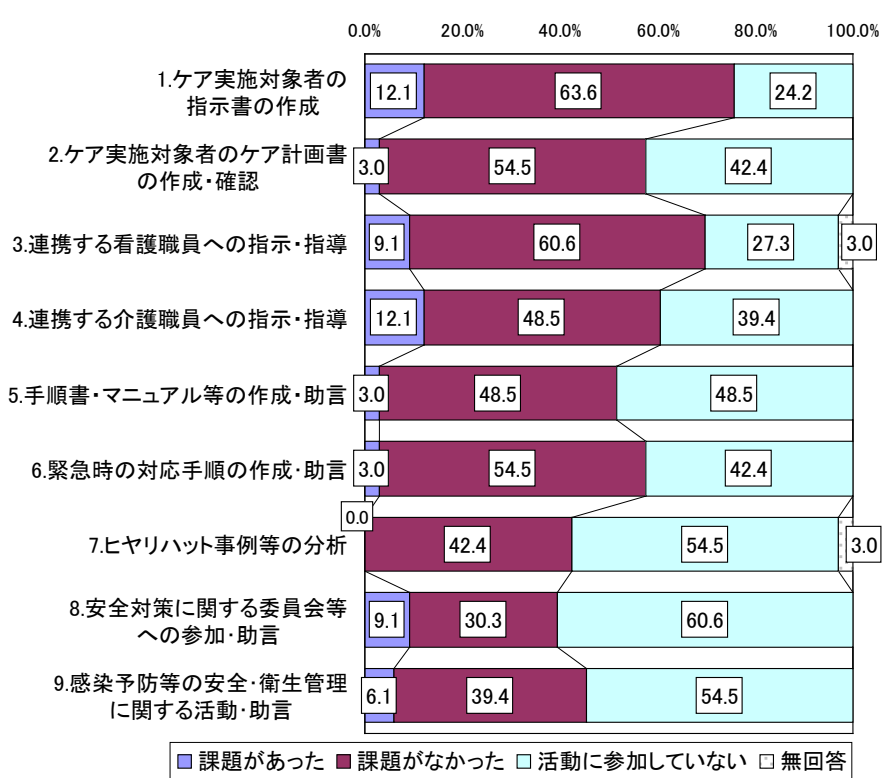
ケアの試行での立場(医師) (n=33)



○ケアの試行での課題について

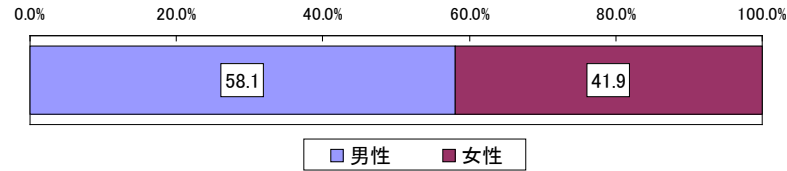
- ・「課題がなかった」は30.3%～63.6%であった。
- ・「活動に参加していない」は24.2%～60.6%であった。
- ・「課題があった」が多かったのは、「ケア実施対象者の指示書の作成」と「連携する介護職員への指示・指導」の12.1%であった。

ケアの試行での課題の有無と参加状況(医師) (n=33)

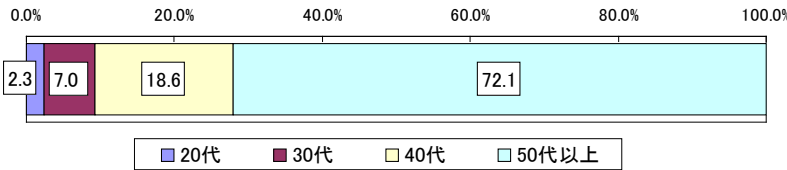


ケアの試行アンケート（施設長・事業所長）

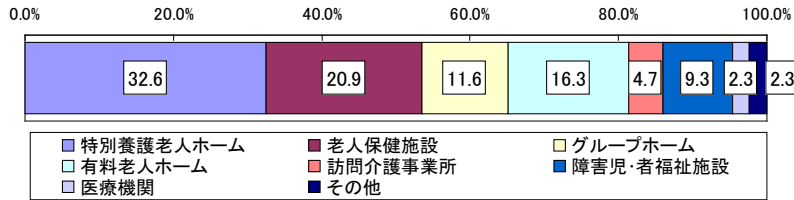
性別（施設長・事業所長）（n=43）



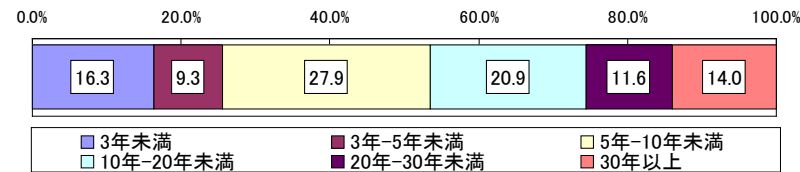
年齢（施設長・事業所長）（n=43）



所属・勤務先（施設長・事業所長）（n=43）



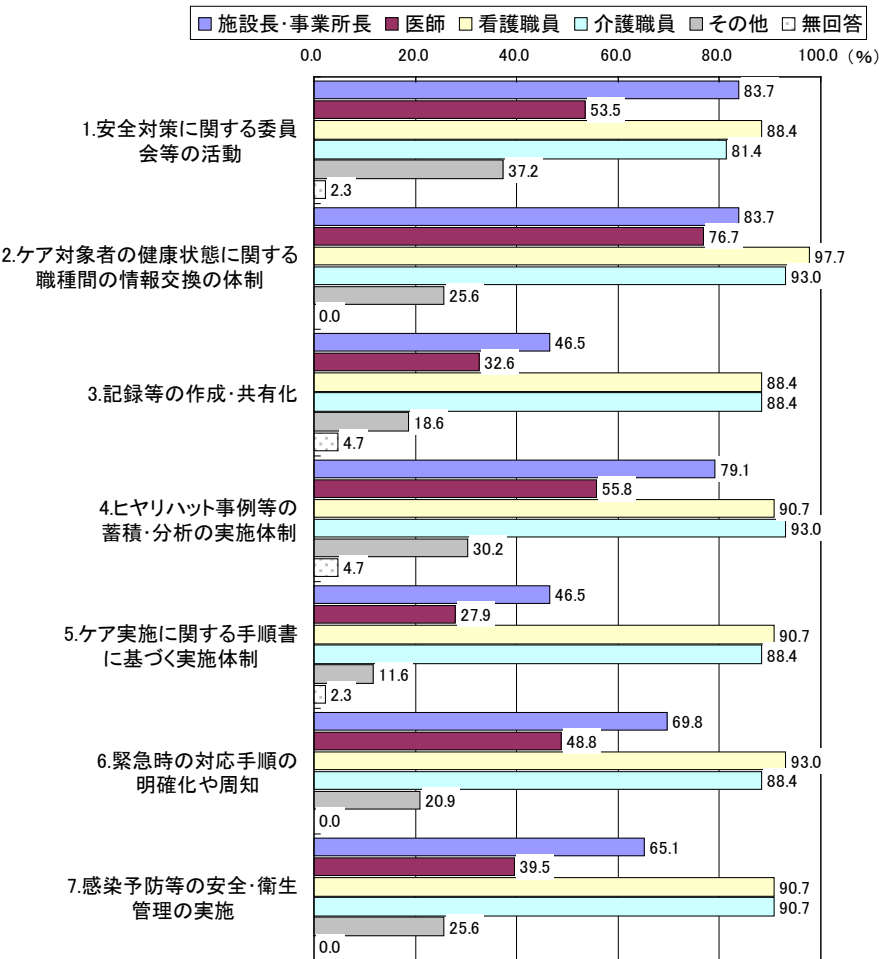
現職種の経験年数（施設長・事業所長）（n=43）



○ケアの試行の関与者（実施体制の準備や実施に関わった者）

- ・いずれの項目も看護職員、介護職員が関わっている割合が高かった。
- ・「記録等の作成・共有化」、「ケア実施に関する手順書に基づく実施体制」について、施設長、医師が関与している割合が他の項目に比べて低かった。

ケアの試行の関与者（施設長・事業所長）（n=43）

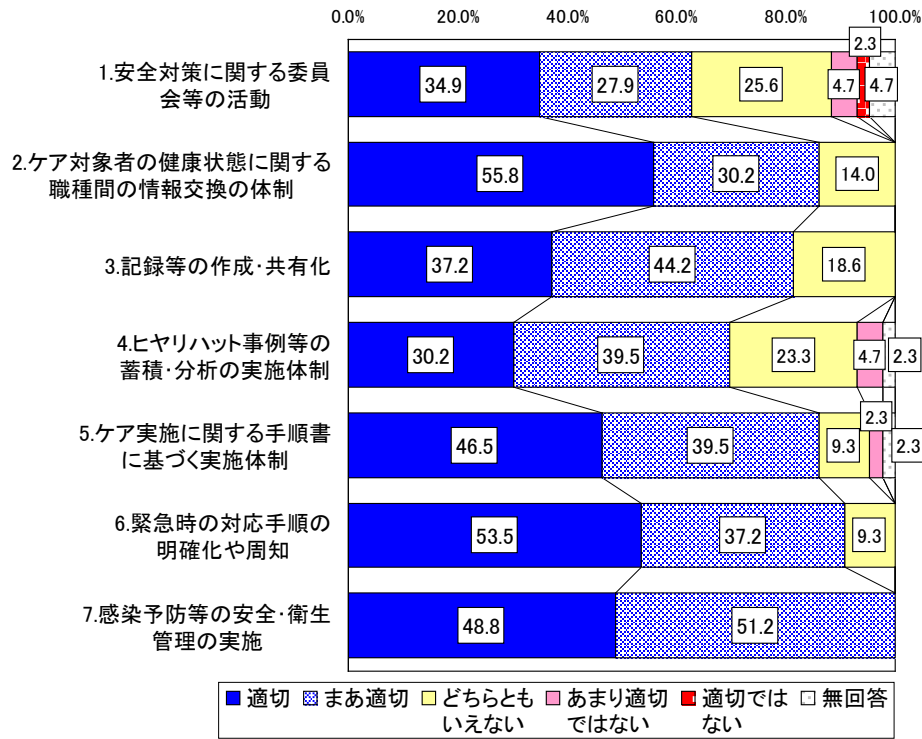


ケアの試行アンケート（施設長・事業所長）

○実施体制について

・実施体制の評価について、「適切」及び「まあ適切」の割合は、「安全対策に関する委員会等の活動」62.8%、「ヒヤリハット事例等の蓄積・分析の実施体制」69.7%で、他の項目に比べて低かった。

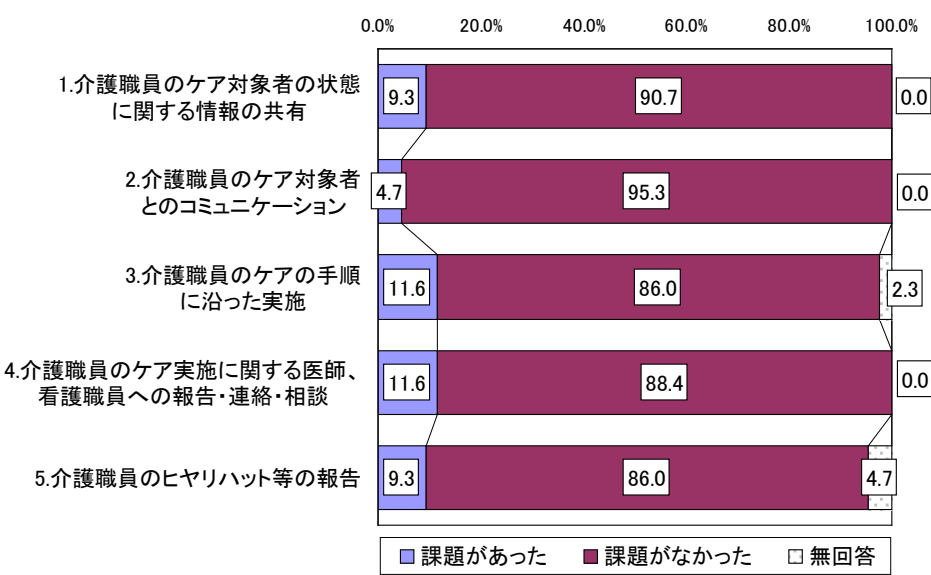
ケアの試行実施体制の評価（施設長・事業所長）（n=43）



○介護職員ケアの実施状況について

・介護職員のケアの実施状況について「課題がなかった」が各項目とも8割以上を占めた。

介護職員のケア実施について課題の有無（施設長・事業所長）（n=43）



介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修カリキュラム等策定に関する研究事業 平成23年度 第1回検討委員会 議論まとめ(平成23年6月16日)

1. 基本研修の講義内容・講義時間の妥当性について

【講義内容】

- カリキュラム内容の修正案は概ね適切である。
- テキストについては、全体的に図等を入れ分かりやすくする工夫を行うとともに、一部の講義（「個人の尊厳と自立」「チーム医療と介護職との連携」「滅菌と消毒」等）については、内容の充実、追加が必要であると考えられる。

【講義時間】

- 講義時間の50時間は妥当である。但し、実物等を活用してより実践的な内容とすべきである。
- 介護職員の基礎資格に応じた講義時間の調整は必要ないと考えられる。

2. 基本研修の演習回数の妥当性について

- 演習回数は各ケア項目5回以上が妥当である。

3. 実地研修の研修回数の妥当性について

- 安全性を確保するためには、口腔内10回、その他のケアの種類については20回が、最低限必要な回数であり、加えて単に所定回数を実施するだけでなく、各ケア項目において「3回以上の連続した成功」を要件とするべきである。

- ケアの試行に進行するための3条件については、さらに検討をする。

※試行事業における「ケアの試行」に進むための3条件

- ①当該ケアにおいて3回以上連続して成功したことがある。
- ②当該ケアにおいて最終的な累積成功率が70%以上である。
- ③当該ケアにおいて最終3回のケアの実施において不成功が1回もない。

- 今後、介護福祉士の養成カリキュラムにおいては、たんの吸引等を実際に行う者が安全に実施できるように、別途検討が必要ではないか。

介護職員によるたんの吸引等の試行事業に関する調査研究事業
平成23年度第1回評価委員会議論まとめ(平成23年6月9日)

1. 指導者講習会について

- 研修での講師・指導者となる医師、看護師には、教育経験のない者も含まれることから、研修での指導方法についての内容を充実させてはどうか。
- また、ケアの安全性確保の観点から、ヒヤリハット報告の意義や報告の実際についての内容を充実させてはどうか。
- 指導者講習の時間について、追加が必要であるとの意見が多かったことから、全体的な時間を追加する方向で見直してはどうか。

2. 基本研修及び実地研修での評価方法について

- 基本研修（講義）について筆記試験により知識の習得を確認し、基本研修（演習）及び実地研修についてケアのプロセス評価により技術の習得を確認した。ケアの試行までの実施状況から、これらの評価方法については、概ね妥当であったと考えられる。

3. ケアの実施体制について

- 施設・事業所の体制構築について、施設長、医師、看護師等の関係職種のそれぞれの役割に応じた関与を促す必要があるのではないか。
- 在宅においては、施設に比べ連携が多方面に渡ること等から、その特殊性を考慮した連携体制を検討する必要があるのではないか。
- ヒヤリハット等の報告については、必要な場合に適切に報告がなされるよう、具体的な報告例を示す等の対応が必要ではないか。